

川崎市におけるコロナ禍での
非正規シングル女性に対する影響調査
— アンケート調査報告書 —

令和 4(2022)年 3 月

川崎市男女共同参画センター(すくらむ 21)

目 次

第1章 調査の概要	2
第1節 背景と目的	2
(1) 背景	2
(2) 目的	4
第2節 ウェブ・アンケート調査の実施概要	5
第2章 ウェブ・アンケート調査結果	7
第1節 調査結果の概要	7
(1) 回答者のプロフィール	7
(2) コロナ禍での女性に対する影響	19
第2節 結果の考察	57
(1) 仕事への影響	57
(2) 生活への影響	57
(3) 心身の健康への影響	58
(4) 必要な支援のニーズと情報へのアクセス	59
第3章 課題の解決に向けて—非正規シングル女性への支援を考える—	60
第1節 検討委員による提言	60
第2節 男女共同参画センターでの事業への展開について	67
参考文献	71
資料	73

第1章 調査の概要

第1節 背景と目的

(1) 背景

① 非正規雇用の拡大と女性の非正規化

近年、非正規雇用で働く人の割合は男女ともに増加しているといわれている。実際に、総務省「労働力調査」(2021年)によると、2010年から2019年まで、男女ともに非正規の職員・従業員数は増加していることがわかる。2020年の年齢階級別非正規雇用労働者の割合をみると、男性は22.2%であるのに対し、女性は54.4%と、非正規雇用で働く女性の割合は高い(内閣府, 2021a, pp. 102)。

これまで、非正規雇用で働く女性は、主に、家計の補助として働く既婚女性のパート労働と思われてきた(江原, 2015, pp. 46-47)。江原(2015)はその背景に家計の主たる担い手は男性であるというジェンダー観・性別役割観の存在を指摘している。しかし、非正規雇用は配偶者のいない若年女性にも広がっている。23～34歳の配偶者のいない女性の就業状況をみると、正社員の割合は1988年の71%から2016年は57%に低下し、多くが「パート・アルバイト」「契約社員・派遣社員・嘱託社員・その他」などの非正規雇用に取って代わられている(永瀬, 2018, pp.24)。日本の労働市場において、安定した雇用が減少する時期と、女性の労働市場への参入が拡大した時期が重なったことにより、女性の非正規化が進んだ(宮本, 2015, pp.8)。川崎市の状況を雇用者に占める非正規雇用比率から見ると、川崎市では2017年時点で女性の51.4%が非正規雇用であった(川崎市男女共同参画センター, 2020)。また、年齢階級別に見ると、20～24歳では53.4%が非正規雇用であり、最も低い25～29歳でも28.5%と20代でも一定の割合の女性が非正規雇用で働いていることが分かる。その後は、年齢階級にあわせて非正規雇用比率も上昇し、最も高い55～59歳では72.3%になっている(川崎市男女共同参画センター, 2020)。

このような、非正規で働く女性のなかでも、無配偶女性の置かれている状況は特に不安定なものになっている。西村(2021, pp.3)は、現行の社会保障制度は「男性が主に働き、女性が家事・育児(家計補助の就労)を担う」という「男性稼ぎ主」モデルを前提に構築されている点を指摘している。有配偶の女性は、年金保険、医療保険など社会保障の面で、「夫の扶養家族という形で配慮」(永瀬, 2021, pp.190)されている。女性の非正規雇用者にとって、配偶者の有無が経済基盤を大きく異なったものになっている(永瀬, 2018, pp.23)。有配偶女性は本人の個人所得だけでなく、配偶者の収入で生計を立てているのと同時に、社会保障制度の面でも被扶養者として扱われている一方で、無配偶の女性たちは1人の収入で生計を立てるほかなく(永瀬, 2018, pp.23)、健康の問題や失業などのさまざまなリスクに対して脆弱で困窮に陥りやすいといわれている(西村, 2021, pp.3)。非正規雇用で働く女性は雇用が不安定であるという問題が存在する中、さらに無配偶の場合は

配偶関係を基盤とした社会保障制度の仕組みからも疎外されていることが多く、困難な状況に置かれていると考えられる。川崎市は、一般世帯に占める単独世帯の割合が45.7%で、全国と比べて単独世帯割合が高いという特徴がある（川崎市男女共同参画センター、2020）。男女別に見ると、女性の「20～24歳」の35.6%が単独世帯であり、年齢階級別で最も割合が高い（川崎市、2021a）。さらに、有業者の所得階級別構成では、女性では「100万円未満」が最も多く、「200～299万円」「100～199万円」と続いている（川崎市、2018）。あくまで有業者全体の結果であるため、雇用形態は明らかではないが、川崎市においても不安定な状況に置かれている女性の存在がうかがえる。

② コロナ禍での女性への影響

2020年初頭から続く新型コロナウイルス感染症の拡大は、非正規雇用で働く女性に特に影響を与えたといわれている。内閣府「令和3年度版男女共同参画白書」（2021年）によると、2020年4月と同年前月を比べたところ、就業者数は男女ともに減少しているが、男性が39万人の減少であるのに比べて、女性は70万人と大きく減少している（内閣府、2021a, pp.8）。これは非常事態宣言が発出された時期でもあり、非常事態宣言下での社会・経済活動が働く女性に影響を与えたと考えられる。

このような就業者数の減少は、非正規雇用で働く女性に特に現れているといわれており、その要因として、非正規で働く女性の割合の高い業種が大きな影響を受けた点が挙げられる（内閣府、2021b, pp.8-9）。産業別・男女別に非正規雇用労働者の雇用形態を見ると、「宿泊業、飲食サービス業」「卸売業、小売業」「生活関連サービス業、娯楽業」においてパートやアルバイトで働く人の割合が高く、その傾向は女性に特に高いことがわかる（厚生労働省、2021, pp.62）。川崎市においても「医療・福祉」が最も多く、「卸売業、小売業」「宿泊業、飲食サービス業」に女性が多くなっている（川崎市男女共同参画センター、2020）。

「就業者の増減を産業別に見ると、緊急事態宣言中の令和2（2020）年4月から5月の前年同月差の一月当たり平均」（内閣府、2021a, pp.8）は、女性は「飲食サービス業」が25万人減少、「生活関連サービス業、娯楽業」が17万人減少、「小売業」が15.5万人減少（内閣府、2021a, pp.8）と、女性の割合の高い業種で影響がみられ、非正規雇用で働く女性は、営業時間の短縮などにより、雇用に影響を受けやすい立場であったことがわかる。コロナ禍以前から女性の非正規雇用の比率は高く、非正社員は雇用調整の対象になりやすいことから、コロナ禍で女性の雇用機会が減少している（永濱、2022, pp.50）。

コロナ禍の影響は、仕事にとどまらず、非正規で働く女性の心身にも大きな影響を与えている。雇用形態別、年齢階級別にみた、2019年12月以前と比べた不安感の変化を見ると、全年齢で非正規雇用の方が、不安感が増大していると回答している（内閣府、2021a, pp.42）。特に20～39歳の非正規雇用者は、「生活の維持、収入」「仕事」について最も不安が増加しており、他の世代に比べて増加していることがわかる（内閣府、2021b, pp.10-11）。コロナ禍以前と比較した不安感の変化についての調査では、女性の不安感が

増加しており、特に 20 代の女性の不安感の増加がみられた（内閣府, 2021a, pp.41）。コロナ禍により非正規雇用の若い世代のなかで仕事や生活に関する不安感が広がっている様子がわかる。もともと不安定な雇用形態ゆえ、リスクに対して脆弱な非正規で働く女性がコロナ禍によって、より深刻な状況に置かれ、不安感が増大しているのではないだろうか。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、仕事や生活、心身のあらゆる面において、女性の受けた影響が大きいことがわかる。特に非正規雇用で働く女性はその不安定な雇用形態であることから、また、無配偶の女性は、配偶関係を前提とした社会保障の仕組みにより不利な状況に置かれていることから、正規雇用の女性や有配偶の女性よりも深刻な状況に置かれている。このような仕事への影響は気持ちの面にも大きな影響を与え、不安感の増大として現れている。

(2) 目的

川崎市では、女性の非正規雇用率が高く、若年女性の単独世帯が多い現状があるなかで、長期化する新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、川崎市で暮らす非正規雇用で働く無配偶の女性たちにどのような影響があり、どのような支援のニーズがあるのか、今後の事業開発に役立てるため、ウェブ・アンケート（モニター）調査を実施する。

川崎市で暮らす非正規雇用で働く無配偶の女性たちにとって新型コロナウイルス感染症の拡大が、雇用状態や勤務時間、収入などにどのような影響をもたらしたかを明らかにし、それによって生じた生活への影響（家事時間、育児・子育て時間、介護・看病の時間の変化等）や、気持ちの変化（心身の健康への影響）について把握する。

さらに、新型コロナウイルス感染症に関する支援制度についての認知度や利用状況について支援情報へのアクセスやどのような対処行動をとったのか、どのような支援ニーズを有しているかをウェブ・アンケート調査により明らかにすることで、今後の男女共同参画の推進に関わる事業を実施する際の基礎資料とし、地域の実情に合った支援につなげる一助とする目的で本調査を行う。

第2節 ウェブ・アンケート調査の実施概要

① 調査対象

川崎市在住の15歳～69歳のシングル女性

※本調査では、シングル女性について「無配偶（未婚・非婚・離婚・死別）の女性」と定義する。

※正規雇用で働く女性と非正規雇用で働く女性の状況を比較することで、特に非正規雇用で働く女性の置かれている状況や支援のニーズを明らかにすることを目的として設定した。

② 調査方法

インターネット調査会社に依頼し、モニターを対象にしたウェブ・アンケート調査を実施した。

③ 実施期間

2021年12月7日（火）～12月10日（金）

④ 調査項目

主な調査項目は、以下の通り。

◆回答者のプロフィール：

居住地域 / 年齢 / 就業状況 / 婚姻状況 / 最終学歴 / 住まい / 同居状況 / 介護や看病 / 子どもの有無

◆コロナ禍での仕事と生活への影響：

最も大変だった時期 / 家事・育児・介護時間の変化 / 初職 / 現在の仕事 / 就業年数 / 非正規での就業年数 / 業種 / 職種 / 個人年収 / 世帯年収 / コロナ禍での仕事への影響 / 収入・勤務時間の変化 / コロナ禍での家計への影響

◆コロナ禍での気持ちの変化：

仕事 / 健康 / 将来・老後 / 家族の介護や育児 / 家族・親族関係 / 職場の人間関係 / 心身の変化 / 家計のゆとり感

◆コロナ禍に関する支援と情報へのアクセス：

悩みや不安があるときの相談相手 / 生活や仕事の支援・制度の利用状況 / 支援を利用しなかった理由 / 支援のニーズ / 情報収集手段

※新型コロナウイルス感染症に関する支援制度についての認知度や利用状況について問う項目の中に国と川崎市の支援制度を記載することで、情報提供の機会とする。

⑤ 回答状況

回答者の内訳は、正規雇用が 300 人、非正規雇用が 306 人の合計 606 人。

⑥ 調査実施体制

ア 実施主体（調査の設計、統括、執筆（第 1 章、第 2 章、第 3 章第 2 節））

川崎市男女共同参画センター（担当：荒川泰輝、江天瑤、脇本靖子、納米恵美子）

イ 監修、執筆（第 3 章第 1 節）

日本女子大学人間社会学部 准教授 永井暁子

ウ オブザーバー

川崎市市民文化局人権・男女共同参画室

エ 検討会の開催

調査の設計、結果の分析等のため、調査監修者を迎え、検討会（全 2 回）を開催した。

第 1 回検討会 2021 年 10 月 27 日 第 2 回検討会 2022 年 2 月 14 日

オ ウェブ・アンケート（モニター）調査実施

株式会社クロス・マーケティング

⑦ 集計結果の見方

- ・「n」は、質問に対する回答者の母数で、比率算出の際の基数である。
- ・「SA」は、質問への回答数を 1 つのみに設定した設問（Single Answer の略）。
- ・「MA」は、質問に対し回答を複数選択することができる質問（Multiple Answers の略）。
MA の場合、回答数を回答者数（n）で割った比率の値が 100% を超えることがある。
- ・集計表の数値（%）は、小数点以下第 2 位を四捨五入しており、内訳の個々の数値と合算した場合の数値とは必ずしも一致しない。
- ・グラフは、必要に応じて数値の高い順に並べて掲載している場合があり、必ず質問紙の順番とは一致しない。
- ・報告書内の質問の掲載順は巻末の質問票の掲載順と必ずしも一致しない。
- ・正規雇用は「正規」、非正規雇用は「非正規」と略している。

なお、本調査は、インターネット調査会社のモニターを対象にした調査であるため、調査結果について、回答者に偏りがあることに留意する必要がある。

第2章 ウェブ・アンケートの調査結果

第1節 調査結果の概要（正規・非正規別）

（1）回答者のプロフィール

① 居住区：国勢調査結果と大きな違いは見られない。

Q1 あなた自身のことについて伺います。

Q1_1 お住まいの区をお答えください。(SA)

本調査の正規・非正規別居住区の人口分布を見ると、非正規で最も多かったのは多摩区 20.3%、正規で最も多かったのは中原区で 22% だった。本調査の全体で最も多かったのは中原区で、それは国勢調査と同様である。国勢調査で人口が最も少ないのが幸区で 11.1%であったが、本調査の全体を見ると幸区と麻生区が最も少なく 9.2%だった。

図表 1 居住区別分布（正規・非正規別）

			(%)						
			川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
n=									
就業形態	正規	300	15.7	10.0	22.0	19.3	9.3	15.3	8.3
	非正規	306	15.7	8.5	16.3	14.1	15.0	20.3	10.1

図表 2 居住区別人口分布（国勢調査）

			(%)						
			川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
n=									
就業形態	国勢調査	762,490	14.1	11.1	17.0	15.5	15.8	14.3	12.2
	本調査	606	15.7	9.2	19.1	16.7	12.2	17.8	9.2

川崎市「令和2年国勢調査結果（確定値）概要」より作成

② 年齢：非正規の平均年齢は 44.2 歳、正規の平均年齢は 37.5 歳

Q1_4 あなたの年齢をお答えください。

年齢階級別で見ると、非正規で最も多かったのは 40 代で 25.2%、次いで 50 代が 22.9%、30 代が 18.0% だった。正規で最も多かったのは 30 代で 34.0%、次いで 20 代が 28.0%、40 代が 19.3% だった。

非正規は 40 代以上が 6 割以上を占めているのに対し、正規は 20 代と 30 代で 6 割を占めている。

図表 3 年齢階級別分布（正規・非正規別）

									(%)
n=			20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	平均(歳)
就業形態	正規	300							37.5
	非正規	306							44.2

③ 婚姻状況：「結婚・事実婚をしたことがない」者の割合は正規の方が高く、「離別」した者の割合は非正規の方が高い。

Q1_3 現在の婚姻状況について、当てはまるものを 1 つお答えください。(SA)

「結婚・事実婚をしたことがない」者の割合は非正規が 69.3%、正規が 88.0% だった。一方、「離別」した者の割合は非正規が 25.5%、正規が 11.0% だった。

図表 4 婚姻状況別分布（正規・非正規別）

							(%)
n=			結婚・事実婚をしたことがない	離別	死別	既婚	
就業形態	正規	300					11.0 1.0
	非正規	306					25.5 5.2

④ 最終学歴：正規の方が、最終学歴が高い傾向がある。

Q1_5 あなたの最終学歴をお答えください。(SA)

非正規で「大学卒業」の割合は 31.0%、次いで「高校卒業」が 27.8%、「短大・高専卒業」が 22.9%の順だった。正規で「大学卒業」は 56.3%、次いで「短大・高専卒業」が 17.0%、「高校卒業」が 13.0%の順だった。

図表 5 最終学歴別分布（正規・非正規別）

			(%)										
			中学校 卒業	高校 卒業	高校 中退	短大・ 高専卒業	短大・ 高専中退	大学 卒業	大学 中退	大学院 修了	大学院 中退	その他	在学中
n=													
就業形態	正規	300	1.0	13.0	17.0	1.3		56.3				7.3	0.7
	非正規	306	1.6	27.8		1.0	22.9	1.6		31.0		1.3	2.3

⑤ 居住費：居住費を全額自己負担している割合は正規のほうが高い。

Q1_2 現在のお住まいについて伺います。あなたのお住まいにかかる費用について、当
てはまるものを 1 つお答えください。(SA)

居住費全額を自分が負担している（「持ち家（自分が全額負担）」と「賃貸住宅（自分が全額負担）」の合計）割合は非正規が 45.7%、正規が 61.3%で、正規のほうが高かった。

図表 6 居住費の負担状況（正規・非正規別）

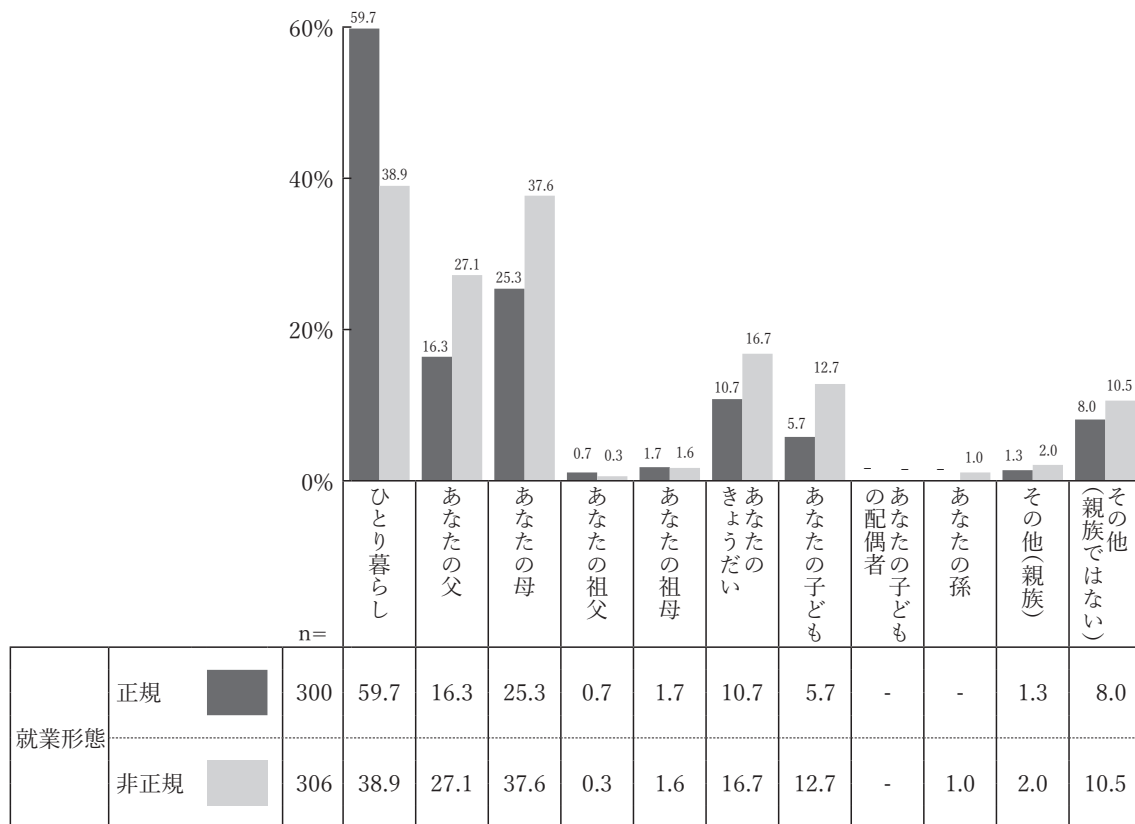
			(%)						
			持ち家(自分 が全額負担)	持ち家(自分 が一部負担)	持ち家(家族 が全額負担)	賃貸住宅(自分 が全額負担)	賃貸住宅(自分 が一部負担)	賃貸住宅(家族 が全額負担)	その他
n=									
就業形態	正規	300	13.0	3.3	16.0	48.3		13.7	0.7
	非正規	306	12.7	6.5	30.1	33.0		9.8	1.0

⑥ 同居家族：「ひとり暮らし」をしている者の割合は正規のほうが高い。

Q1_6 あなたが現在同居している方をすべてお答えください。(MA)

「ひとり暮らし」の者の割合は非正規が 38.9%、正規が 59.7%で正規のほうが高かった。一方、父・母・きょうだい・子どもと同居する割合はいずれも非正規のほうが高かった。非正規で、父や母と同居する割合は特に高く、母と同居する割合は 37.6%、父と同居する割合は 27.1% だった。

図表 7 同居状況（正規・非正規別）



⑦ 父親の就労状況：非正規の父が正規就労している割合は、正規の父が正規就労している割合の半分以下

Q1_7_1 同居している父親の就労状態について、当てはまるものを1つお答えください。(SA)

父と同居している者に関して、父の就労状況には非正規と正規で大きな違いがみられた。非正規では、同居している父が「就労している（正社員・正職員）」割合は32.5%だったが、正規では71.4%と非正規の倍以上だった。一方、非正規では同居している父が「就労している（パート・アルバイト、契約・嘱託、派遣社員、業務請負）」割合は30.1%だったが、正規では6.1%と非正規の約5分の1だった。父が「就労していない」割合についても差があり、非正規では30.1%だったが、正規では18.4%だった。

図表 8 父親の就労状況（正規・非正規別）(%)

n=			就労している (正社員・正職員)	就労している (パート・アルバイト、 契約・嘱託、派遣社員、 業務請負)	就労している (自営業・家族従業)	就労していない	その他
就業形態	正規	49	71.4			6.1	2.0
	非正規	83	32.5	30.1	7.2	30.1	

⑧ 母の就労状況：非正規の母が正規就労している割合は、正規の母が正規就労している割合の約 5 分の 1

Q1_7_2同居している母親の就労状態について、当てはまるものを1つお答えください。(SA)

母と同居している者に関して、母の就労状況に関しても非正規と正規で働き方に大きな違いがみられた。非正規では同居している母が「就労している（正社員・正職員）」割合は 5.2% だったが、正規では 25.0% だった。一方、非正規で同居している母が「就労している（パート・アルバイト、契約・嘱託、派遣社員、業務請負）」割合は 47.8% だったが、正規では 34.2% と、非正規のほうが 10 ポイント以上高かった。

図表 9 母親の就労状況（正規・非正規別）

(%)

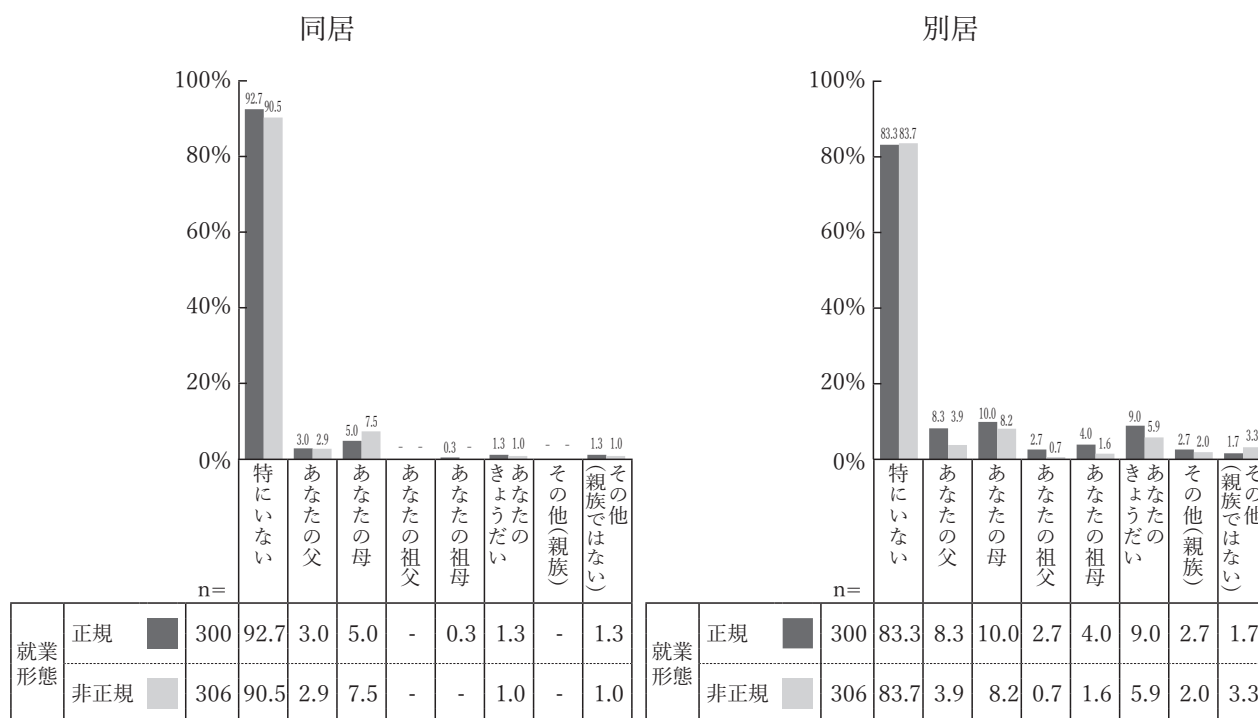
n=			就労している (正社員・正職員)	就労している (パート・アルバイト、 契約・嘱託、派遣 社員、業務請負)	就労している (自営業・家族従業)	就労していない	その他
就業形態	正規	76	25.0	34.2	1.3	39.5	
	非正規	115	5.2	47.8	5.2	41.7	

⑨ 介護・看病している家族の有無：正規と非正規で大きな差異はない。

Q1_8 現在あなたが介護や看病をしている家族はいますか？当てはまるものをすべてお答えください。(MA)

介護・看病している家族の有無については、同居、別居を問わず、非正規と正規で大きな差は見られなかった。

図表 10 介護や看病の状況（正規・非正規別）

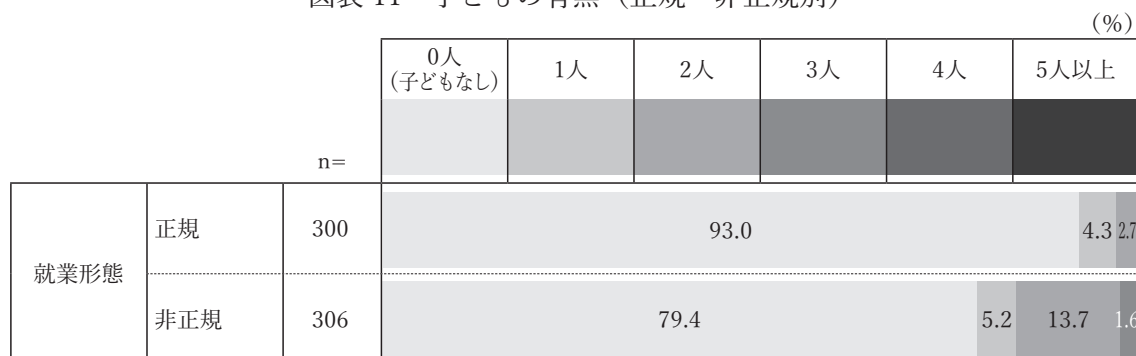


⑩ 子どもの有無：非正規の方が、子どもがいる者の割合が高い。

Q1_9 お子さんについて伺います。お子さんは何人いらっしゃいますか？ (SA)

非正規、正規ともに、子どもがいない者の割合がそれぞれ 79.4%、93.0%と高かったが、子どもがいる割合は、非正規は 20.6%、正規は 7.0%で非正規のほうが約 3 倍多かった。

図表 11 子どもの有無（正規・非正規別）



ア 子どもの同居状況：非正規では同別居に大きな差異はない。

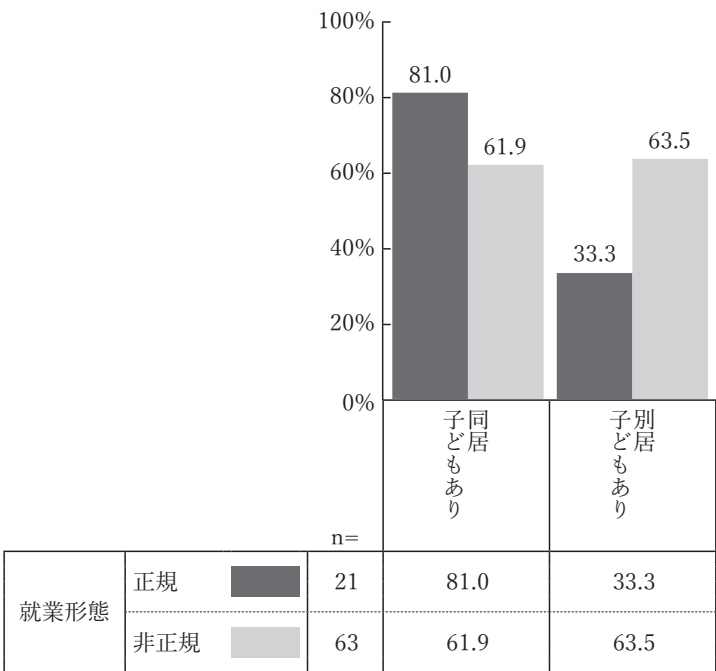
Q1_10 お子さんについて伺います。

Q1_10_1 同別居についてお答えください。(MA)

非正規で「同居している子どもあり」の割合は 61.9%、「別居している子どもあり」の割合は 63.5%だった。なお、正規については子どもがいる者の数が 21 人とサンプル数が少ないため、参考値として扱う。

以下、n=30 未満の場合には同様の扱いとし、分析は省略する。

図表 12 子どもとの同居状況（正規・非正規別）



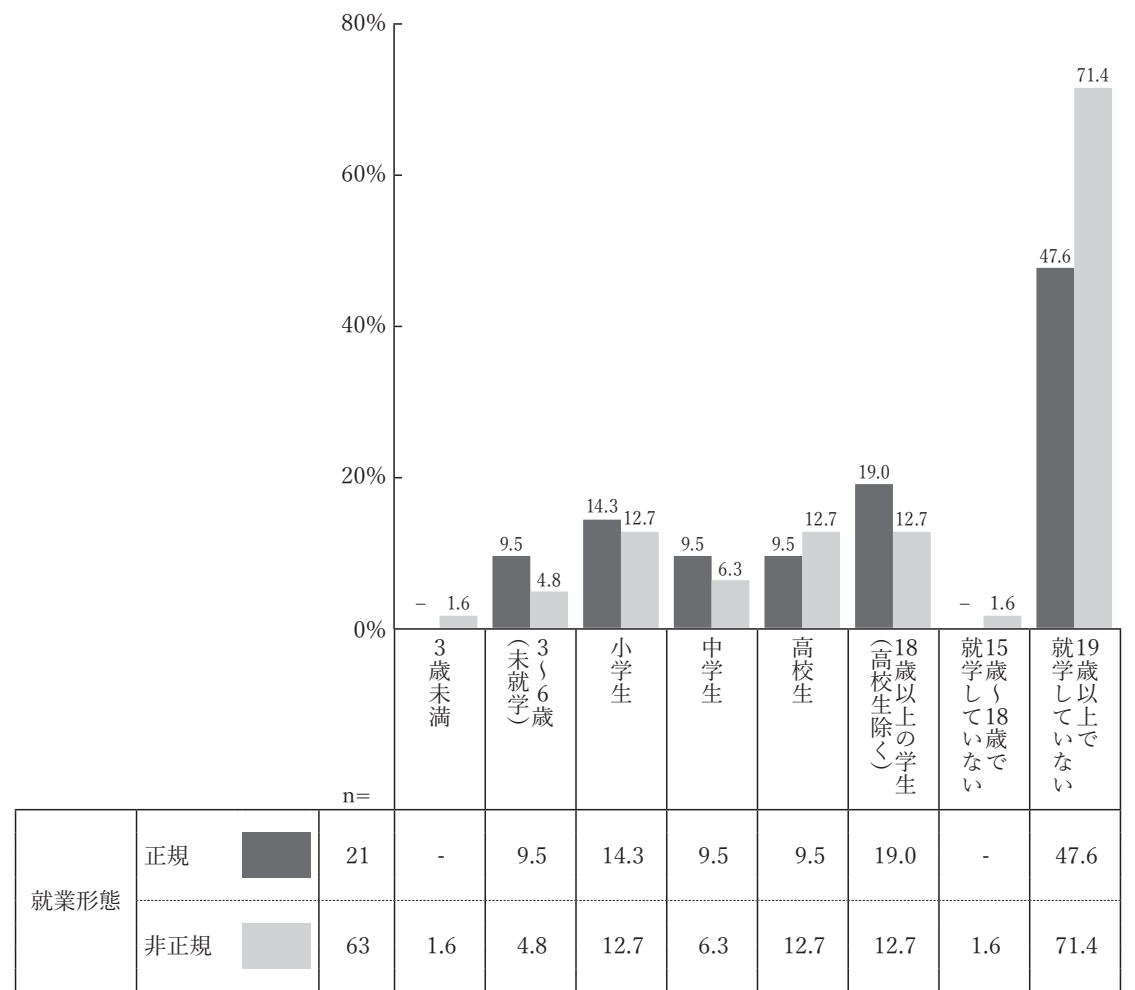
※n=30未満は参考値

イ 子どもの年齢：非正規では「19 歳以上で就学していない」が多い。

Q1_10_1_2 子の年齢についてお答えください。(MA)

子どもがいると答えた者について、子どもの就学状況を見ると、非正規で、子どもが「19 歳以上で就学していない」割合は 71.4%と高かった。

図表 13 子どもの年齢（正規・非正規別）



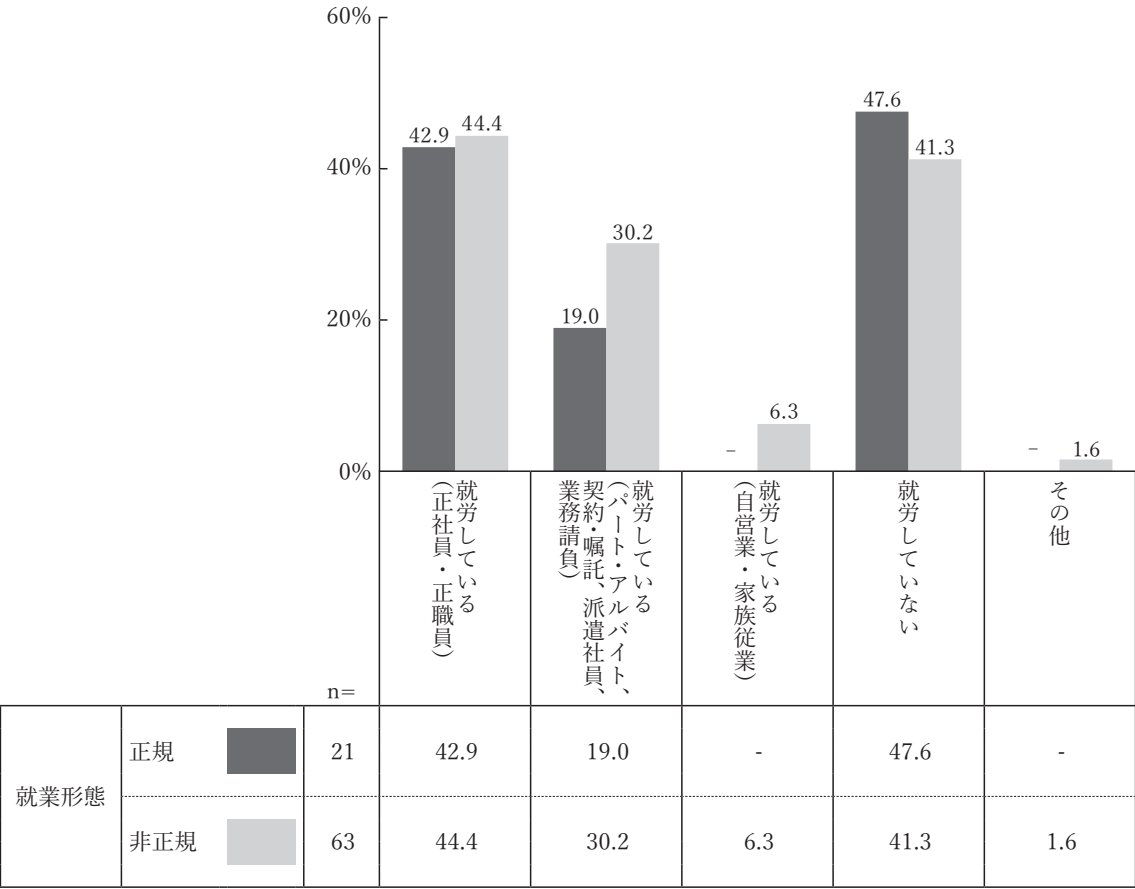
※n=30未満は参考値

ウ 子どもの就労状況：非正規では「就労している（正社員・正職員）」「就労していない」が多い。

Q1_10_1_3 就労についてお答えください。(MA)

子どもがいると答えた者について、子どもの就労状況を見ると、非正規で、子どもが「就労している（正社員・正職員）」割合は 44.4%、「就労していない」割合は 41.3%、「就労している（パート・アルバイト、契約・嘱託、派遣社員、業務請負）」割合は 30.2%だった。

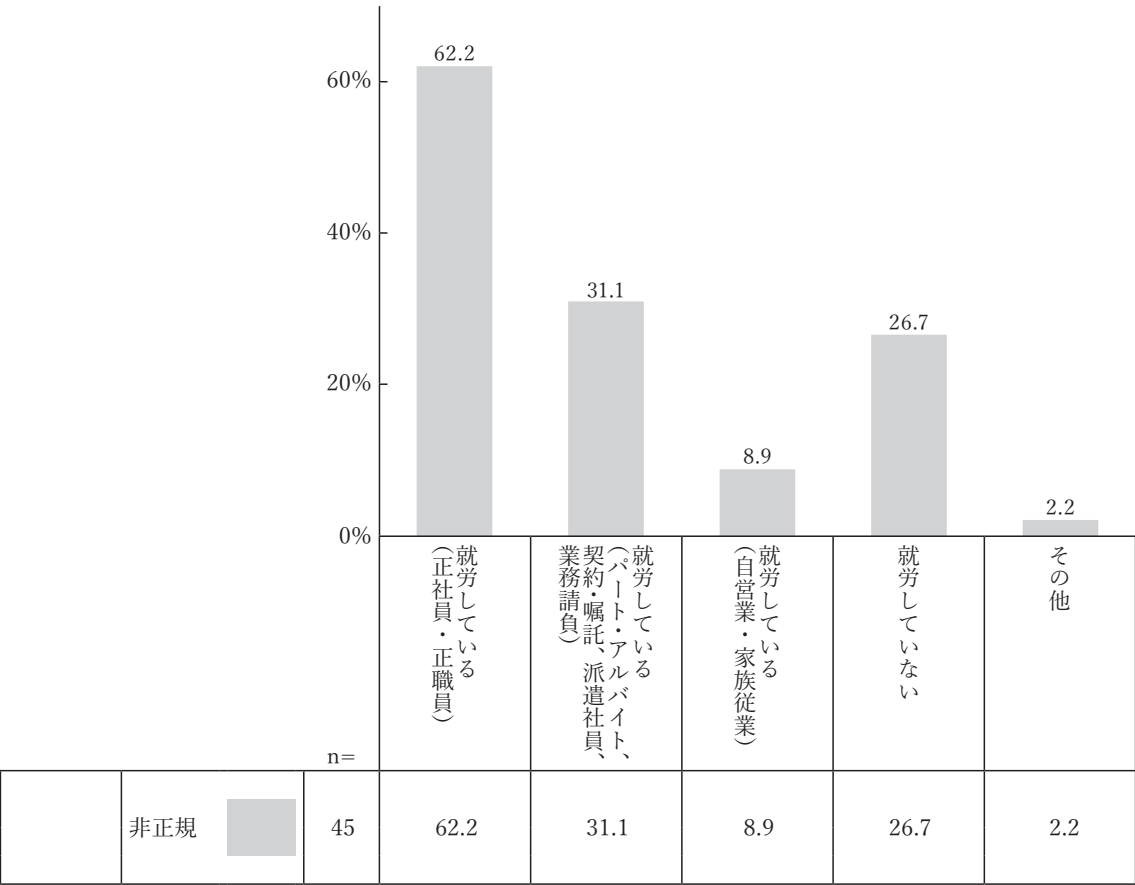
図表 14 子どもの就労状況（正規・非正規別）



※n=30未満は参考値

図表 13 を見ると、非正規で子どもがいると答えた者のうち、71.4%が「19 歳以上で就学していない」子どもがいると回答している。これらの子どもの就労状況を見ると、「正社員・正職員」が 62.2%、「パート・アルバイト、契約・嘱託、派遣社員、業務請負」が 31.1%、「自営業・家族従業」が 8.9%。「就労していない」と回答した者も 26.7% いた。なお、子どもの人数により複数回答可能なため、合計は 100%を超える。

図表 15 「19 歳以上で就学していない」子どもの就労状況（非正規）

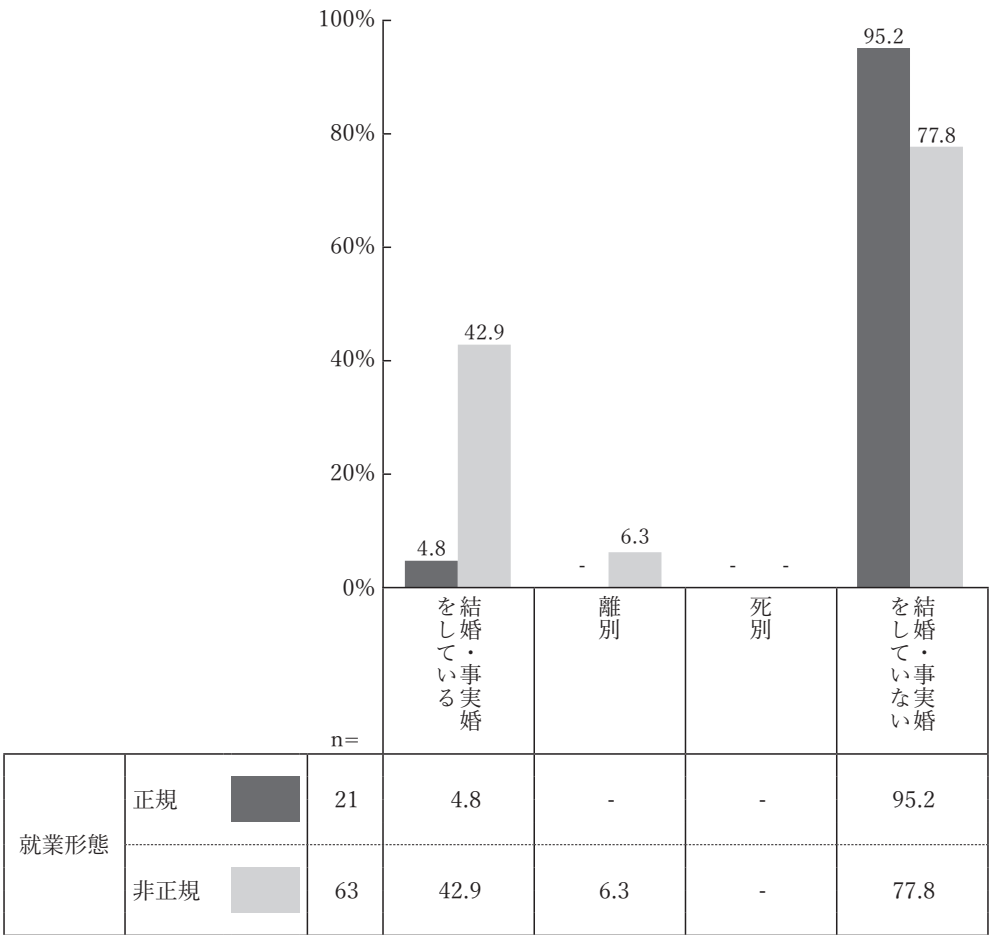


エ 子どもの婚姻状況：「結婚・事実婚をしていない」が最も多い。

Q1_10_1_4 子どもの婚姻状況についてお答えください。(MA)

子どもがいると答えた者について、子どもの婚姻状況を見ると、非正規で、「結婚・事実婚をしていない」子どもがいる割合は77.8%、「結婚・事実婚をしている」子どもがいる割合は42.9%だった。割合としては少ないが、6.3%は「離別」した経験がある子どもがいると回答した。

図表 16 子どもの婚姻状況（正規・非正規別）



※n=30未満は参考値

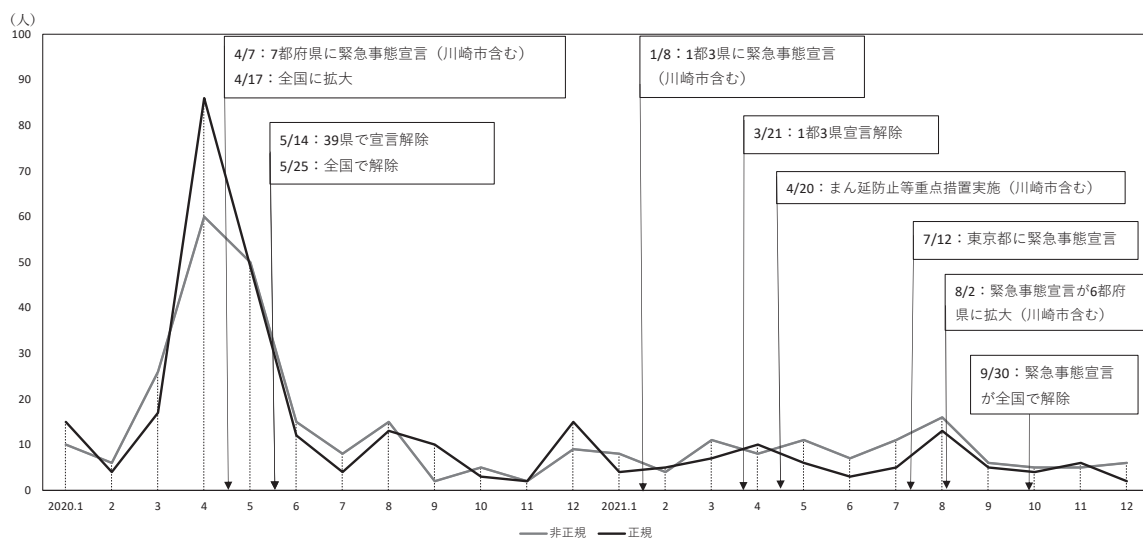
(2) コロナ禍での女性に対する影響

① コロナ禍で大変だった時期：非正規、正規ともに1回目の緊急事態宣言の時期

Q1_11 新型コロナウイルス感染症拡大（2020年1月）以降、あなたが最も大変だった時期はいつ頃ですか。(SA)

コロナ禍で最も大変だった時期は非正規、正規ともに2020年4月が最も多く、次いで2020年5月、3月と続いている。2020年4月は第1回目の緊急事態宣言が発出された時期である。

図表 17 コロナ禍で最も大変だった時期（正規・非正規別）



② 仕事面

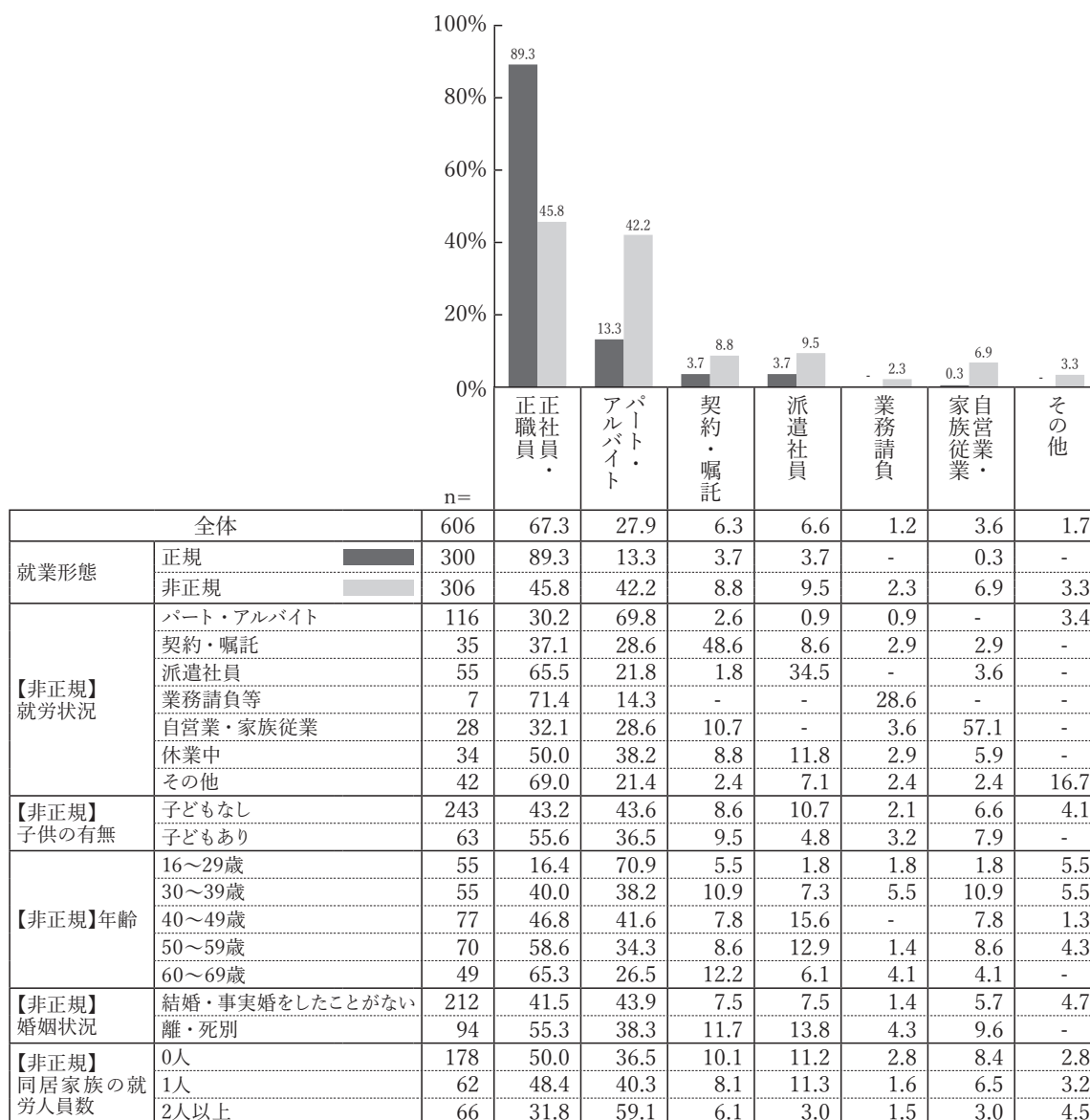
ア 初職の雇用形態：若い層で初職が非正規の割合が高い。

Q2 あなたのお仕事について伺います。

Q2_1 学校を卒業（中退）した後の最初のお仕事について伺います。当てはまるものをすべてお答えください。現在就学中の方は、卒業・中退に限らず、初めて就いたお仕事についてお答えください。(MA)

初職が「正社員・正職員」だった者の割合は、非正規では 45.8%、正規では 89.3%と非正規と正規で約 2 倍の差があった。非正規の 42.2%は初職が「パート・アルバイト」、8.8%が「契約・嘱託」、9.5%が「派遣社員」だった。年齢階級別に見ると、現在非正規で働いていて初職が「パート・アルバイト」だった者の割合は 16～29 歳で 70.9%と最も高い。

図表 18 初職の雇用形態



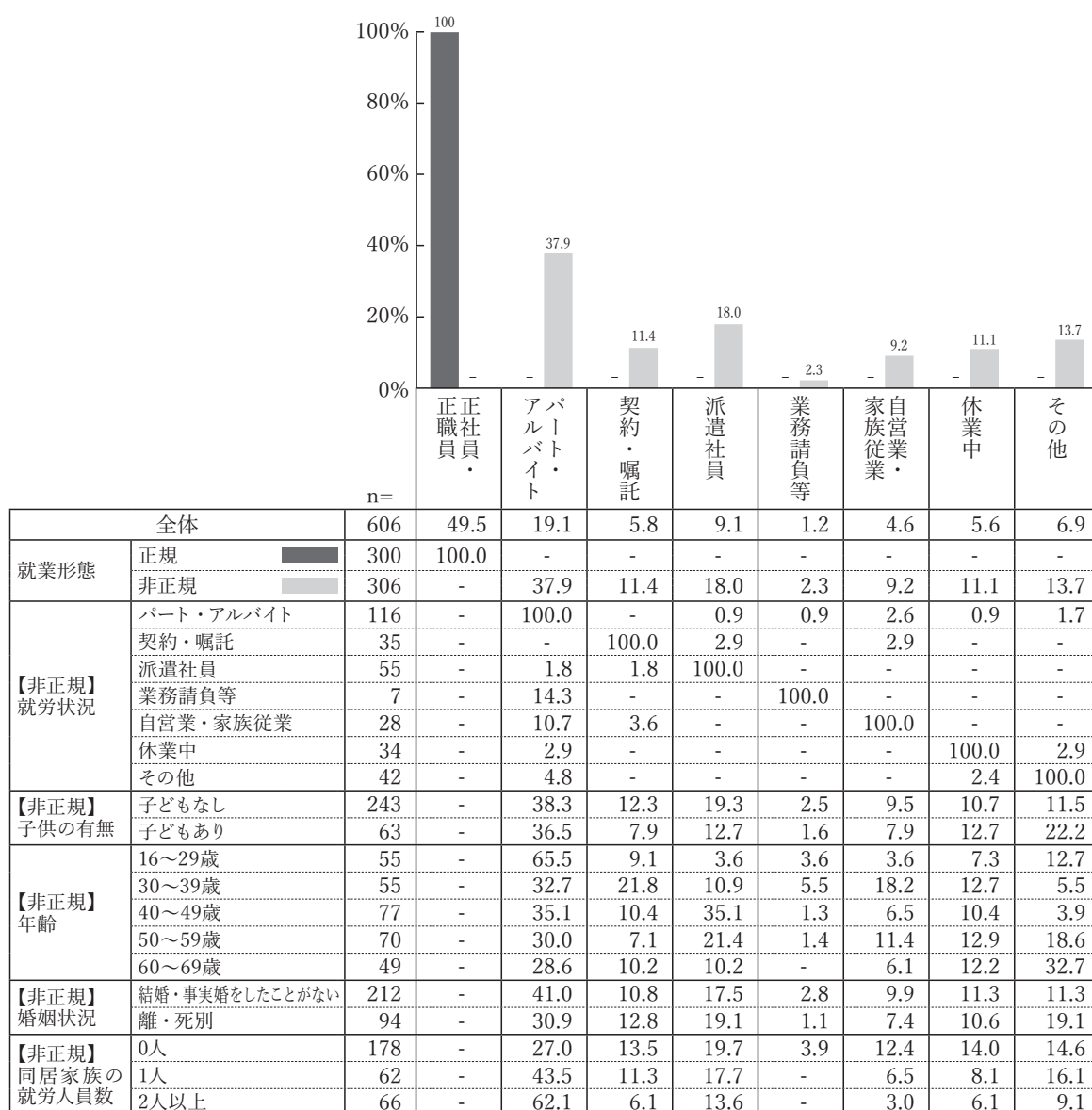
※n=30未満は参考値

イ 現在の雇用形態：非正規ではパート・アルバイトで働く者が最も多い。

Q2_2 あなたの現在のお仕事について伺います。当てはまるものをすべてお答えください。(MA)

現在の雇用形態について、非正規では「パート・アルバイト」が最も多く 37.9%、次いで「派遣社員」18.0%、「契約・嘱託」11.4%と続く。「その他」は 13.7%いるが、具体的な回答として「自由業」「フリーランス」「内職」などが挙げられた。

図表 19 現在の雇用形態



※n=30未満は参考値

ウ 就業年数：平均就業年数は非正規のほうが長い。

Q2_3_1 これまでの就業年数について伺います。仕事をしていない期間がある場合は、その期間を除いて、これまで仕事をしている年数はおよそ何年ですか？ (SA)

現在非正規で働いている者の就業年数は、「10 年以上 20 年未満」が最も多く 28.8%。「20 年以上 30 年未満」が 23.5%、「30 年以上」が 22.5%と続いている。平均就業年数は、非正規は 18.4 年、正規は 14.9 年で非正規のほうが正規より 3 年以上長い。

図表 20 就業年数

			(%)						平均(年)
			2年未満	2年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上	
n=									
全体		606	6.4	10.9	14.9	29.4	21.6	16.8	16.7
就業形態	正規	300	7.0	10.0	22.3	30.0	19.7	11.0	14.9
	非正規	306	5.9	11.8	7.5	28.8	23.5	22.5	18.4
【非正規】 就労状況	パート・アルバイト	116	6.9	19.0	9.5	29.3	19.8	15.5	15.8
	契約・嘱託	35	2.9	14.3	34.3	22.9	22.9		19.1
	派遣社員	55	1.8	3.6	25.5	43.6	21.8		21.4
	業務請負等	7	14.3	14.3	14.3	28.6	28.6		12.3
	自営業・家族従業	28	14.3		42.9	14.3	28.6		20.0
	休業中	34	8.8	14.7	8.8	26.5	20.6	20.6	15.7
	その他	42	9.5	7.1	7.1	26.2	9.5	40.5	21.3
【非正規】 子供の有無	子どもなし	243	6.6	14.0	9.1	26.3	23.5	20.6	17.3
	子どもあり	63	3.2	3.2	1.6	38.1	23.8	30.2	22.4
【非正規】 年齢	16～29歳	55		23.6		52.7	18.2	5.5	3.8
	30～39歳	55	1.8	21.8		74.5		1.8	11.2
	40～49歳	77	1.3		33.8		62.3	2.6	20.1
	50～59歳	70	1.4	7.1	11.4	27.1	52.9		25.9
	60～69歳	49	6.1	2.0	2.0	20.4	8.2	61.2	29.1
【非正規】 婚姻状況	結婚・事実婚をしたことがない	212	7.5	15.1	10.4	27.4	22.2	17.5	16.1
	離・死別	94	2.1	4.3	1.1	31.9	26.6	34.0	23.5
【非正規】 同居家族の 就労人員数	0人	178	3.4	7.3	7.9	30.9	24.2	26.4	19.8
	1人	62	11.3	4.8	11.3	25.8	27.4	19.4	18.2
	2人以上	66	7.6		30.3	3.0	25.8	18.2	14.6

※n=30未満は参考値

エ 非正規雇用での就業年数：非正規では平均で 10 年を越えている。

Q2_3_2 そのうち非正規（パート・アルバイト、契約・嘱託、派遣社員、業務請負）で働いていたのは何年になりますか。(SA)

現在非正規で働いている者の非正規雇用での就業年数について、「10 年以上 20 年未満」が最も多く 27.8%、次に「1 年以上 5 年未満」が 21.6%、「5 年以上 10 年未満」が 20.6%。「20 年以上」と回答した者も 19%いた。平均年数は 10.7 年。

図表 21 非正規雇用での就業年数

								(%)
			1年未満	1年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上	平均(年)
n=								
就業形態	全体	606	34.3	22.3	16.0	17.0	10.4	6.6
	正規	300	58.0	23.0	11.3	6.0	1.7	2.5
【非正規】 就労状況	非正規	306	11.1	21.6	20.6	27.8	19.0	10.7
	パート・アルバイト	116	6.0	26.7	19.0	31.9	16.4	10.9
	契約・嘱託	35	17.1	17.1	14.3	31.4	20.0	10.8
	派遣社員	55	3.6	10.9	21.8	38.2	25.5	12.9
	業務請負等	7	28.6	28.6	28.6	14.3		10.0
	自営業・家族従業	28	10.7	28.6	28.6	14.3	17.9	9.5
	休業中	34	8.8	38.2	17.6	17.6	17.6	8.5
	その他	42	28.6	9.5	26.2	21.4	14.3	9.2
【非正規】 子供の有無	子どもなし	243	12.8	23.9	20.2	25.1	18.1	10.1
	子どもあり	63	4.8	12.7	22.2	38.1	22.2	13.0
【非正規】 年齢	16～29歳	55	21.8	60.0	14.5	3.6		3.1
	30～39歳	55	9.1	18.2	40.0	32.7		7.3
	40～49歳	77	3.9	5.2	15.6	46.8	28.6	14.5
	50～59歳	70	11.4	14.3	17.1	22.9	34.3	14.0
	60～69歳	49	12.2	18.4	18.4	26.5	24.5	12.2
【非正規】 婚姻状況	結婚・事実婚をしたことがない	212	14.6	24.1	17.9	26.9	16.5	9.8
	離・死別	94	3.2	16.0	26.6	29.8	24.5	12.6
【非正規】 同居家族の 就労人員数	0人	178	11.2	15.2	21.9	29.2	22.5	11.6
	1人	62	12.9	24.2	21.0	25.8	16.1	9.8
	2人以上	66	9.1	36.4	16.7	25.8	12.1	9.1

※n=30未満は参考値

図表 22 は、非正規雇用での就業年数の割合を、0～25%未満、25～50%未満、50～75%未満、75～100%の 4 つの区分で示している。現在非正規で働いている者のなかで、これまでの就業年数のうち、半分以上を非正規雇用で働いている者の割合（「50～75%」「75～100%」の合計）は 67%とおよそ 7 割を占めている。

図表 22 就業年数のうち非正規雇用での就業年数の割合

							(%)
			0～25%	～50%	～75%	～100%	
n=							
就業形態	正規	300	73.7	11.3	10.0	5.0	
	非正規	306	16.0	17.0	17.3	49.7	

オ 業種：非正規の7.8%は複数の業種で働いている。

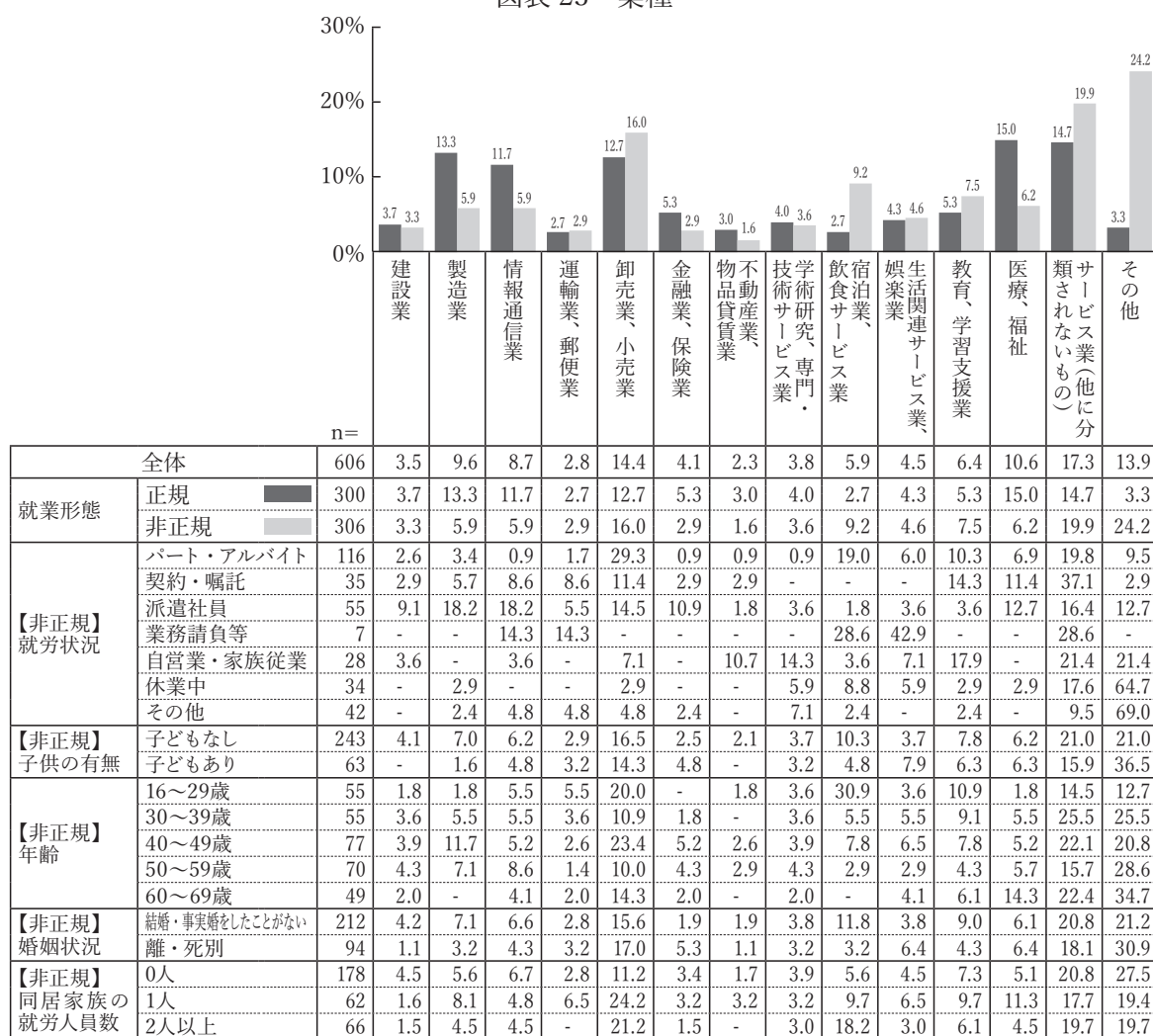
Q2_4 現在のお仕事の業種について伺います。複数の仕事をかけもちしている場合は、
当てはまるものをすべてお答えください。(MA)

非正規で最も多かったのは「その他」で24.2%だった。次いで「サービス業」が19.9%、「卸売業、小売業」が16.0%と続いた。

なお、非正規で「その他」を選択した者は、「イベント」「オペレーター」「クリエイター」「テレオペ」「ピアニスト」「ライター」「事務」「人材」「倉庫業」「公務員」「団体職員」「地盤改良工事」「情報サービス」「文筆家」「清掃業」「演奏」「美術系」「製薬会社事務職」「電機メーカー」「電機」などの回答があった。「その他」の回答には業種と職種の混在がみられる。

正規で最も多かったのは「医療、福祉」で15.0%だった。次いで「サービス業（他に分類されないもの）」が14.7%、「製造業」が13.3%と続いた。

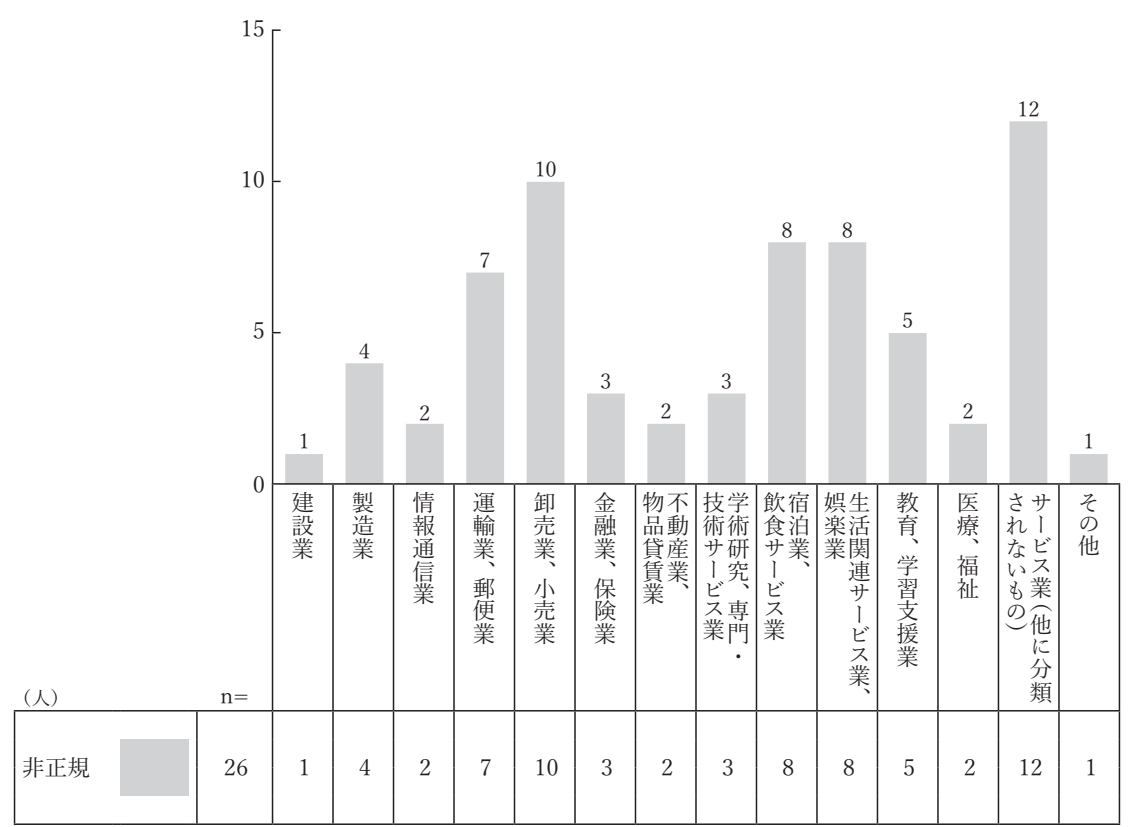
図表 23 業種



※n=30未満は参考値

非正規のなかで26人が複数の業種で働いていることが分かった。1人で2つ以上のかけもちをしている場合もあるようだ。非正規のうち複数の業種で働いている者は「サービス業（ほかに分類されないもの）」が最も多く、「卸売業、小売業」「宿泊業、飲食サービス業」「生活関連サービス業、娯楽業」が多く、サービス業に集中している。

図表 24 業種（かけもち）



カ 職種：非正規では「事務職」と「接客・販売」が最も多い。

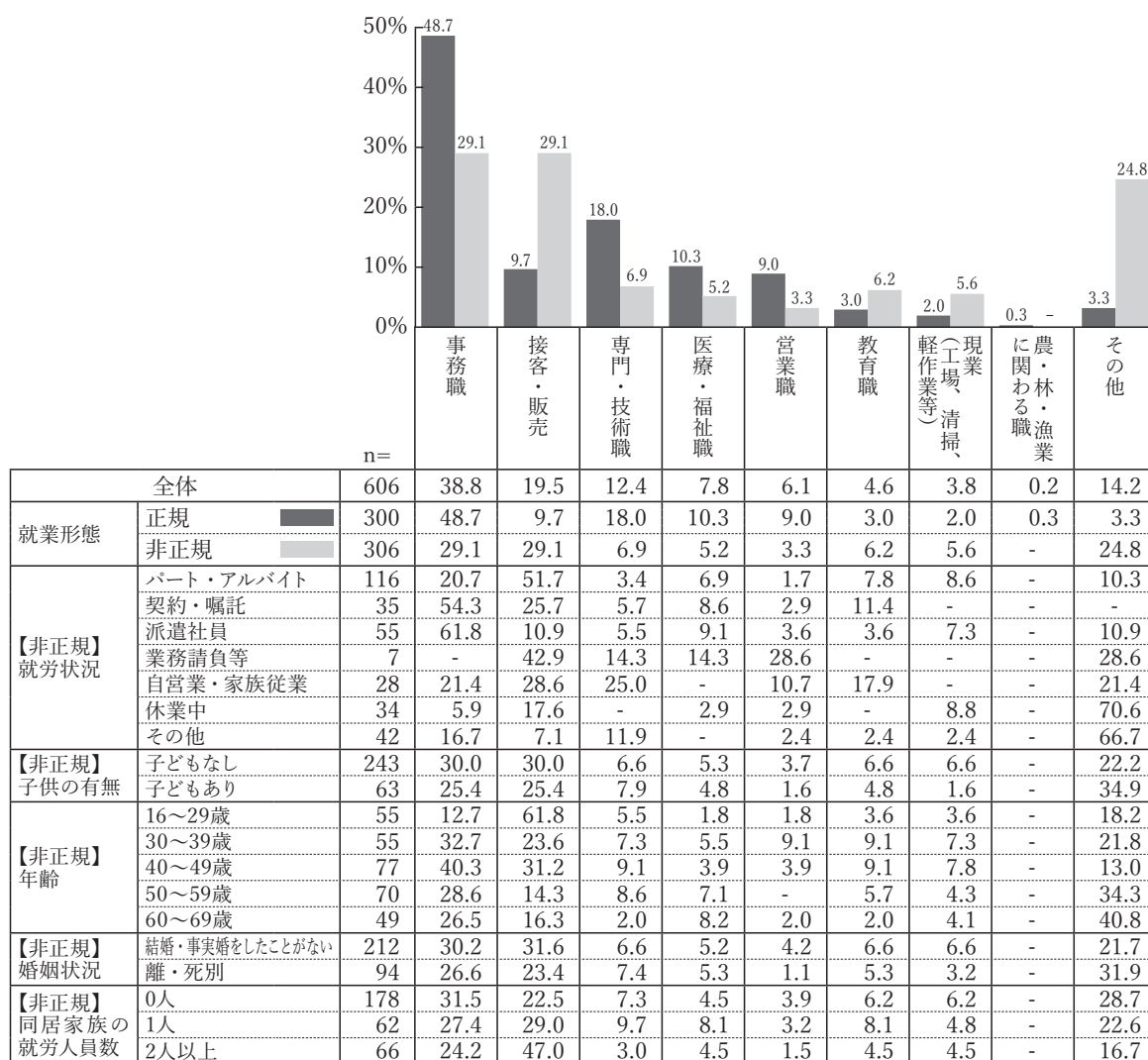
Q2_5 現在のお仕事の職種について伺います。複数の仕事をかけもちしている場合は、
当てはまるものをすべてお答えください。(MA)

非正規で多かったのは「事務職」と「接客・販売」で、どちらも 29.1% だった。次いで「その他」が 24.8% だった。

なお、非正規で「その他」を選択した者からは、「エンターテインメント」「オペレーター」「クリエイター」「コンビニ」「サポートデスク」「テレオペ」「ピアニスト」「ライター」「地質事業」「文筆家」「清掃」「物流」「経営」「美術系」「調理」「配達」「音楽」「飲食」などの回答があった。「その他」の回答には業種と職種の混在がみられる

正規で最も多いのは「事務職」で 48.7% と半数近かった。そのほか、正規の割合が高かったのは、「専門・技術職」18.0%、「医療・福祉職」10.3%、「接客・販売」9.7% だった。これらの職種について非正規は「専門・技術職」6.9%、「医療・福祉職」5.2% だった。

図表 25 職種

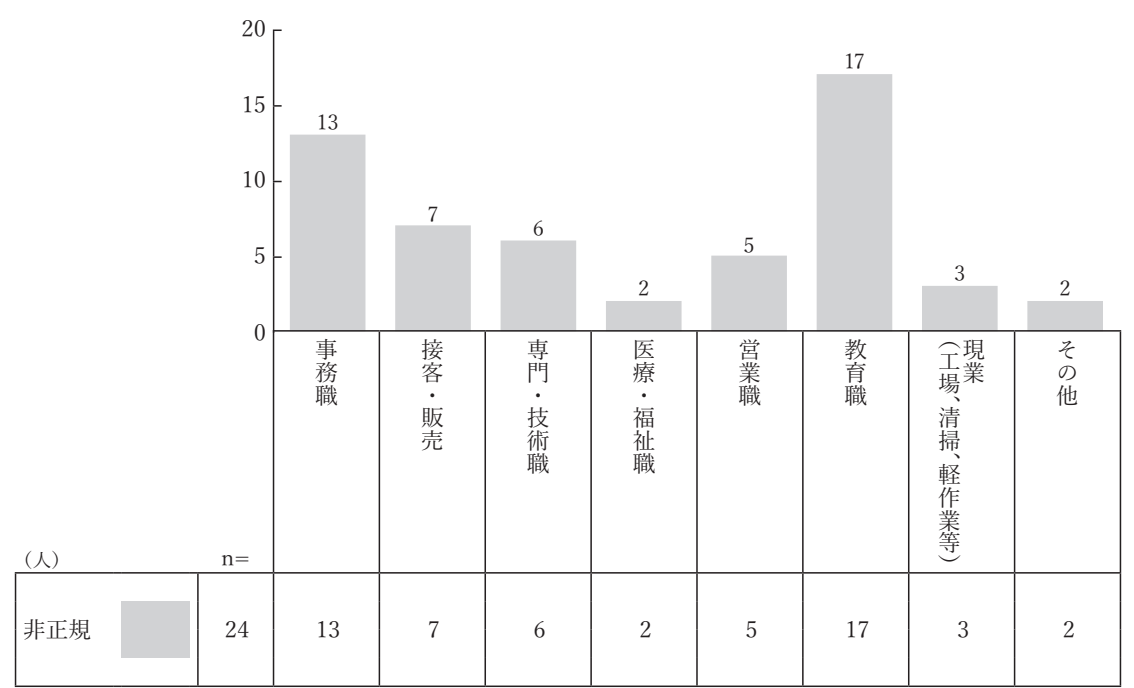


※n=30未満は参考値

※全体の値を基準に降順並び替え

非正規のなかで 24 人が複数回答しており、1 人で 2 つ以上の職種を回答している者もいた。非正規のうち複数の職種で働いている者も分布を見ると、「教育職」と「事務職」が多い。

図表 26 職種（かけもち）

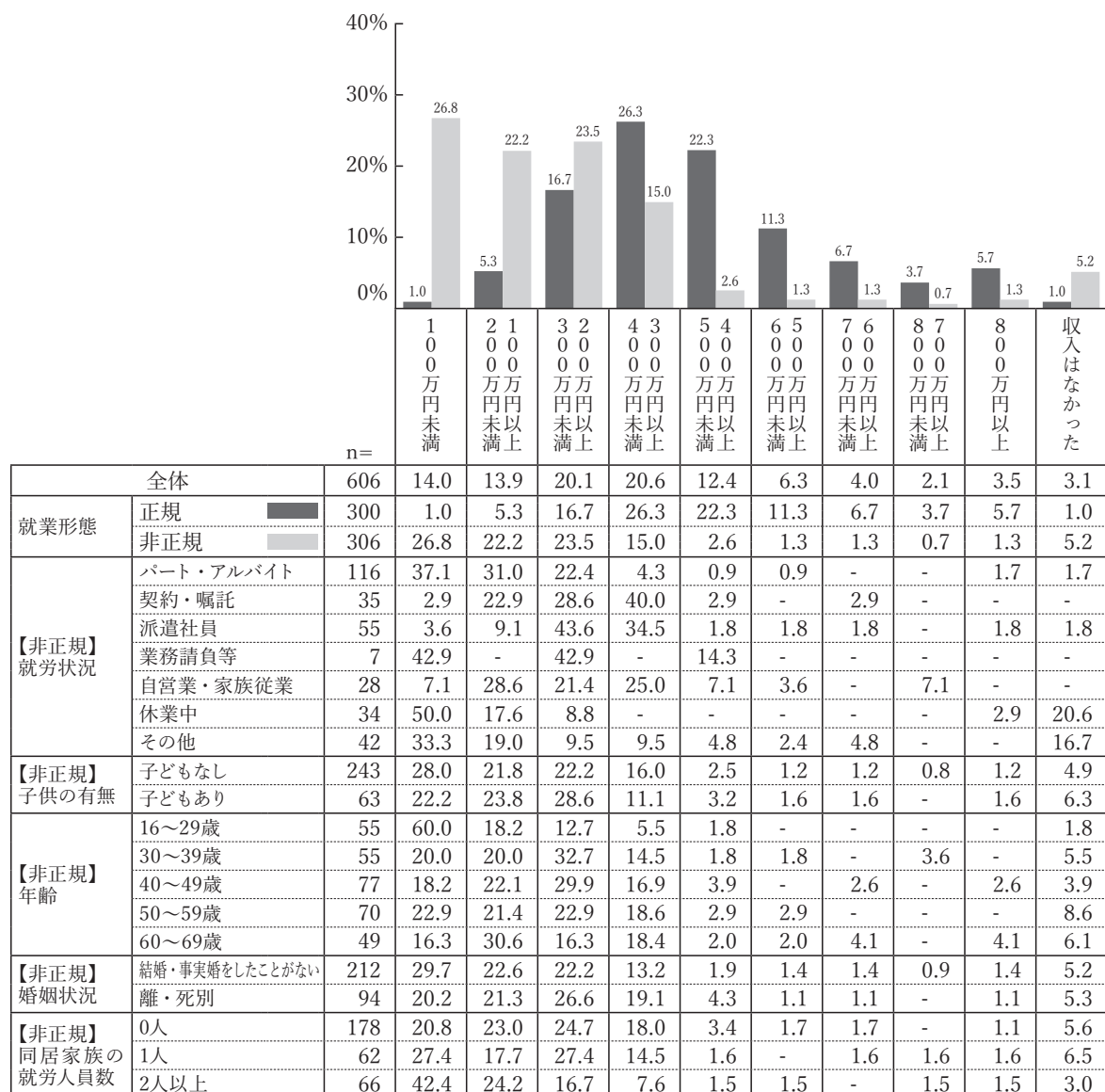


キ 年収：非正規で最も多かったのは個人年収「100万円未満」

Q2_6 2020年のあなた自身の年収（税込み）について伺います。年金なども含めたすべての収入について、当てはまるものを1つお答えください。（SA）

非正規で最も多かったのは「100万円未満」で26.8%だった。非正規は300万円未満が72.5%とおおよそ7割であった。正規で最も多かったのは「300万円以上400万円未満」で26.3%。正規では300万円以上が76.0%と8割近かった。

図表 27 個人年収（2020年）



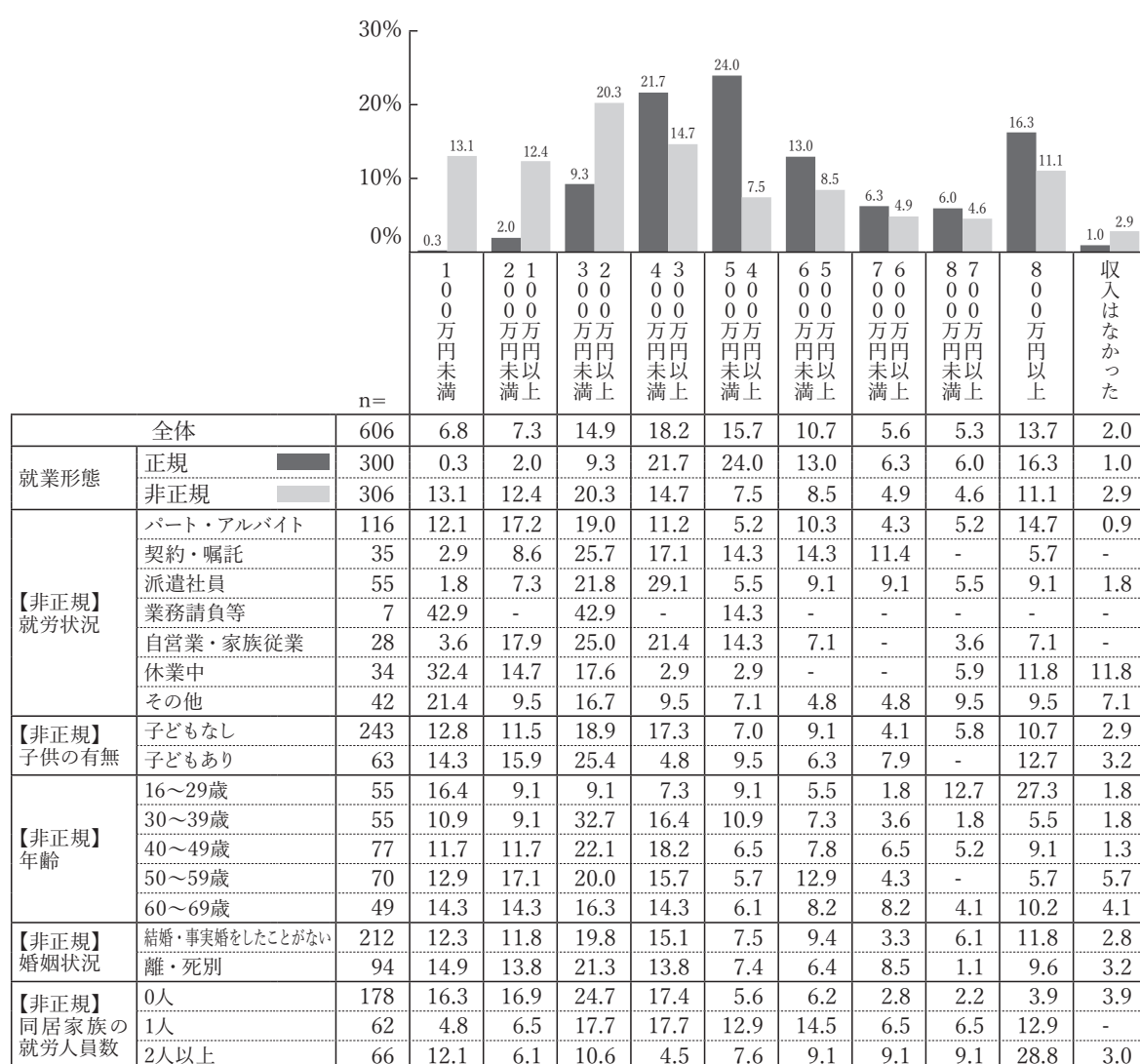
※n=30未満は参考値

ク 年収：非正規で最も多かったのは世帯年収「200 万円以上 300 万円未満」

Q2_7 2020 年の世帯年収（税込み）について伺います。年金なども含めたすべての収入について、当てはまるものを 1 つお答えください。（SA）

非正規で最も多かったのは「200 万円以上 300 万円未満」で 20.3%だった。非正規は 400 万円未満が 60.5%だった。正規で最も多かったのは「400 万円以上 500 万円未満」で 24.0%だった。正規では 400 万円以上が 65.6%と非正規の 400 万円未満の割合より多かった。

図表 28 世帯年収（2020 年）



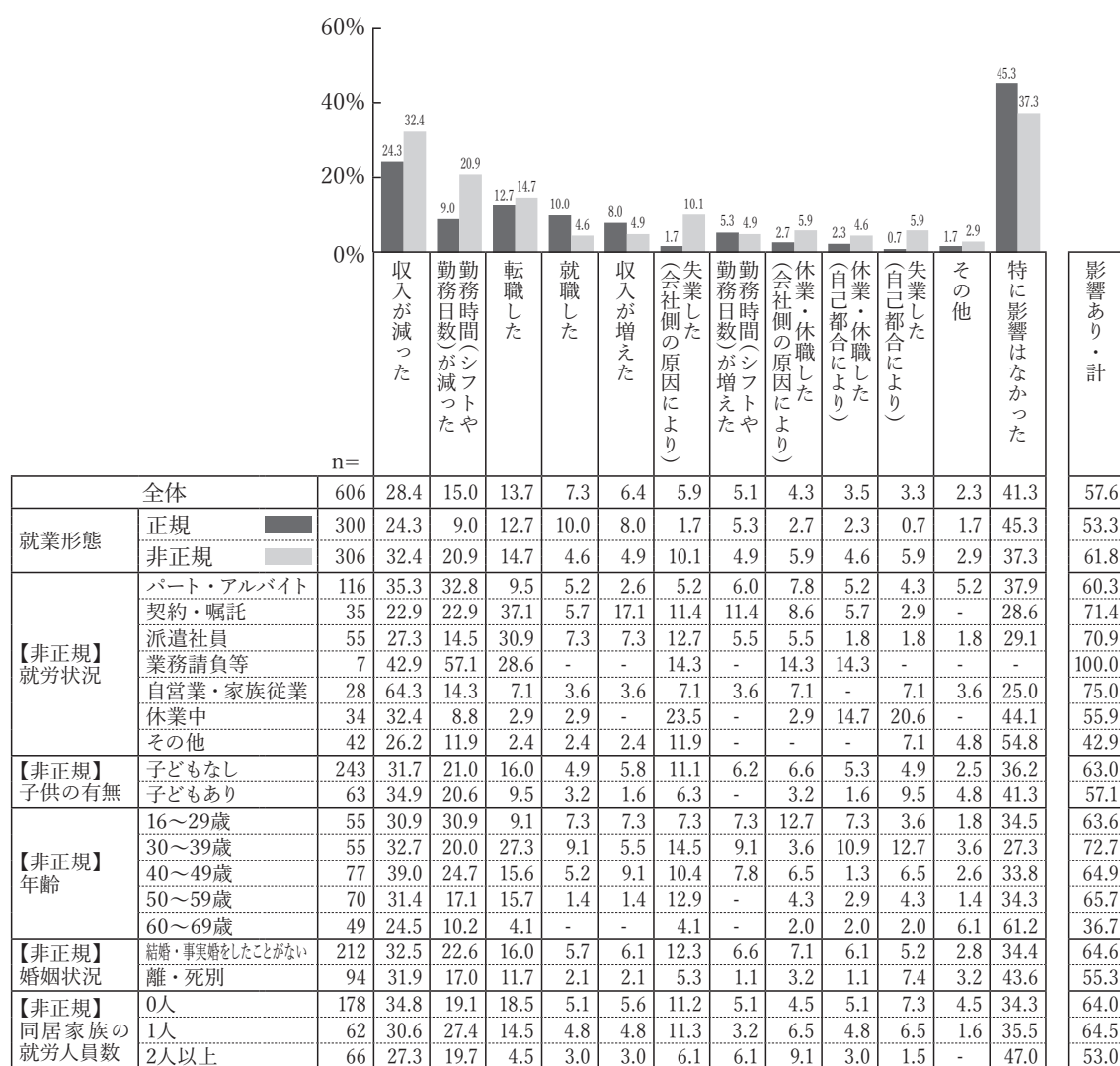
※n=30未満は参考値

ケ コロナ禍による仕事への影響：非正規では収入の減少、勤務時間の減少、失業などの影響がみられる。

Q2_8 感染拡大前（2019年12月以前）から現在までの間で、仕事の面でどのような影響がありましたか。当てはまるものをすべてお答えください。(MA)

非正規と正規の差で最も大きかったのは、「勤務時間（シフトや勤務日数）が減った」で、非正規 20.9%に対して正規 9.0%と、非正規の方が 11.9 ポイント高かった。次いで「失業した（会社側の原因により）」が非正規 10.1%に対して正規 1.7%と 8.4 ポイント非正規の割合が高かった。3 番目は、「収入が減った」が非正規 32.4%に対して正規 24.3%と 8.1 ポイント非正規の割合が高かった。

図表 29 コロナ禍による仕事への影響



※n=30未満は参考値

※全体の値を基準に降順並び替え

コ コロナ禍による収入への影響：影響があったと回答した非正規の半数以上で収入が半以下に

Q2_9 感染拡大前（2019年12月以前）と感染拡大後のあなたが最も大変だった時期を比べて、どの程度変化があったか、当てはまるものを1つお答えください。

Q2_9_1 収入はどの程度減ったかをお選びください（SA）

コロナ禍による収入への影響があったと回答した者について、非正規で「収入がなくなった」者は13.1%、「半分より少なくなった」者は22.2%、「半分になった」者は16.2%で、ここまでの合計は51.5%と半数を超えた。正規で「収入がなくなった」者は2.7%、「半分より少なくなった」者は2.7%、「半分になった」者は5.5%で、ここまでの合計は10.9%であり、非正規は正規の約5倍だった。

図表 30 コロナ禍による収入への影響

			(%)					
			収入がなくな った	半分より 少なくなった	半分になった	少し減った	わずかに 減った	その他
n=								
全体			172	8.7	14.0	11.6	48.3	15.1 2.3
就業形態	正規	73	2.7	2.7	5.5	60.3	24.7	4.1
	非正規	99	13.1	22.2	16.2	39.4	8.1	1.0
【非正規】 就労状況	パート・アルバイト	41	7.3	31.7	17.1	36.6	4.9	2.4
	契約・嘱託	8	12.5	12.5	62.5	12.5		
	派遣社員	15	6.7	26.7	46.7	20.0		
	業務請負等	3		66.7	33.3			
	自営業・家族従業	18	22.2	16.7	22.2	27.8	11.1	
	休業中	11	27.3	27.3	9.1	36.4		
	その他	11	18.2	27.3	54.5			
【非正規】 子供の有無	子どもなし	77	14.3	23.4	16.9	33.8	10.4	1.3
	子どもあり	22	9.1	18.2	13.6	59.1		
【非正規】 年齢	16～29歳	17	11.8	17.6	35.3	23.5	11.8	
	30～39歳	18	11.1	16.7	5.6	44.4	22.2	
	40～49歳	30	16.7	26.7	16.7	36.7	3.3	
	50～59歳	22	13.6	18.2	18.2	40.9	4.5	4.5
	60～69歳	12	8.3	33.3	58.3			
【非正規】 婚姻状況	結婚・事実婚をしたことがない	69	14.5	24.6	15.9	34.8	8.7	1.4
	離・死別	30	10.0	16.7	16.7	50.0	6.7	
【非正規】 同居家族の 就労人員数	0人	62	21.0	24.2	12.9	33.9	6.5	1.6
	1人	19	21.1	21.1	52.6	5.3		
	2人以上	18	16.7	22.2	44.4	16.7		

※n=30未満は参考値

サ コロナ禍による勤務時間への影響：影響があったと回答した非正規の半数近くで勤務時間が半分以下に

Q2_9_2 勤務時間はどの程度減ったかをお選びください。(SA)

コロナ禍による勤務時間への影響があったと回答した者について、非正規で「勤務がなくなった」者は10.9%、「半分より少なくなった」者は21.9%、「半分になった」者は12.5%と、ここまでの合計で45.3%だった。

図表 31 コロナ禍による勤務時間への影響

		(%)					
		勤務が なくなった	半分より 少なくなった	半分になった	少し減った	わずかに 減った	その他
n=							
全体		91	9.9	19.8	8.8	46.2	11.0 4.4
就業形態	正規	27	7.4	14.8	48.1	22.2	7.4
	非正規	64	10.9	21.9	12.5	45.3	6.3 3.1

※n=30未満は参考値

③ 生活面

ア コロナ禍による生活への影響：家事、育児・子育て、介護・看病にかかる時間に大きな変化は見られない。

Q1_12 新型コロナウイルス感染症拡大前（2019年12月以前。以下、感染拡大前とする）と比べて、あなた自身の家事、育児・子育て、介護・看病にかかる時間にどのような変化がありましたか。(SA)

家事と育児時間については、正規・非正規で大きな違いは見られない。介護・看病については、「増えた」と回答した者の割合が非正規は25.4%、正規は12.7%と非正規は正規の約2倍だった。

図表 32 コロナ禍による家庭内労働の時間変化

(a) 家事時間の変化

			(%)		
n=			増えた	変わらない	減った
全体			39.9	58.3	1.8
就業形態	正規	300	39.3	59.3	1.3
	非正規	306	40.5	57.2	2.3

(b) 育児・子育て時間の変化

			(%)		
n=			増えた	変わらない	減った
全体			19.0	77.4	3.6
就業形態	正規	21	23.8	76.2	
	非正規	63	17.5	77.8	4.8

※n=30未満は参考値

(c) 介護・看病時間の変化

			(%)		
n=			増えた	変わらない	減った
全体			19.5	75.4	5.1
就業形態	正規	55	12.7	83.6	3.6
	非正規	63	25.4	68.3	6.3

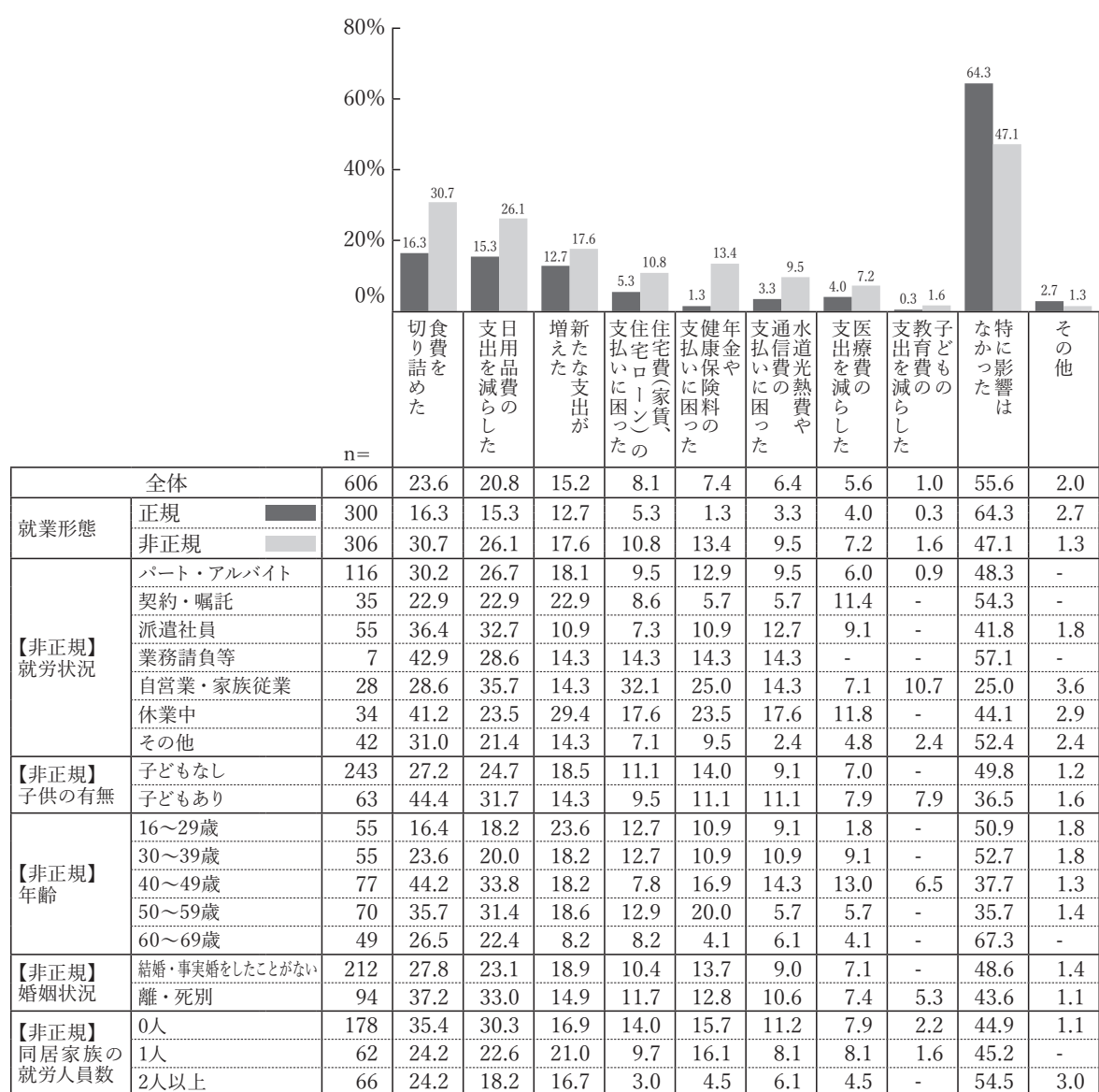
イ コロナ禍による家計への影響：非正規の3割が「食費を切り詰めた」

Q2_10 コロナ禍で家計にどのような影響がありましたか？ (MA)

非正規は、「食費を切り詰めた」が30.7%、「日用品の支出を減らした」が26.1%であった。非正規で子どもがいる者のうち44.4%、非正規の40代が44.2%、休業中では41.2%が「食費を切り詰めた」と回答している。

また、正規64.3%に対し非正規47.1%と、「影響がなかった」と回答した者の割合は正規のほうが17.2ポイント高かった。

図表33 コロナ禍による家計への影響



※n=30未満は参考値

※全体の値を基準に降順並び替え

ウ 現在の家計状態：非正規の半数以上が家計が苦しいと回答

Q3_3 お宅の現在の家計の状態についてどのようにお考えですか。当てはまるものを1つお答えください。(SA)

非正規で「どちらかといえば苦しい」は47.7%、「かなり苦しい」は18.6%で合計66.3%、正規で「どちらかといえば苦しい」は40.0%、「かなり苦しい」は6.7%で、合計46.7%だった。非正規は正規より19.6ポイント高かった。

また、正規は、「かなりゆとりがある」が6.0%、「どちらかといえばゆとりがある」が47.3%で、合計53.3%と半数を超えているが、非正規は「かなりゆとりがある」が2.3%、「どちらかといえばゆとりがある」が31.4%、合計33.7%で正規より19.6ポイント低かった。

図表 34 現在の家計状態

			(%)			
			かなりゆとりがある	どちらかといえば ゆとりがある	どちらかといえば 苦しい	かなり苦しい
n=						
全体		606	4.1	39.3	43.9	12.7
就業形態	正規	300	6.0	47.3	40.0	6.7
	非正規	306	2.3	31.4	47.7	18.6
【非正規】 就労状況	パート・アルバイト	116	2.6	32.8	47.4	17.2
	契約・嘱託	35	5.7	25.7	48.6	20.0
	派遣社員	55	1.8	21.8	54.5	21.8
	業務請負等	7		28.6	42.9	28.6
	自営業・家族従業	28		32.1	46.4	21.4
	休業中	34		32.4	47.1	20.6
	その他	42	4.8	38.1	40.5	16.7
【非正規】 子供の有無	子どもなし	243	2.9	32.9	45.3	18.9
	子どもあり	63		25.4	57.1	17.5
【非正規】 年齢	16～29歳	55	3.6	52.7	29.1	14.5
	30～39歳	55	1.8	29.1	49.1	20.0
	40～49歳	77	2.6	18.2	55.8	23.4
	50～59歳	70		21.4	57.1	21.4
	60～69歳	49	4.1	44.9	40.8	10.2
【非正規】 婚姻状況	結婚・事実婚をしたことがない	212	2.8	32.1	47.6	17.5
	離・死別	94	1.1	29.8	47.9	21.3
【非正規】 同居家族の 就労人員数	0人	178	1.7	27.5	51.1	19.7
	1人	62	3.2	33.9	43.5	19.4
	2人以上	66	3.0	39.4	42.4	15.2

※n=30未満は参考値

④ 気持ちの変化

ア 仕事への不安感：コロナ禍以前に比べ、感染拡大後の最も大変だった時期では、仕事の不安感はほぼ倍増している。

Q3 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による気持ちの変化について伺います。

Q3_1 以下の項目について、感染拡大前（2019年12月以前）と最も大変だった時期に感じていた不安感をそれぞれお答えください。（SA）

2019年12月以前と比べて、最も大変だった時期の仕事への不安について、「不安あり（「不安」「やや不安」）」と答えた者は、正規は27.7%から56.7%、非正規は30.4%から62.4%になっており、ほぼ倍増した。年齢階級別に見てみると、仕事への不安感の高まりが最も大きいのは、非正規の16～29歳で25.5%から72.7%と、不安感が3倍近く高くなっていた。

図表 35 不安感の変化（仕事）
(a) 2019年12月以前

n=			不安なし・計			不安あり・計		不安なし・計 (%)	不安あり・計 (%)
			不安はなかった	あまり不安はなかった	どちらとも言えない	やや不安	不安		
全体			21.6	26.4	22.9	16.5	12.5	48.0	29.0
就業形態	正規	300	23.7	27.7	21.0	17.0	10.7	51.3	27.7
	非正規	306	19.6	25.2	24.8	16.0	14.4	44.8	30.4
【非正規】 就労状況	パート・アルバイト	116	21.6	31.9	23.3	13.8	9.5	53.4	23.3
	契約・嘱託	35	25.7	22.9	20.0	17.1	14.3	48.6	31.4
	派遣社員	55	16.4	25.5	21.8	14.5	21.8	41.8	36.4
	業務請負等	7	14.3		57.1	14.3	14.3	14.3	28.6
	自営業・家族従業	28		35.7	14.3	21.4	28.6	35.7	50.0
	休業中	34	17.6	17.6	20.6	26.5	17.6	35.3	44.1
	その他	42	31.0	11.9		42.9	11.9	42.9	14.3
【非正規】 子供の有無	子どもなし	243	18.5	26.3	23.5	16.5	15.2	44.9	31.7
	子どもあり	63	23.8	20.6	30.2	14.3	11.1	44.4	25.4
【非正規】 年齢	16～29歳	55	25.5	30.9	18.2	12.7	12.7	56.4	25.5
	30～39歳	55	14.5	23.6	23.6	18.2	20.0	38.2	38.2
	40～49歳	77	19.5	19.5	27.3	14.3	19.5	39.0	33.8
	50～59歳	70	12.9	27.1	28.6	18.6	12.9	40.0	31.4
	60～69歳	49	28.6	26.5	24.5	16.3	4.1	55.1	20.4
【非正規】 婚姻状況	結婚・事実婚をしたことがない	212	18.9	25.5	23.1	15.6	17.0	44.3	32.5
	離・死別	94	21.3	24.5	28.7	17.0	8.5	45.7	25.5
【非正規】 同居家族の 就労人員数	0人	178	17.4	25.8	22.5	16.9	17.4	43.3	34.3
	1人	62	25.8	17.7	27.4	16.1	12.9	43.5	29.0
	2人以上	66	19.7	30.3	28.8	13.6	7.6	50.0	21.2

※n=30未満は参考値

(b) 最も大変だった時期

n=			不安なし・計			不安あり・計		不安なし・計 (%)	不安あり・計 (%)
			不安はなかった	あまり不安はなかった	どちらとも言えない	やや不安	不安		
全体			11.4	12.4	16.7	29.0	30.5	23.8	59.6
就業形態	正規	300	12.7	14.3	16.3	32.7	24.0	27.0	56.7
	非正規	306	10.1	10.5	17.0	25.5	36.9	20.6	62.4
【非正規】 就労状況	パート・アルバイト	116	6.0	14.7	14.7	30.2	34.5	20.7	64.7
	契約・嘱託	35	17.1	5.7	11.4	28.6	37.1	22.9	65.7
	派遣社員	55	10.9	9.1	16.4	20.0	43.6	20.0	63.6
	業務請負等	7	14.3		57.1		28.6	-	85.7
	自営業・家族従業	28	7.1	14.3	28.6		50.0	7.1	78.6
	休業中	34	11.8	8.8	14.7	11.8	52.9	20.6	64.7
	その他	42	21.4	7.1	28.6	21.4	21.4	28.6	42.9
【非正規】 子供の有無	子どもなし	243	9.5	10.7	14.8	26.7	38.3	20.2	65.0
	子どもあり	63	12.7	9.5	25.4	20.6	31.7	22.2	52.4
【非正規】 年齢	16～29歳	55	9.1	9.1	9.1	34.5	38.2	18.2	72.7
	30～39歳	55	7.3	12.7	16.4	23.6	40.0	20.0	63.6
	40～49歳	77	11.7	9.1	16.9	16.9	45.5	20.8	62.3
	50～59歳	70	2.9	8.6	17.1	34.3	37.1	11.4	71.4
	60～69歳	49	22.4	14.3	26.5	18.4	18.4	36.7	36.7
【非正規】 婚姻状況	結婚・事実婚をしたことがない	212	8.5	10.8	14.2	24.5	42.0	19.3	66.5
	離・死別	94	13.8	9.6	23.4	27.7	25.5	23.4	53.2
【非正規】 同居家族の 就労人員数	0人	178	10.7	10.7	12.9	24.7	41.0	21.3	65.7
	1人	62	6.5	6.5	16.1	33.9	37.1	12.9	71.0
	2人以上	66	12.1	13.6	28.8	19.7	25.8	25.8	45.5

※n=30未満は参考値

イ 健康への不安感：非正規・若年で健康への不安感の高まりが大きい。

2019 年 12 月以前と比べて、最も大変だった時期の健康への不安について、「不安あり（「不安」「やや不安）」と回答した者は、正規は 30.0%から 60.7%、非正規は 35.0%から 65.4%になっていた。年齢階級別に見てみると、健康への不安感の高まりが最も大きいのは、非正規の 16～29 歳で 29.1%から 70.9%へと 41.8 ポイントも増加していた。

図表 36 不安感の変化（健康）

(a) 2019 年 12 月以前

			不安なし・計			不安あり・計			(%)	不安なし・計	不安あり・計
			不安はなかった	あまり不安はなかった	どちらとも言えない	やや不安	不安				
n＝											
全体			606	20.5	24.9	22.1	21.0	11.6		45.4	32.5
就業形態	正規	300	22.7	25.3	22.0	21.0	9.0		48.0	30.0	
	非正規	306	18.3	24.5	22.2	20.9	14.1		42.8	35.0	
【非正規】 就労状況	パート・アルバイト	116	19.8	25.9	22.4	20.7	11.2		45.7	31.9	
	契約・嘱託	35	25.7	22.9	22.9	17.1	11.4		48.6	28.6	
	派遣社員	55	21.8	27.3	18.2	16.4	16.4		49.1	32.7	
	業務請負等	7	28.6		42.9	14.3	14.3		28.6	28.6	
	自営業・家族従業	28	3.6	32.1	21.4	28.6	14.3		35.7	42.9	
	休業中	34	14.7	20.6	14.7	29.4	20.6		35.3	50.0	
	その他	42	19.0	14.3	31.0	23.8	11.9		33.3	35.7	
【非正規】	子どもなし	243	18.5	25.5	22.2	21.0	12.8		44.0	33.7	
子供の有無	子どもあり	63	17.5	20.6	22.2	20.6	19.0		38.1	39.7	
【非正規】 年齢	16～29歳	55	23.6	29.1	18.2	18.2	10.9		52.7	29.1	
	30～39歳	55	25.5	23.6	16.4	16.4	18.2		49.1	34.5	
	40～49歳	77	15.6	19.5	24.7	19.5	20.8		35.1	40.3	
	50～59歳	70	14.3	24.3	24.3	27.1	10.0		38.6	37.1	
	60～69歳	49	14.3	28.6	26.5	22.4	8.2		42.9	30.6	
【非正規】	結婚・事実婚をしたことがない	212	19.8	25.5	21.7	18.9	14.2		45.3	33.0	
婚姻状況	離・死別	94	14.9	22.3	23.4	25.5	13.8		37.2	39.4	
【非正規】	0人	178	14.6	28.1	21.3	21.3	14.6		42.7	36.0	
同居家族の 就労人員数	1人	62	25.8	16.1	22.6	22.6	12.9		41.9	35.5	
	2人以上	66	21.2	22.7	24.2	18.2	13.6		43.9	31.8	

※n=30未満は参考値

(b) 最も大変だった時期

n=			不安なし・計			不安あり・計			(%)	不安なし・計	不安あり・計
			不安はなかった	あまり不安はなかった	どちらとも言えない	やや不安	不安				
就業形態	全体	606	8.7	11.6	16.7	34.5	28.5		20.3	63.0	
	正規	300	11.0	11.7	16.7	36.3	24.3		22.7	60.7	
	非正規	306	6.5	11.4	16.7	32.7	32.7		18.0	65.4	
【非正規】 就労状況	パート・アルバイト	116	6.9	12.9	18.1	31.9	30.2		19.8	62.1	
	契約・嘱託	35	8.6	14.3	8.6	40.0	28.6		22.9	68.6	
	派遣社員	55	12.7	10.9	16.4	25.5	34.5		23.6	60.0	
	業務請負等	7	28.6		28.6		42.9		28.6	71.4	
	自営業・家族従業員	28	17.9	17.9	39.3	25.0			17.9	64.3	
	休業中	34	29.9	14.7	38.2	41.2			5.9	79.4	
	その他	42	4.8	4.8	19.0	28.6	42.9		9.5	71.4	
【非正規】 子供の有無	子どもなし	243	7.0	11.1	16.5	32.9	32.5		18.1	65.4	
	子どもあり	63	4.8	12.7	17.5	31.7	33.3		17.5	65.1	
【非正規】 年齢	16～29歳	55	7.3	9.1	12.7	32.7	38.2		16.4	70.9	
	30～39歳	55	9.1	18.2	18.2	32.7	21.8		27.3	54.5	
	40～49歳	77	9.1	7.8	15.6	24.7	42.9		16.9	67.5	
	50～59歳	70	2.9	7.1	20.0	42.9	27.1		10.0	70.0	
	60～69歳	49	4.1	18.4	16.3	30.6	30.6		22.4	61.2	
	結婚・事実婚をしたことがない	212	7.5	11.3	17.0	30.7	33.5		18.9	64.2	
【非正規】 婚姻状況	離・死別	94	4.3	11.7	16.0	37.2	30.9		16.0	68.1	
	同居家族の 就労人員数	178	6.2	12.4	11.8	35.4	34.3		18.5	69.7	
同居家族の 就労人員数	1人	62	6.5	6.5	19.4	32.3	35.5		12.9	67.7	
	2人以上	66	7.6	13.6	27.3	25.8	25.8		21.2	51.5	

※n=30未満は参考値

ウ 将来・老後への不安感：非正規・若年で将来・老後への不安感の高まりが大きい。

2019年12月以前と比べて、最も大変だった時期の将来・老後への不安について、「不安あり（「不安」「やや不安）」と回答した者は、正規は44.0%から60.3%、非正規は49.3%から68.6%になっていた。年齢階級別に見てみると、将来・老後への不安感の高まりが最も大きいのは、非正規の16～29歳で47.3%から72.7%へと25.4ポイント高くなっていた。

図表 37 不安感の変化（将来・老後）

(a) 2019年12月以前

			不安なし・計			不安あり・計		(%)	不安なし・計	不安あり・計
			不安はなかった	あまり不安はなかった	どちらとも言えない	やや不安	不安			
n=										
全体		606	12.2	19.0	22.1	28.4	18.3		31.2	46.7
就業形態	正規	300	14.7	19.3	22.0	30.0	14.0		34.0	44.0
	非正規	306	9.8	18.6	22.2	26.8	22.5		28.4	49.3
【非正規】 就労状況	パート・アルバイト	116	9.5	21.6	23.3	25.0	20.7		31.0	45.7
	契約・嘱託	35	17.1	22.9	17.1	25.7	17.1		40.0	42.9
	派遣社員	55	7.3	16.4	25.5	25.5	25.5		23.6	50.9
	業務請負等	7	14.3		42.9	14.3	28.6		14.3	42.9
	自営業・家族従業	28	17.9		25.0	28.6	28.6		17.9	57.1
	休業中 その他	34 42	11.8 11.9	11.8 19.0	20.6 16.7	26.5 38.1	29.4 14.3		23.5 31.0	55.9 52.4
【非正規】 子供の有無	子どもなし	243	10.3	18.1	20.2	28.0	23.5		28.4	51.4
	子どもあり	63	7.9	20.6	30.2	22.2	19.0		28.6	41.3
【非正規】 年齢	16～29歳	55	12.7	25.5	14.5	25.5	21.8		38.2	47.3
	30～39歳	55	20.0	16.4	20.0	16.4	27.3		36.4	43.6
	40～49歳	77	3.9	13.0	23.4	29.9	29.9		16.9	59.7
	50～59歳	70	5.7	17.1	27.1	31.4	18.6		22.9	50.0
	60～69歳	49	10.2	24.5	24.5	28.6	12.2		34.7	40.8
【非正規】 婚姻状況	結婚・事実婚をしたことがない	212	11.8	17.0	19.8	27.8	23.6		28.8	51.4
	離・死別	94	5.3	22.3	27.7	24.5	20.2		27.7	44.7
【非正規】 同居家族の 就労人員数	0人	178	10.1	17.4	23.6	26.4	22.5		27.5	48.9
	1人	62	6.5	22.6	14.5	30.6	25.8		29.0	56.5
	2人以上	66	12.1	18.2	25.8	24.2	19.7		30.3	43.9

※n=30未満は参考値

(b) 最も大変だった時期

			不安なし・計			不安あり・計		(%)	不安なし・計	不安あり・計
			不安はなかった	あまり不安はなかった	どちらとも言えない	やや不安	不安			
n=										
全体		606	8.6	9.2	17.7	30.4	34.2		17.8	64.5
就業形態	正規	300	10.7	10.7	18.3	31.7	28.7		21.3	60.3
	非正規	306	6.5	7.8	17.0	29.1	39.5		14.4	68.6
【非正規】 就労状況	パート・アルバイト	116	5.2	9.5	17.2	32.8	35.3		14.7	68.1
	契約・嘱託	35	17.1	5.7	17.1	25.7	34.3		22.9	60.0
	派遣社員	55	5.5	7.3	21.8	23.6	41.8		12.7	65.5
	業務請負等	7	14.3		28.6	28.6	28.6		14.3	57.1
	自営業・家族従業	28	3.6	17.9	35.7	28.6	42.9		3.6	78.6
	休業中 その他	34 42	2.9 9.5	5.9 7.1	8.8 9.5	20.6 28.6	61.8 45.2		8.8 16.7	82.4 73.8
【非正規】 子供の有無	子どもなし	243	7.0	8.2	16.0	28.8	39.9		15.2	68.7
	子どもあり	63	4.8	6.3	20.6	30.2	38.1		11.1	68.3
【非正規】 年齢	16～29歳	55	5.5	12.7	9.1	34.5	38.2		18.2	72.7
	30～39歳	55	12.7	10.9	23.6	14.5	38.2		23.6	52.7
	40～49歳	77	3.9	2.6	13.0	28.6	51.9		6.5	80.5
	50～59歳	70	2.9	2.9	22.9	35.7	35.7		5.7	71.4
	60～69歳	49	10.2	14.3	16.3	30.6	28.6		24.5	59.2
【非正規】 婚姻状況	結婚・事実婚をしたことがない	212	7.5	7.5	14.2	28.8	42.0		15.1	70.8
	離・死別	94	4.3	8.5	23.4	29.8	34.0		12.8	63.8
【非正規】 同居家族の 就労人員数	0人	178	6.7	9.0	17.4	26.4	40.4		15.7	66.9
	1人	62	3.2	4.8	12.9	37.1	41.9		8.1	79.0
	2人以上	66	9.1	7.6	19.7	28.8	34.8		16.7	63.6

※n=30未満は参考値

エ 家族の介護や育児への不安感：中年層で不安感が高い。

2019年12月以前と比べて、最も大変だった時期の家族の介護や育児への不安について、「不安あり（「不安」「やや不安」）」と回答した者は、正規は19.7%から35.0%、非正規は26.5%から38.9%になっていた。年齢階級別にみると、最も大変だった時期に家族の介護や育児への不安感が最も高かったのは、非正規の40～49歳の者で55.8%だったが、2019年12月以前でも48.1%と高かった。また、最も増加幅が大きかったのは、現在休業中の者で、32.4%から58.8%となっている。

図表 38 不安感の変化（家族の介護や育児）

(a) 2019年12月以前

		n=	不安なし・計			不安あり・計			不安なし・計	不安あり・計
			不安はなかった	あまり不安はなかった	どちらとも言えない	やや不安	不安			
	全体	606	28.9	20.6	27.4	14.7	8.4	49.5	23.1	
就業形態	正規	300	29.0	22.3	29.0	12.0	7.7	51.3	19.7	
	非正規	306	28.8	19.0	25.8	17.3	9.2	47.7	26.5	
【非正規】 就労状況	パート・アルバイト	116	31.0	24.1	25.9	12.1	6.9	55.2	19.0	
	契約・嘱託	35	48.6	14.3	17.1	14.3	5.7	62.9	20.0	
	派遣社員	55	23.6	14.5	25.5	23.6	12.7	38.2	36.4	
	業務請負等	7	42.9	28.6	14.3	14.3		42.9	28.6	
	自営業・家族従業員	28	28.6	14.3	21.4	25.0	10.7	42.9	35.7	
	休業中	34	17.6	23.5	26.5	20.6	11.8	41.2	32.4	
	その他	42	26.2	14.3	33.3	19.0	7.1	40.5	26.2	
【非正規】 子供の有無	子どもなし	243	30.5	19.8	22.6	18.9	8.2	50.2	27.2	
	子どもあり	63	22.2	15.9	38.1	11.1	12.7	38.1	23.8	
【非正規】 年齢	16～29歳	55	45.5	20.0	18.2	9.1	7.3	65.5	16.4	
	30～39歳	55	36.4	21.8	21.8	10.9	9.1	58.2	20.0	
	40～49歳	77	14.3	13.0	24.7	28.6	19.5	27.3	48.1	
	50～59歳	70	22.9	15.7	37.1	18.6	5.7	38.6	24.3	
	60～69歳	49	32.7	28.6	24.5	14.3		61.2	14.3	
	結婚・事実婚をしたことがない	212	30.7	18.4	23.1	18.9	9.0	49.1	27.8	
婚姻状況	離・死別	94	24.5	20.2	31.9	13.8	9.6	44.7	23.4	
	【非正規】0人	178	28.7	17.4	25.8	18.5	9.6	46.1	28.1	
同居家族の 就労人員数	1人	62	25.8	17.7	17.7	25.8	12.9	43.5	38.7	
	2人以上	66	31.8	24.2	33.3	6.1	4.5	56.1	10.6	

※n=30未満は参考値

(b) 最も大変だった時期

		n=	不安なし・計			不安あり・計		不安なし・計	不安あり・計	
			不安はなかった	あまり不安はなかった	どちらとも言えない	やや不安	不安			
全体		606	21.9	15.0	26.1	21.5	15.5	37.0	37.0	
就業形態	正規	300	20.7	16.3	28.0	19.3	15.7	37.0	35.0	
	非正規	306	23.2	13.7	24.2	23.5	15.4	36.9	38.9	
【非正規】 就労状況	パート・アルバイト	116	25.0	17.2	23.3	21.6	12.9	42.2	34.5	
	契約・嘱託	35		42.9	14.3	20.0	14.3	8.6	57.1	22.9
	派遣社員	55	20.0	12.7	27.3	21.8	18.2		32.7	40.0
	業務請負等	7		57.1			42.9		-	42.9
	自営業・家族従業員	28	21.4	7.1	25.0	35.7	10.7		28.6	46.4
	休業中	34	8.8	11.8	20.6	32.4	26.5		20.6	58.8
	その他	42	23.8	11.9	21.4	28.6	14.3		35.7	42.9
【非正規】 子供の有無	子どもなし	243	25.9	14.0	23.5	23.5	13.2	39.9	36.6	
	子どもあり	63	12.7	12.7	27.0	23.8	23.8	25.4	47.6	
【非正規】 年齢	16～29歳	55		34.5	21.8	14.5	20.0	9.1	56.4	29.1
	30～39歳	55	25.5		16.4	29.1	16.4	12.7	41.8	29.1
	40～49歳	77	15.6	7.8	20.8	24.7	31.2		23.4	55.8
	50～59歳	70	18.6	5.7	34.3		28.6	12.9	24.3	41.4
	60～69歳	49	26.5		22.4	20.4	26.5	4.1	49.0	30.6
【非正規】 婚姻状況	結婚・事実婚をしたことがない	212	26.4	12.3	23.1	22.6	15.6	38.7	38.2	
	離・死別	94	16.0	17.0	26.6	25.5	14.9	33.0	40.4	
【非正規】 同居家族の 就労人員数	0人	178	24.2	11.2	24.7	24.7	15.2	35.4	39.9	
	1人	62	19.4	14.5	17.7	25.8	22.6	33.9	48.4	
	2人以上	66	24.2	19.7	28.8		18.2	9.1	43.9	27.3

※n=30未満は参考値

オ 家族・親族関係への不安感：正規のほうが不安感が高い。

2019年12月以前と比べて、最も大変だった時期の家族・親族関係への不安感は、正規は23.0%から37.7%、非正規は19.3%から34.3%になっていた。コロナ禍以前と最も大変だった時期において、どちらも不安感は正規の方が非正規より高いが、不安感の上昇率については非正規の方が正規よりも高い。年齢階級別に見ると、50～59歳の不安感が最も高まっている。

図表 39 不安感の変化（家族・親族関係）

(a) 2019年12月以前

n=			不安なし・計			不安あり・計			不安なし・計	不安あり・計
			不安はなかった	あまり不安はなかった	どちらとも言えない	やや不安	不安	(%)		
就業形態	全体	606	30.4	24.3	24.3	12.7	8.4	54.6	21.1	
	正規	300	30.3	25.3	21.3	14.3	8.7	55.7	23.0	
	非正規	306	30.4	23.2	27.1	11.1	8.2	53.6	19.3	
【非正規】 就労状況	パート・アルバイト	116	33.6	23.3	25.9	9.5	7.8	56.9	17.2	
	契約・嘱託	35	42.9	20.0	20.0	11.4	5.7	62.9	17.1	
	派遣社員	55	29.1	25.5	23.6	12.7	9.1	54.5	21.8	
	業務請負等	7	42.9	14.3	28.6	14.3		57.1	14.3	
	自営業・家族従業	28	21.4	25.0	32.1	10.7	10.7	46.4	21.4	
	休業中	34	23.5	20.6	35.3	11.8	8.8	44.1	20.6	
	その他	42	26.2	23.8	31.0	11.9	7.1	50.0	19.0	
【非正規】 子供の有無	子どもなし	243	32.1	22.6	25.1	12.3	7.8	54.7	20.2	
	子どもあり	63	23.8	25.4	34.9	6.3	9.5	49.2	15.9	
【非正規】 年齢	16～29歳	55	38.2	21.8	16.4	12.7	10.9	60.0	23.6	
	30～39歳	55	30.9	18.2	27.3	12.7	10.9	49.1	23.6	
	40～49歳	77	26.0	16.9	31.2	11.7	14.3	42.9	26.0	
	50～59歳	70	27.1	27.1	34.3	8.6	2.9	54.3	11.4	
	60～69歳	49	32.7	34.7	22.4	10.2		67.3	10.2	
【非正規】 婚姻状況	結婚・事実婚をしたことがない	212	33.5	20.3	24.5	12.7	9.0	53.8	21.7	
	離・死別	94	23.4	29.8	33.0	7.4	6.4	53.2	13.8	
【非正規】 同居家族の 就労人員数	0人	178	28.7	22.5	29.8	10.1	9.0	51.1	19.1	
	1人	62	38.7	16.1	21.0	16.1	8.1	54.8	24.2	
	2人以上	66	27.3	31.8	25.8	9.1	6.1	59.1	15.2	

※n=30未満は参考値

(b) 最も大変だった時期

n=			不安なし・計			不安あり・計			不安なし・計	不安あり・計
			不安はなかった	あまり不安はなかった	どちらとも言えない	やや不安	不安	(%)		
就業形態	全体	606	22.1	19.1	22.8	21.1	14.9	41.3	36.0	
	正規	300	21.3	20.3	20.7	21.3	16.3	41.7	37.7	
	非正規	306	22.9	18.0	24.8	20.9	13.4	40.8	34.3	
【非正規】 就労状況	パート・アルバイト	116	23.3	16.4	24.1	25.0	11.2	39.7	36.2	
	契約・嘱託	35	40.0	14.3	20.0	22.9	2.9	54.3	25.7	
	派遣社員	55	20.0	21.8	23.6	20.0	14.5	41.8	34.5	
	業務請負等	7	28.6	14.3	14.3	28.6		42.9	42.9	
	自営業・家族従業	28	21.4	17.9	28.6	17.9	14.3	39.3	32.1	
	休業中	34	5.9	20.6	29.4	14.7	29.4	26.5	44.1	
	その他	42	28.6	16.7	23.8	19.0	11.9	45.2	31.0	
【非正規】 子供の有無	子どもなし	243	25.5	18.1	23.9	22.2	10.3	43.6	32.5	
	子どもあり	63	12.7	17.5	28.6	15.9	25.4	30.2	41.3	
【非正規】 年齢	16～29歳	55	32.7	23.6	10.9	25.5	7.3	56.4	32.7	
	30～39歳	55	25.5	12.7	32.7	12.7	16.4	38.2	29.1	
	40～49歳	77	18.2	10.4	23.4	22.1	26.0	28.6	48.1	
	50～59歳	70	15.7	18.6	31.4	25.7	8.6	34.3	34.3	
	60～69歳	49	26.5	28.6	24.5	16.3	4.1	55.1	20.4	
【非正規】 婚姻状況	結婚・事実婚をしたことがない	212	26.9	16.5	21.7	22.2	12.7	43.4	34.9	
	離・死別	94	13.8	21.3	31.9	18.1	14.9	35.1	33.0	
【非正規】 同居家族の 就労人員数	0人	178	22.5	18.5	24.7	20.2	14.0	41.0	34.3	
	1人	62	27.4	12.9	22.6	24.2	12.9	40.3	37.1	
	2人以上	66	19.7	21.2	27.3	19.7	12.1	40.9	31.8	

※n=30未満は参考値

カ 職場の人間関係への不安感：正規のほうが不安感が高い。

2019 年 12 月以前と比べて、最も大変だった時期の職場の人間関係への不安感は、正規は 23.0%から 37.3%、非正規は 16.7%から 30.7%になっていた。

図表 40 不安感の変化（職場の人間関係）

(a) 2019 年 12 月以前

		n=	不安なし・計			不安あり・計			不安なし・計	不安あり・計
			不安はなかった	あまり不安はなかった	どちらとも言えない	やや不安	不安			
	全体	606	28.1	23.3		28.9	12.5	7.3	51.3	19.8
就業形態	正規	300	24.7	25.7		26.7	15.7	7.3	50.3	23.0
	非正規	306	31.4	20.9		31.0	9.5	7.2	52.3	16.7
【非正規】 就労状況	パート・アルバイト	116	30.2	25.0		29.3	9.5	6.0	55.2	15.5
	契約・嘱託	35	31.4	17.1		28.6	17.1	5.7	48.6	22.9
	派遣社員	55	25.5	23.6		30.9	10.9	9.1	49.1	20.0
	業務請負等	7	42.9	14.3		42.9			57.1	-
	自営業・家族従業	28	42.9	17.9		25.0	3.6	10.7	60.7	14.3
	休業中	34	32.4	11.8		32.4	11.8	11.8	44.1	23.5
	その他	42	38.1	16.7		35.7	7.1	2.4	54.8	9.5
【非正規】 子供の有無	子どもなし	243	34.6	19.8		28.4	10.7	6.6	54.3	17.3
	子どもあり	63	19.0	25.4		41.3	4.8	9.5	44.4	14.3
【非正規】 年齢	16～29歳	55	43.6	21.8		16.4	12.7	5.5	65.5	18.2
	30～39歳	55	32.7	12.7		36.4	9.1	9.1	45.5	18.2
	40～49歳	77	24.7	19.5		32.5	10.4	13.0	44.2	23.4
	50～59歳	70	27.1	24.3		34.3	10.0	4.3	51.4	14.3
	60～69歳	49	32.7	26.5		34.7	4.1	2.0	59.2	6.1
【非正規】 婚姻状況	結婚・事実婚をしたことがない	212	37.7	17.9		28.3	9.0	7.1	55.7	16.0
	離・死別	94	17.0	27.7		37.2	10.6	7.4	44.7	18.1
【非正規】 同居家族の 就労人員数	0人	178	34.8	18.0		30.9	8.4	7.9	52.8	16.3
	1人	62	29.0	24.2		25.8	12.9	8.1	53.2	21.0
	2人以上	66	24.2	25.8		36.4	9.1	4.5	50.0	13.6

※n=30未満は参考値

(b) 最も大変だった時期

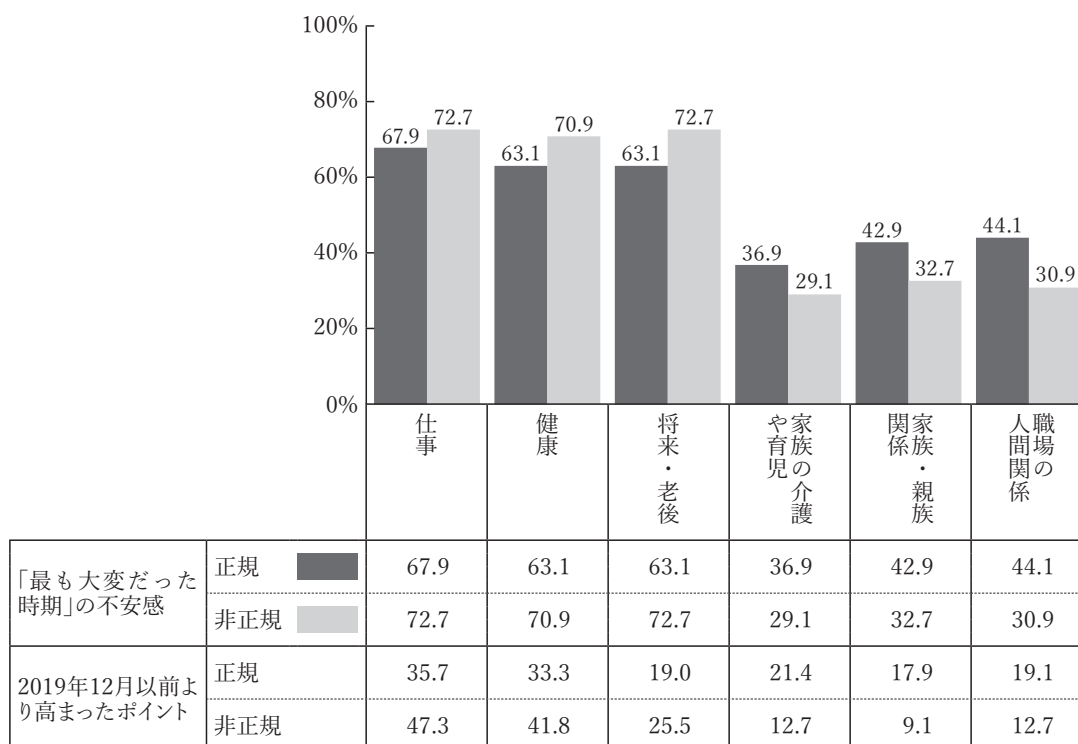
		n=	不安なし・計			不安あり・計		(%)	不安なし・計	不安あり・計
			不安はなかった	あまり不安はなかった	どちらとも言えない	やや不安	不安			
就業形態	全体	606	21.5	19.6	24.9	19.5	14.5	41.1	34.0	
	正規	300	17.7	22.7	22.3	23.7	13.7	40.3	37.3	
	非正規	306	25.2	16.7	27.5	15.4	15.4	41.8	30.7	
【非正規】 就労状況	パート・アルバイト	116	23.3	17.2	25.9	19.0	14.7	40.5	33.6	
	契約・嘱託	35	28.6	22.9	17.1	17.1	14.3	51.4	31.4	
	派遣社員	55	21.8	14.5	27.3	21.8	14.5	36.4	36.4	
	業務請負等	7	28.6	14.3	28.6	28.6		42.9	28.6	
	自営業・家族従業	28	32.1	17.9	25.0	17.9	7.1	50.0	25.0	
	休業中	34	20.6	8.8	29.4	5.9	35.3	29.4	41.2	
	その他	42	33.3	16.7	33.3	7.1	9.5	50.0	16.7	
【非正規】 子供の有無	子どもなし	243	27.2	18.1	25.1	16.0	13.6	45.3	29.6	
	子どもあり	63	17.5	11.1	36.5	12.7	22.2	28.6	34.9	
【非正規】 年齢	16～29歳	55	30.9	21.8	16.4	14.5	16.4	52.7	30.9	
	30～39歳	55	30.9	12.7	29.1	10.9	16.4	43.6	27.3	
	40～49歳	77	18.2	13.0	22.1	20.8	26.0	31.2	46.8	
	50～59歳	70	21.4	17.1	38.6	15.7	7.1	38.6	22.9	
	60～69歳	49	28.6	20.4	30.6	12.2	8.2	49.0	20.4	
【非正規】 婚姻状況	結婚・事実婚をしたことがない	212	30.2	16.5	23.6	14.2	15.6	46.7	29.7	
	離・死別	94	13.8	17.0	36.2	18.1	14.9	30.9	33.0	
【非正規】 同居家族の 就労人員数	0人	178	26.4	16.9	26.4	13.5	16.9	43.3	30.3	
	1人	62	24.2	17.7	25.8	16.1	16.1	41.9	32.3	
	2人以上	66	22.7	15.2	31.8	19.7	10.6	37.9	30.3	

※n=30未満は参考値

<年齢階級別にみる不安感の変化>

- ・ 若年層（16～29歳）の不安感に関する回答を見ると、「仕事」「健康」「将来・老後」の項目が最も高く、非正規の場合、「最も大変だった時期」に不安を感じていた者（「不安」「やや不安」と回答）の割合はいずれも回答者の7割を超えている。正規でも上記の項目に対する不安感の増加がみられるが、非正規の増加幅の方が大きい。
- ・ 非正規の場合、「仕事」への不安が最も増加しており、2019年12月以前と比べ、最も大変だった時期の不安感は、47.3ポイント増加している。「健康」への不安は41.8ポイント、「将来・老後」への不安も25.5ポイント増加している。
- ・ 一方、「家族の介護や育児」「家族・親族関係」と「職場の人間関係」については、正規の方が不安感が高く、2019年12月と比較した増加幅も大きいことがわかる。

図表 41 29歳以下の不安感の変化（正規・非正規別）



「不安感」の変化のまとめ：コロナ禍で不安感が高まった。

「仕事」「健康」「将来・老後」「家族の介護・看病」「家族・親族関係」「職場の人間関係」のいずれについても2019年12月以前と比べると、最も大変だった時期は、正規・非正規を問わず不安感が高まっていた。

非正規については、不安と答えた者の割合が高い順から「将来・老後」「健康」「仕事」「家族の介護や育児」「家族・親族関係」「職場の人間関係」だった。正規では、「健康」「将来・老後」「仕事」「家族・親族関係」「職場の人間関係」「家族の介護・看病」の順だった。

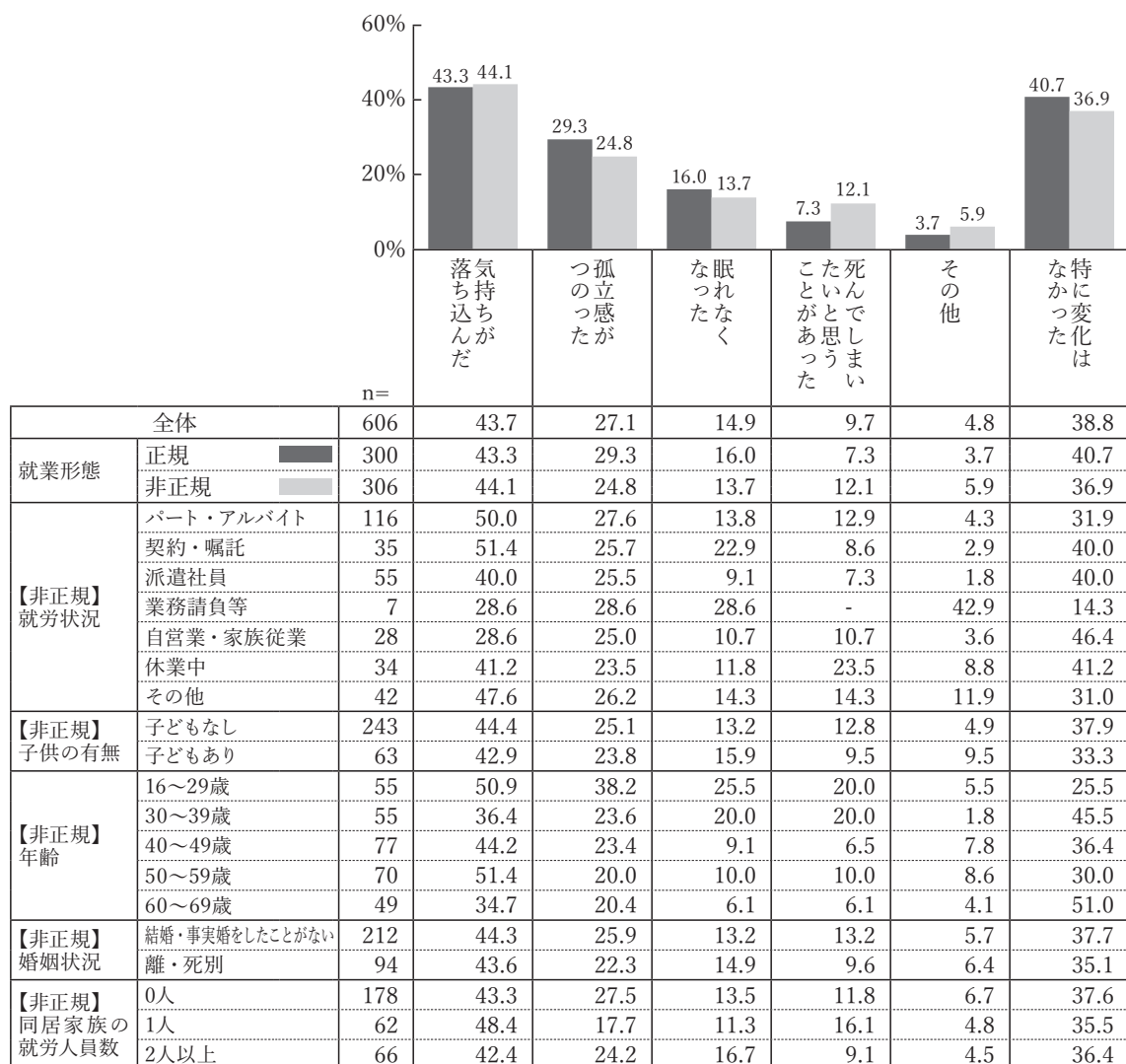
キ コロナ禍による心身の変化：コロナ禍は心身の健康に大きなマイナスの影響をもたらした。

Q3_2 コロナの拡大により生じた心身の変化について伺います。具体的にどのような変化がありましたか？(MA)

正規・非正規ともに最も多かったのは、「気持ちが落ち込んだ」で非正規は 44.1%、正規は 43.3%だった。「孤独感がつのった」は非正規が 24.8%、正規が 29.3%、「眠れなくなった」は非正規が 13.7%、正規が 16.0%だった。

非正規の 12.1%と 8 人に 1 人以上、正規の 7.3%と 14 人に 1 人近くが、「死んでしまいたいと思うことがあった」と回答している。年齢階級別に見ると、非正規の 16～29 歳と 30～39 歳で 20%が「死んでしまいたいと思うことがあった」と回答している。

図表 42 コロナ禍による心身の変化



※n=30未満は参考値

※全体の値を基準に降順並び替え

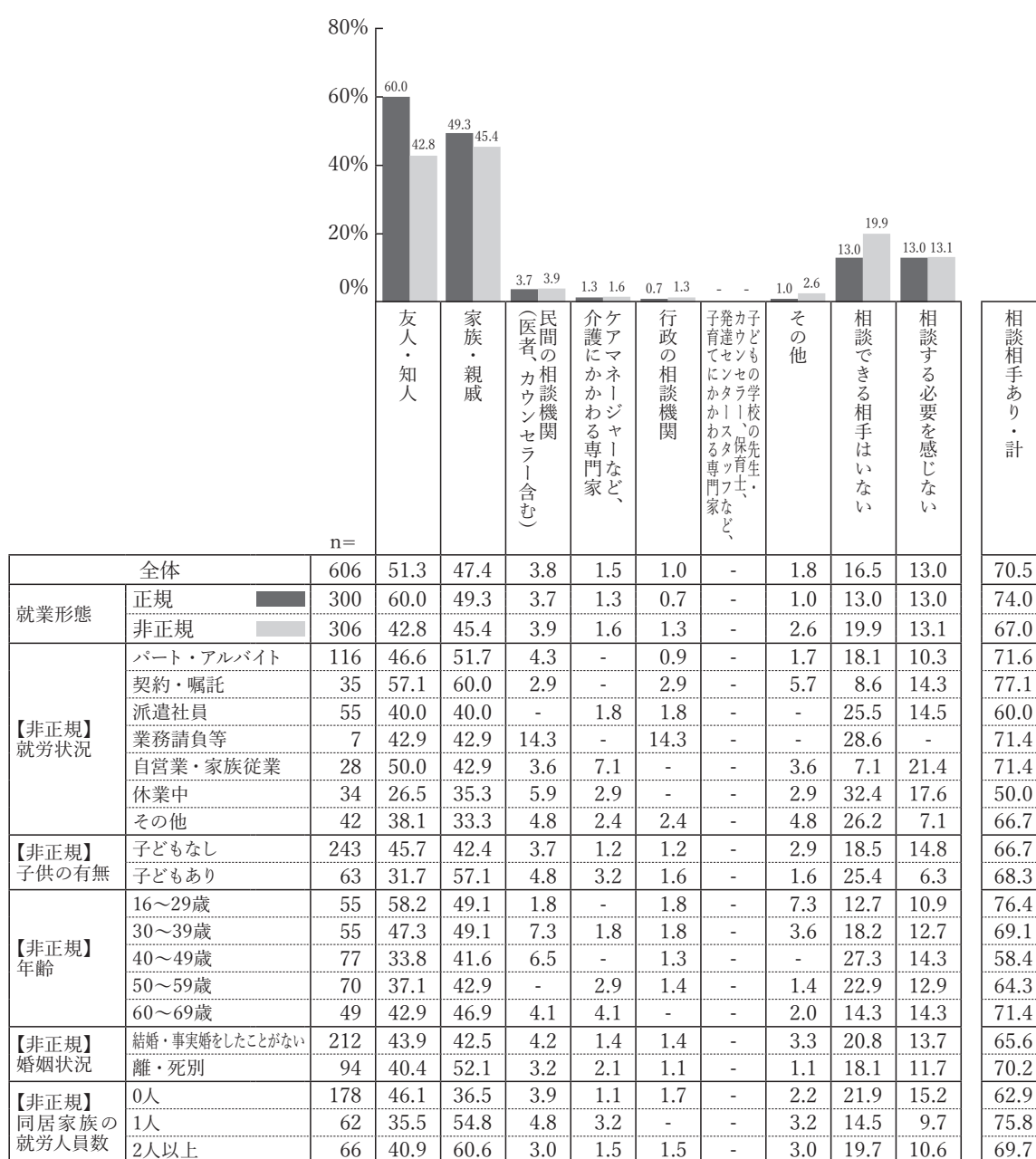
ク 悩み・不安の相談先:非正規の5人に1人は相談できる相手がいないと回答している。

Q4 新型コロナウイルス感染症に関する支援と情報へのアクセスについて伺います。

Q4_1 あなたは悩みや不安があるとき、誰に相談していますか？ (MA)

非正規で多かったのは「家族・親戚」45.4%、「友人・知人」42.8%だった。正規で多かったのは「友人・知人」60.0%、「家族・親戚」49.3%だった。「相談できる相手はいない」と回答した者は、非正規で19.9%に対し、正規で13.0%だった。

図表 43 悩み・不安の相談先



※n=30未満は参考値

※全体の値を基準に降順並び替え

⑤ 新型コロナウイルス感染症に関連する生活・仕事の支援・制度について

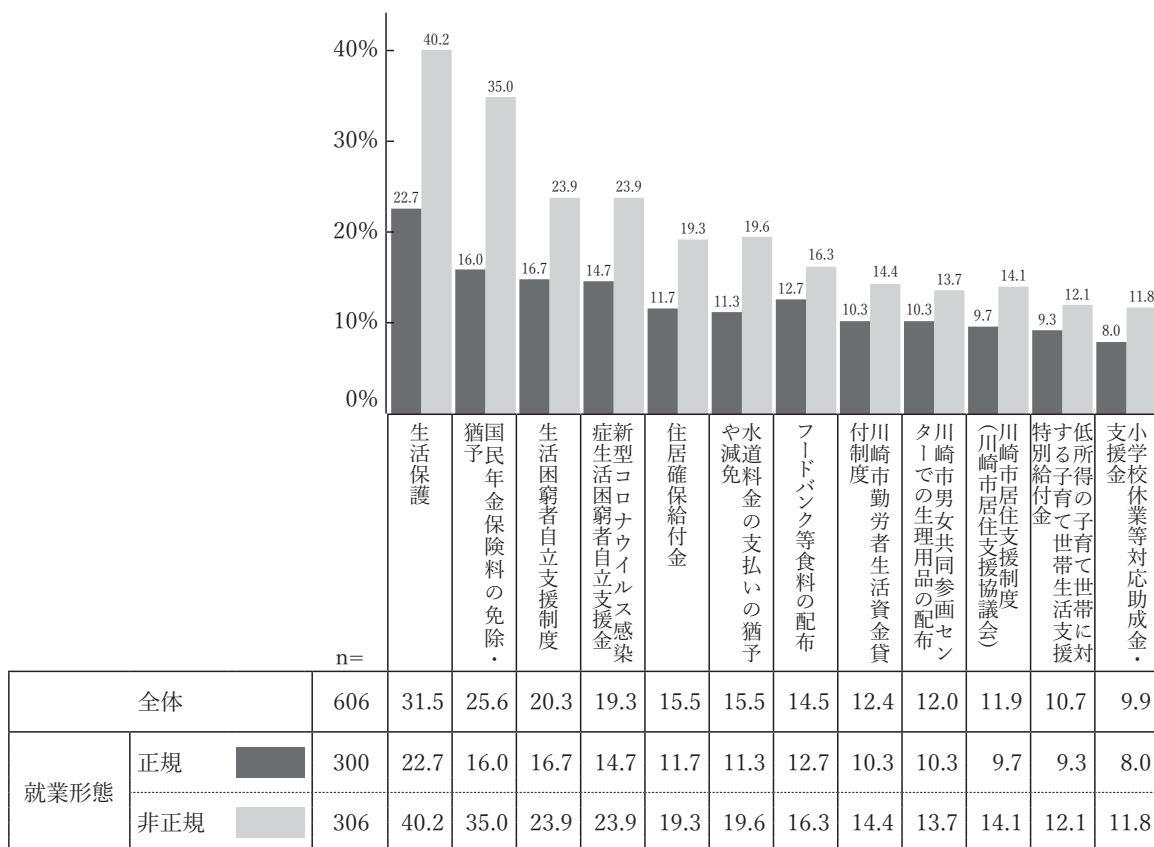
ア 生活支援制度の認知度：非正規のほうが正規より認知度が高い。

Q4_2_1 新型コロナウイルス感染症に関わる生活支援を提供する以下の支援や制度について伺います。(SA)

「知っていて、利用した」「知っているが、利用しなかった」と回答した割合を合計した正規・非正規全体の支援・制度の認知度について、高かった順に、「生活保護」31.5%、「国民年金保険料の免除・猶予」25.6%、「生活困窮者自立支援制度」20.3%、「新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金」19.3%、「住居確保給付金」15.5%、「水道料金の支払い猶予や減免」15.5%、「フードバンク等食料の配布」14.5%、「川崎市勤労者生活資金貸付制度」12.4%、「川崎市男女共同参画センターでの生理用品の配布」12.0%、「川崎市住居支援制度」11.9%、「低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金」10.7%、「小学校休業等対応助成金・支援金」9.9%。これらのすべての生活に関する支援・制度について、非正規のほうが正規より認知度が高かった。

非正規と正規で認知度が大きく異なるのは、「生活保護」「国民年金保険料の免除・猶予」「新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援制度」であった。

図表 44 生活に関する支援・制度の認知度（正規・非正規別）



イ 生活支援制度の利用状況：全体的に利用率は高くない。

生活支援・制度の利用について、非正規が利用した支援・制度（「知っており、利用した」と回答した者）の割合は、多い順に、「国民年金保険料の免除・猶予」が11.4%、「生活保護」が3.6%、「低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金」が2.3%であった。

図表 45 生活に関する支援・制度の利用状況（非正規）

		%				
		知っており、 利用した	知っているが、 利用しなかった	知らなかったが、 利用してみたい	知らなかったが、 利用したくない	必要ない
n=						
新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金	306	0.3	23.5	18.0	15.4	42.8
生活困窮者自立支援制度	306	0.7	23.2	16.3	16.3	43.5
生活保護	306	3.6	36.6	3.9	9.8	46.1
住居確保給付金	306	1.6	17.6	16.3	14.1	50.3
川崎市勤労者生活資金貸付制度	306	14.4	16.7	22.2		46.7
川崎市居住支援制度(川崎市居住支援協議会)	306	14.1	20.9	18.6		46.4
水道料金の支払いの猶予や減免	306	0.3	19.3	22.2	12.7	45.4
国民年金保険料の免除・猶予	306	11.4	23.5	14.1	9.8	41.2
フードバンク等食料の配布	306	1.0	15.4	19.6	13.1	51.0
川崎市男女共同参画センターでの生理用品の配布	306	0.3	13.4	18.0	13.7	54.6
低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金	306	2.3	9.8	8.8	10.8	68.3
小学校休業等対応助成金・支援金	306	0.3	11.4	7.8	9.8	70.6

正規では、生活に関する支援・制度の利用については、非正規に比べて全体的に低く、「知っており、利用した」と回答した者の割合は、多いものでも「国民年金保険料の免除・猶予」で2.3%、「フードバンク等の食料の配布」1.3%、「低所得の子育て世帯に対する子育て世帯支援特別給付金」1%しかなかった。

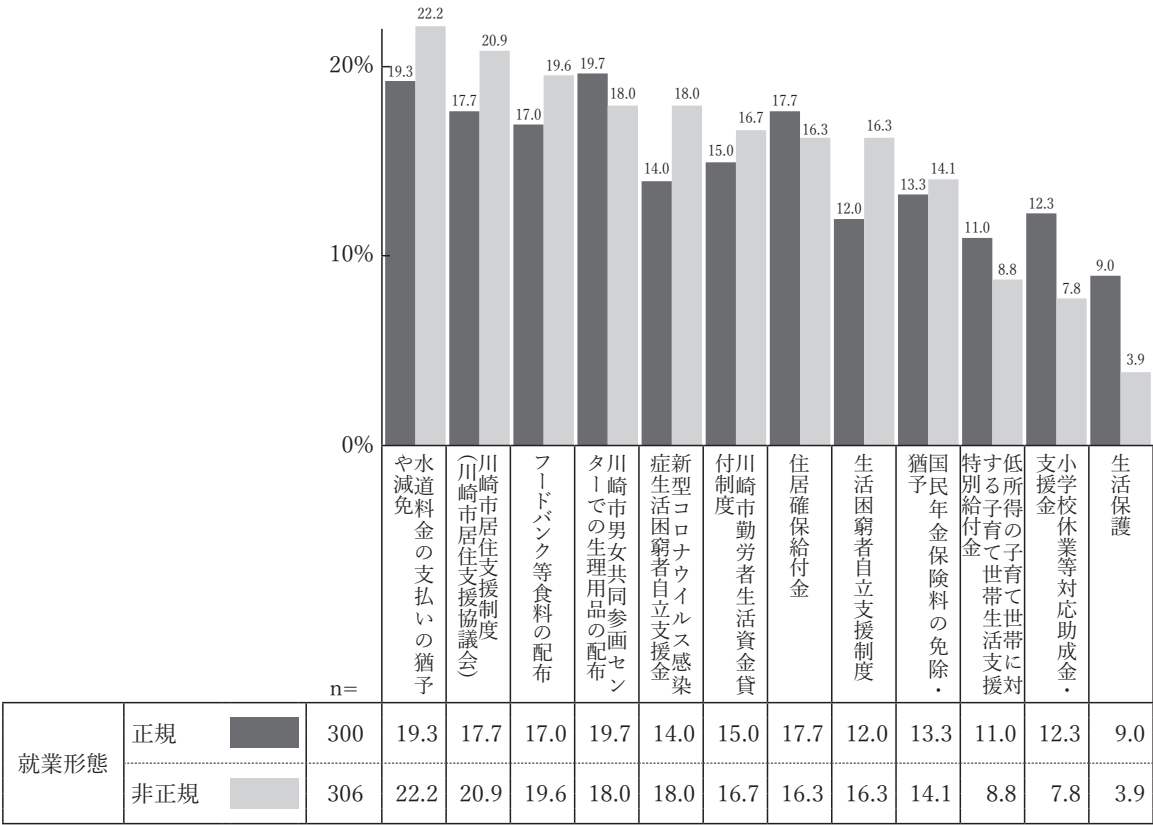
図表 46 生活に関する支援・制度の利用状況（正規）

		%				
		知っており、 利用した	知っているが、 利用しなかった	知らなかったが、 利用してみたい	知らなかったが、 利用したくない	必要ない
	n=					
新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金	300	0.7 14.0	14.0	12.0		59.3
生活困窮者自立支援制度	300	0.7 16.0	12.0	11.7		59.7
生活保護	300	0.7 22.0	9.0	7.7		60.7
住居確保給付金	300	0.3 11.3	17.7	11.3		59.3
川崎市勤労者生活資金貸付制度	300	0.7 9.7	15.0	14.3		60.3
川崎市居住支援制度(川崎市居住支援協議会)	300	0.3 9.3	17.7	12.3		60.3
水道料金の支払いの猶予や減免	300	0.3 11.0	19.3	11.3		58.0
国民年金保険料の免除・猶予	300	2.3 13.7	13.3	11.3		59.3
フードバンク等食料の配布	300	1.3 11.3	17.0	12.3		58.0
川崎市男女共同参画センターでの生理用品の配布	300	0.3 10.0	19.7	11.7		58.3
低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金	300	1.0 8.3	11.0	10.3		69.3
小学校休業等対応助成金・支援金	300	0.3 7.7	12.3	9.0		70.7

ウ 生活支援度のニーズ：全体的に非正規の方がニーズが高い。

「知らなかったが、利用してみたい」と答えた割合は、非正規で大きい順から「水道料金の支払い猶予や減免」22.2%、「川崎市住居支援制度」20.9%、「フードバンク等食料の配布」19.6%、「新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金」18%、「川崎市男女共同参画センターでの生理用品の配布」18%、「川崎市勤労者生活資金貸付制度」16.7%、「生活困窮者自立支援制度」16.3%、「住居確保給付金」16.3%、「国民年金保険料の免除・猶予」14.1%、「低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金」8.8%、「小学校休業等対応助成金・支援金」7.8%、「生活保護」3.9% となっている。

図表 47 生活に関する支援提供機関や制度のニーズ（「知らなかったが、利用してみたい」）
（正規・非正規別）



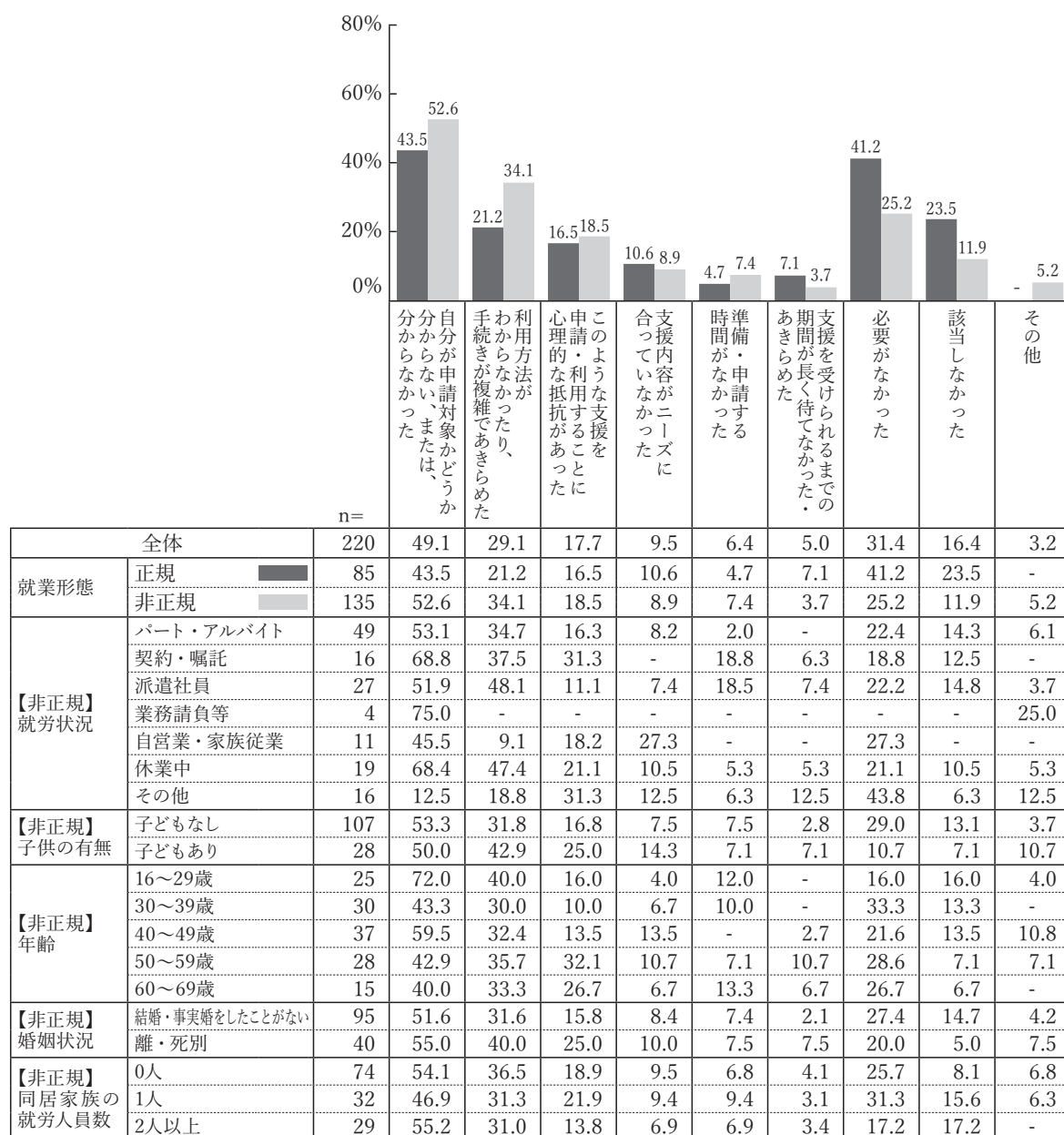
エ 生活支援制度を利用しなかった理由：要件や手続きがわかりにくい。

Q4_3 Q4_2_1 について、「知っているが、利用しなかった」と回答した方に伺います。

利用に至らなかった理由は何ですか？ (MA)

「知っていたが、利用しなかった」と回答した者の支援・制度を利用しなかった理由として、非正規の 52.6%、正規の 43.5% が「自分が申請対象かどうか分からない、または分からなかった」と回答した。非正規の 34.1% が「利用方法がわからなかったり、手続きが複雑であきらめた」、18.5% が「このような支援を申請・利用することに心理的な抵抗があった」と回答している。

図表 48 生活に関する支援・制度を利用しなかった理由



※n=30未満は参考値

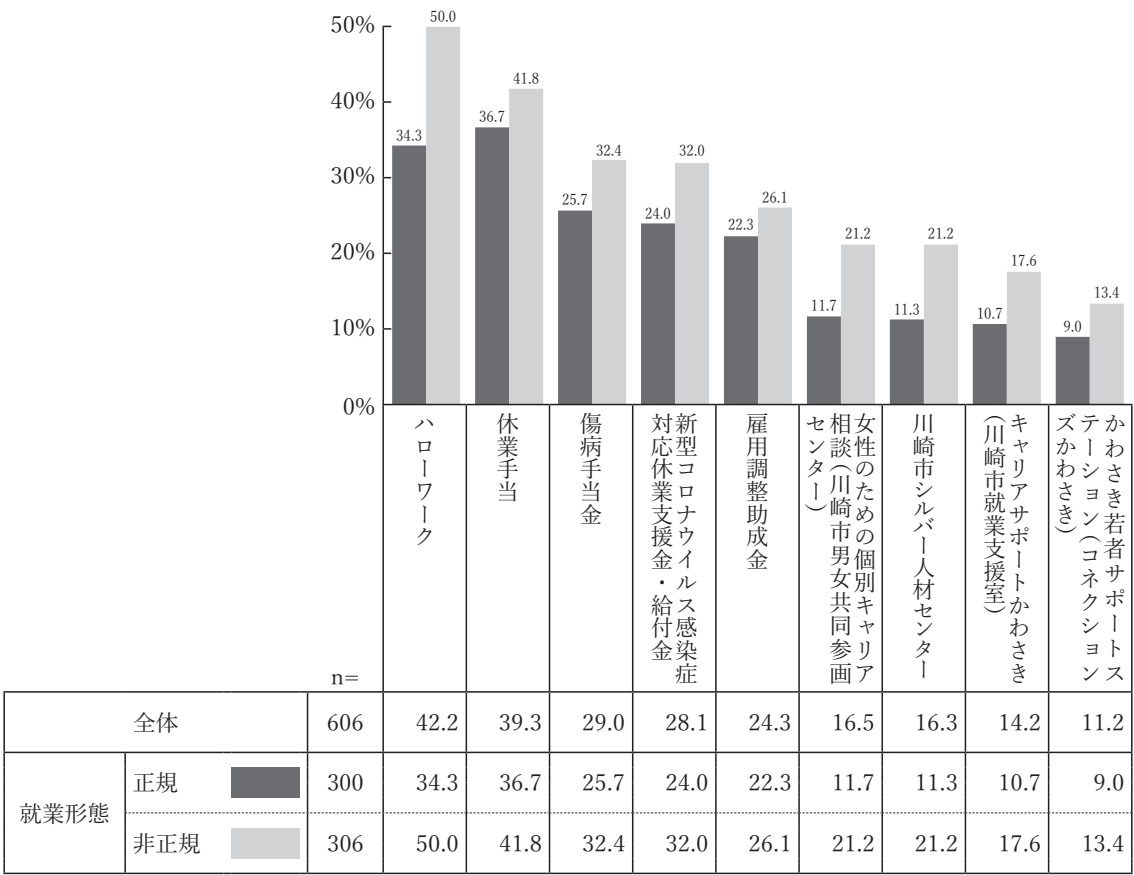
※全体の値を基準に降順並び替え

オ 仕事に関わる支援提供機関や制度の認知度：生活支援制度より仕事に関わる支援提供機関や制度のほうが、認知度が高く、全体的に非正規のほうが正規より認知度が高い。

Q4_4_1 仕事に関わる支援を提供する以下の機関や制度について知っていますか？(SA)

「知っていて、利用した」「知っているが、利用しなかった」と回答した割合を合計した正規・非正規全体の認知度について、高かった順に、「ハローワーク」42.2%、「休業手当」39.3%、「傷病手当金」29.0%、「新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金」28.1%、「雇用調整助成金」24.3%、「女性のための個別キャリア相談（川崎市男女共同参画センター）」16.5%、「川崎市シルバー人材センター」16.3%、「キャリアサポートかわさき（川崎市就業支援室）」14.2%、「かわさき若者サポートステーション」11.2%であった。これらのすべての仕事に関する支援・制度について、非正規のほうが正規より認知度が高かった。

図表 49 仕事に関わる支援提供機関や制度の認知度（正規・非正規別）



カ 仕事に関わる支援・制度の利用状況：ハローワークを除いて全体的に認知度は高くないが、正規に比べて非正規のほうが支援・制度の認知度が高い。

非正規では、「知っており、利用した」と回答した者の割合が高い順に、「ハローワーク」16.7%、「休業手当」7.8%、「傷病手当金」5.6%、「新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金」3.9%、「雇用調整助成金」2%であった。

図表 50 仕事に関わる支援提供機関や制度の利用状況（非正規）

		%				
	n=	知っており、 利用した	知っているが、 利用しなかった	知らなかったが、 利用してみたい	知らなかったが、 利用したくない	必要ない
休業手当	306	7.8	34.0	15.4	6.5	36.3
新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金	306	3.9	28.1	19.3	8.8	39.9
雇用調整助成金	306	2.0	24.2	20.9	8.8	44.1
傷病手当金	306	5.6	26.8	14.7	7.8	45.1
ハローワーク	306	16.7	33.3	6.2	5.9	37.9
女性のための個別キャリア相談(川崎市男女共同参画センター)	306	0.7	20.6	19.6	12.7	46.4
川崎市シルバー人材センター	306	0.7	20.6	10.8	8.8	59.2
かわさき若者サポートステーション(コネクションズかわさき)	306	0.3	13.1	16.0	13.1	57.5
キャリアサポートかわさき(川崎市就業支援室)	306	1.0	16.7	20.3	11.8	50.3

正規の場合は、「知っていて、利用した」と回答した者の割合が高い順に、「休業手当」8%、「ハローワーク」7.3%、「傷病手当金」5%、「雇用調整助成金」4.7%、「新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金」4%であった。

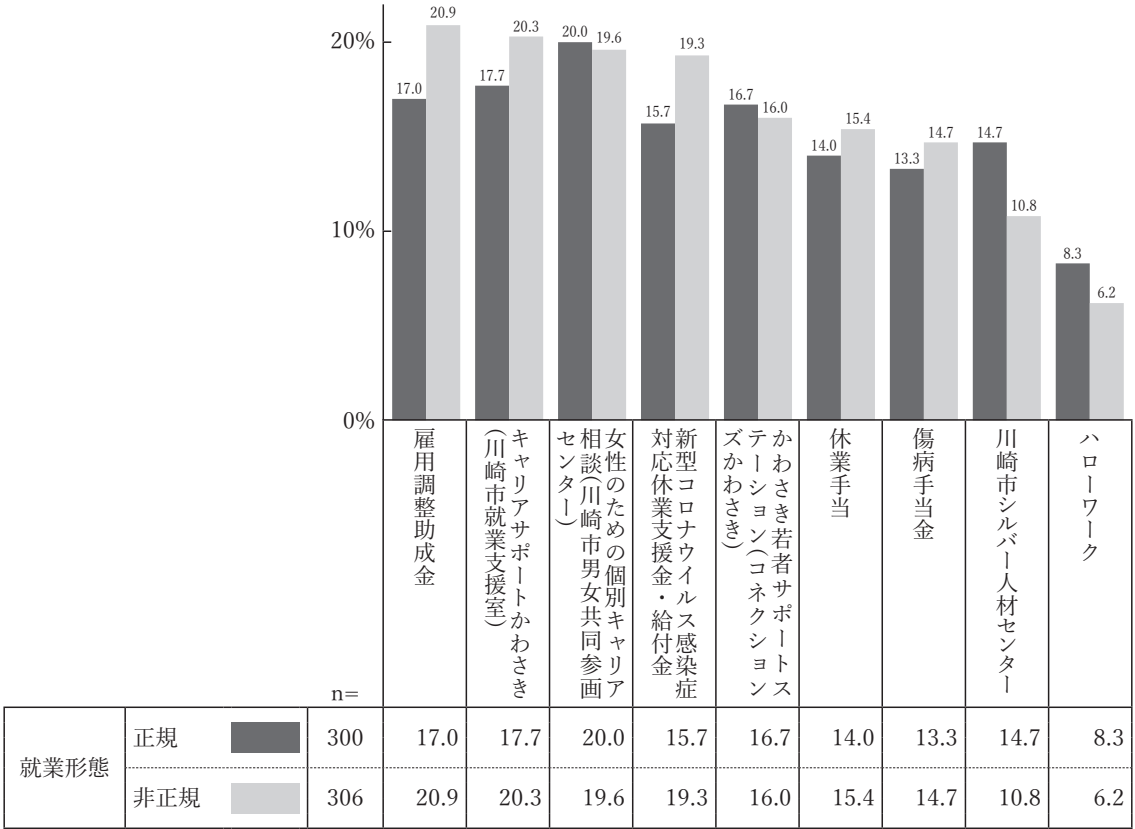
図表 51 仕事に関わる支援提供機関や制度の利用状況（正規）

							%	

キ 仕事に関わる支援・制度のニーズ：ニーズと認知度の間にギャップがみられる。

「知らなかったが、利用してみたい」と答えた割合は、非正規で大きい順から「雇用調整助成金」20.9%、「キャリアサポートかわさき（川崎市就業支援室）」20.3%、「女性のための個別キャリア相談（川崎市男女共同参画センター）」19.6%、「新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金」19.3%、「かわさき若者サポートステーション（コネクションズかわさき）」16%、「休業手当」15.4%であった。

図表 52 仕事に関わる支援提供機関や制度のニーズ（「知らなかったが、利用してみたい」）
（正規・非正規別）

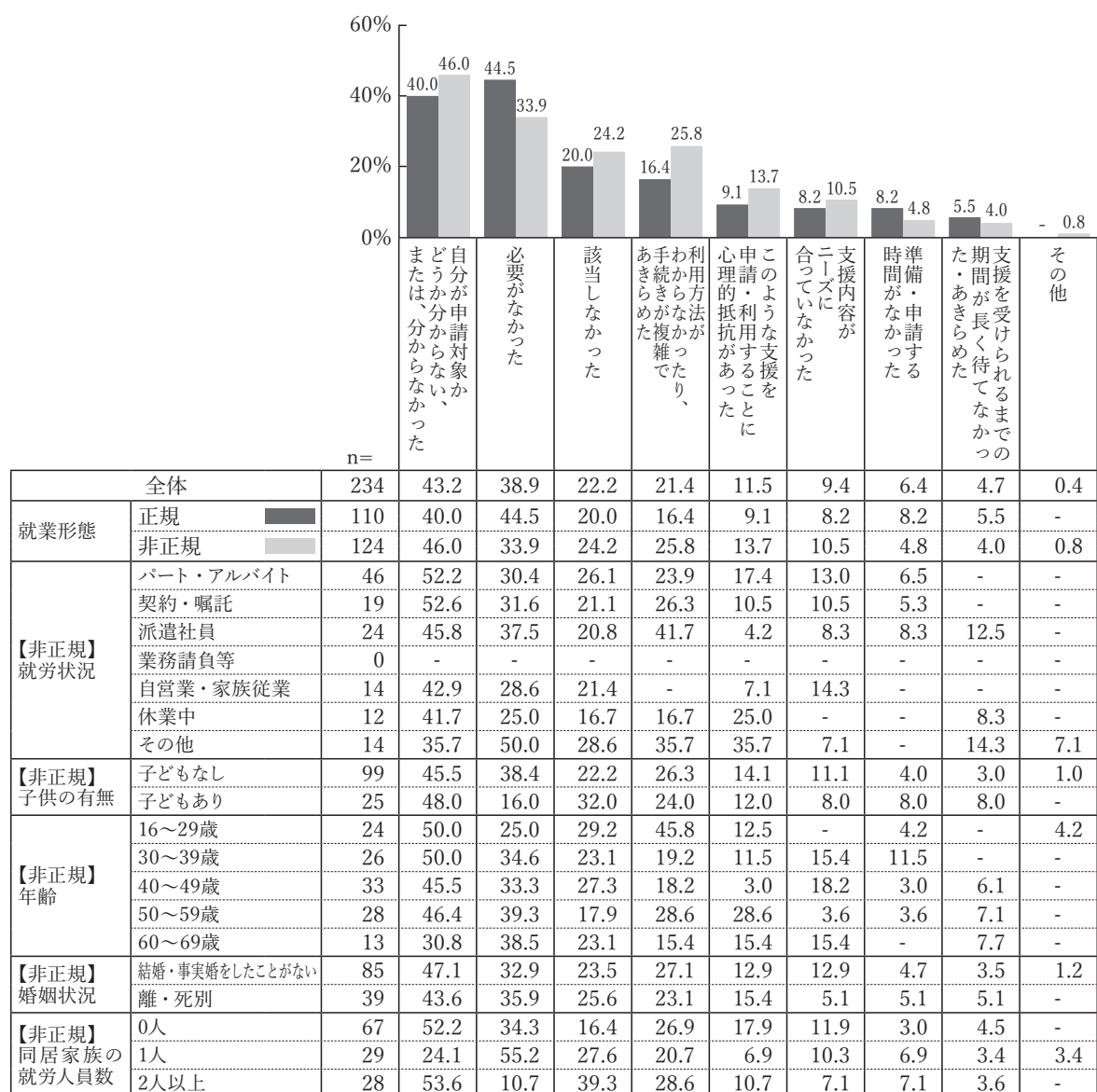


ク 仕事に関わる支援や制度を利用しなかった理由：要件や手続きがわかりにくい。

Q4_5 Q4_4_1 の支援機関や制度について、「知っているが、利用しなかった」と回答した方に伺います。利用に至らなかった理由は何ですか？ (MA)

「知っているが、利用しなかった」と回答した者の利用しなかった理由について、非正規の 46.0%、正規の 40.0%が「自分が申請対象かどうか分からない、または、分からなかった」と回答している。非正規の 25.8%が「利用方法がわからなかったり、手続きが複雑であきらめた」、13.7%が「このような支援を申請・利用することに心理的抵抗があった」と回答している。

図 53 仕事に関わる支援提供機関や制度を利用しなかった理由



※n=30未満は参考値

※全体の値を基準に降順並び替え

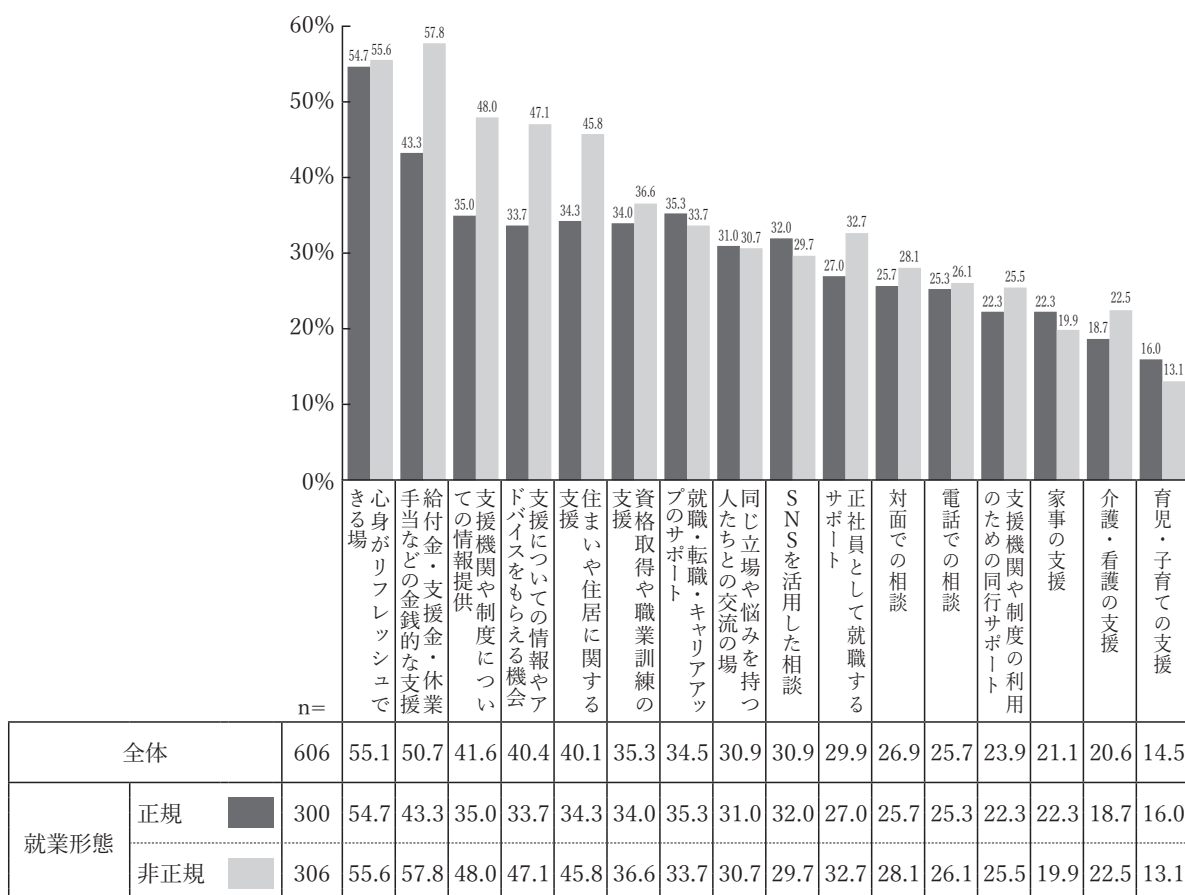
ケ 必要だと思う支援：半数以上が「心身がリフレッシュできる場」が必要と回答

Q4_6_1 以下の支援について、あなたが必要だと思うものはありますか？ (MA)

正規・非正規の合計で、「必要・やや必要」と答えた者の割合が高かったのは、「心身がリフレッシュできる場」55.1%、「給付金・支援金・休業手当などの金銭的な支援」50.7%、「支援機関や制度についての情報提供」41.6%、「支援についての情報やアドバイスをもらえる機会」40.4%、「住まいや住居に関する支援」40.1%、「資格取得や職業訓練の支援」35.3%、「就職・転職・キャリアアップのサポート」34.5%、「同じ立場や悩みを持つ人たちとの交流の場」30.9%、「SNSを活用した相談」30.9%、「正社員として就職するサポート」29.9%、「対面での相談」26.9%、「電話での相談」25.7%、「支援機関や制度の利用のための同行サポート」23.9%、「家事の支援」21.1%、「介護・看護の支援」20.6%、「育児・子育ての支援」14.5%だった。

非正規で最も多かったのは「給付金・支援金・休業手当などの金銭的な支援」で57.8%と6割近くが必要だと回答している。「支援機関や制度についての情報提供」「支援についての情報やアドバイスをもらえる機会」「住まいや住居に関する支援」は特に正規に比べて非正規の方が必要であると回答している。

図表 54 必要だと思う支援（正規・非正規別）

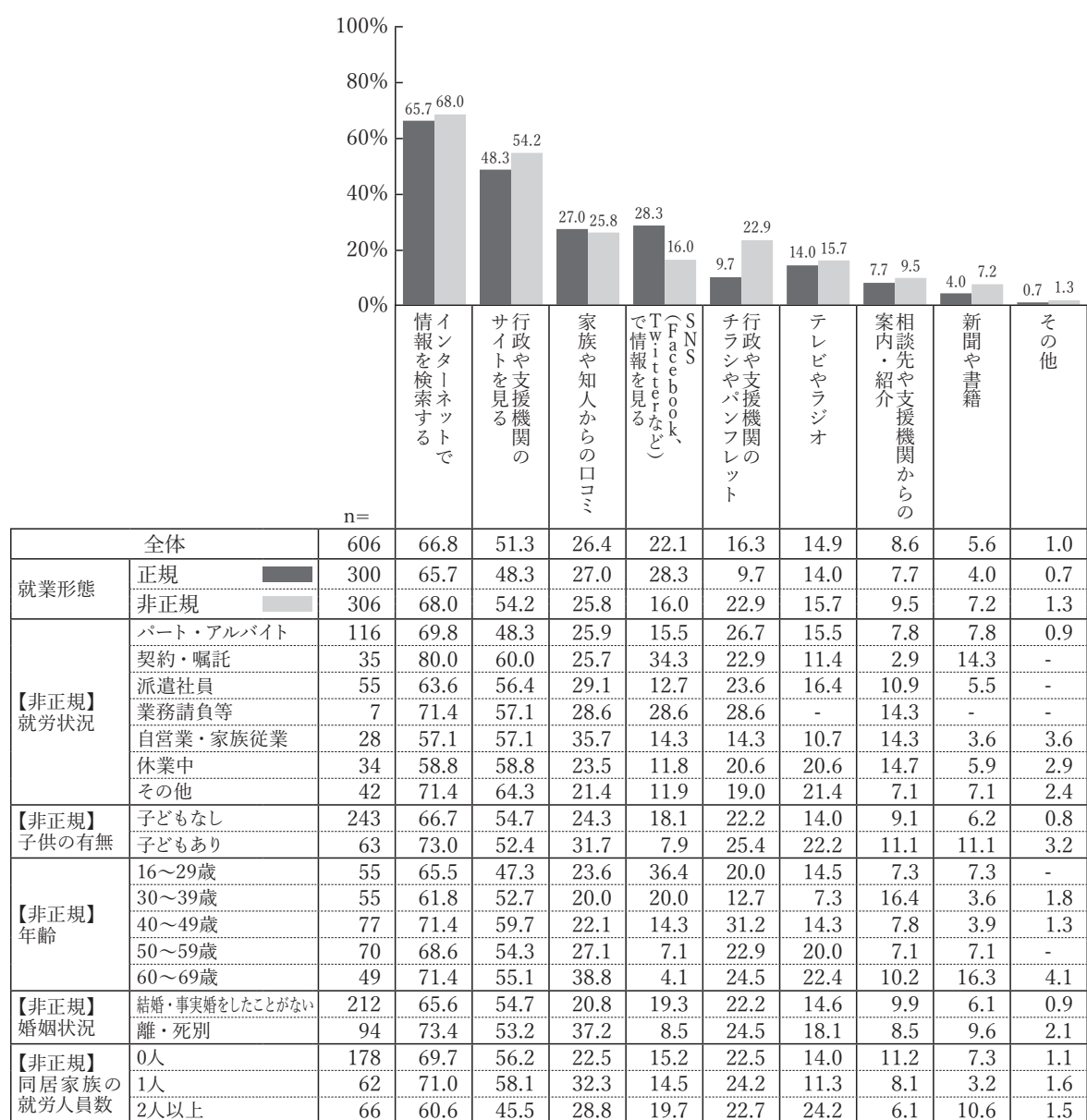


コ 支援情報の収集経路：半数以上が「インターネットで検索する」「行政や支援機関のサイトを見る」と回答

Q4_7 支援が必要だと感じる時、どこで情報を得たり、集めたりしていますか。(MA)

正規・非正規を問わず、「インターネットで情報を検索する」と回答した者の割合が最も高く、非正規 68.0%、正規 65.7%であった。次いで「行政や支援機関のサイトを見る」は非正規 54.2%、正規 48.3%、「行政や支援機関のチラシやパンフレット」は非正規が 22.9%、正規が 9.7%と非正規の方が特に大きい。非正規で「SNS (Facebook, Twitter など) で情報を見る」と回答した者の割合は、16～29 歳が 36.4%と年齢階級別では最も多く、年代が若くなるほど多くなっている傾向がある。

図表 55 情報の収集手段



※n=30未満は参考値

※全体の値を基準に降順並び替え

第2節 結果の考察

本節では、アンケート調査の結果を先の4つの分類（仕事への影響、生活への影響、心身の健康への影響、必要な支援のニーズと情報へのアクセス）に分けて、それぞれコロナ禍以前（2019年12月）と回答者にとって「最も大変だった時期」を比較しながら考察していく。

（1）仕事への影響

仕事への影響を見ると、「収入」「勤務時間」「失業」「休業」など全体的に非正規のほうが正規と比べて影響を受けていることがわかる。コロナ禍での仕事への影響で最も多かったものは、収入の減少であり、正規が24.3%であるのに比べて、非正規では32.4%に上る。このうち、非正規の51.5%は、収入が半分以下になった（「収入がなくなった」「半分より少なくなった」「半分になった」）と回答しており、収入の大幅な減少がみられる。次に、非正規では「勤務時間（シフト・勤務日数）が減った」と答えた者が多く、20.9%であるのに対し、正規は9%で、勤務時間の変化は非正規で特に見られる影響であるようだ。非正規の45.3%は、勤務時間が半分以下になった（「勤務がなくなった」「半分より少なくなった」「半分になった」）と回答している。非正規シングル女性の収入と勤務時間に大きな影響があったことがわかる。

業種・職種をみると、非正規では業種は「サービス業（他に分類されないもの）」「卸売業・小売業」「宿泊業・飲食サービス業」が多く、職種では「接客・販売」「事務職」が最も多い。これらの業種・職種は、コロナ禍での営業時間の短縮や営業自粛などから直接の影響を受けた分野であると考えられる。

また、非正規で仕事をかけもちしている者の存在が調査からわかる。複数の仕事をかけもちしないと生活が成り立たない状況があるとも考えられる。実際に、2020年の個人年収を見ると、非正規では100万円未満の者が最も多く全体の3割近くおり、300万円未満の者が7割を超えている。十分な収入があるとはいいいにくい状況のなかで、さらに仕事を複数かけもちしている場合には感染拡大などによりどれか1つでも仕事に影響があると、生活に大きな影響を及ぼすことが考えられる。

（2）生活への影響

家計のゆとり感について、非正規の66.3%が「かなり苦しい」「どちらかと言えば苦しい」と回答しており、コロナ禍での生活の厳しさがうかがえる。実際に、生活費を切り詰め（「食費を切り詰めた」30.7%、「日用品費の支出を減らした」26.1%、「医療費の支出を減らした」7.2%）、さまざまな支払いに苦労した（「住宅費の支払いに困った」10.8%、「年金や健康保険料の支払いに困った」13.4%、「水道光熱費や通信費の支払いに困った」9.5%）ようだ。特に、子どものいる非正規雇用で働く家庭の44.4%が「食費を切り詰めた」と回答して

おり、子どもへの影響が懸念される。

一方で、正規でも 46.7%が家計が苦しい（「かなり苦しい」「どちらかというとも苦しい」）と回答していることや、「食費を切り詰めた」が 16.3%、「日用品費の支出を減らした」が 15.3%と一定の影響がみられ、コロナ禍は正規・非正規を問わず、女性に大きな影響を与えたことがわかる。

（3）心身の健康への影響

コロナ禍での不安感の変化を見ると、正規・非正規問わず、不安感が高まっている。いずれも「将来・老後」「健康」への不安が特に大きい。しかし、非正規の回答を年齢階級別に見ると、若年層への影響が特にみられる。「将来・老後」「健康」に関する不安がコロナ禍以前（2019 年 12 月）と比較して増加したと回答した者は、どちらも 16～29 歳の年齢階級で最も増加している。コロナ禍で最も大変だった時期には、16～29 歳の 70.9%が「健康」について、72.7%が「将来・老後」について不安を感じたと回答している。「仕事」への不安は、コロナ禍以前（2019 年 12 月）と比べて 3 倍近く増加している。

コロナ禍で生じた心身の変化についての質問では、「気持ちが落ち込んだ」「死んでしまいたいと思うことがあった」と回答した者は非正規が多いものの、「孤立感がつものった」「眠れなくなった」は正規のほうが多く、コロナ禍による影響が正規・非正規問わず心身に現れていることがわかる。実際に調査の自由記述のなかで、コロナ禍による心身の変化について、「自分を責める気持ちが強くなった」「閉塞感があった」「親を含め、周囲からの連絡を無視していた時期がある。全てにおいてやる気がなくなった」という声があった。非正規の回答を年齢階級別にみると、16～29 歳が、コロナ禍で心身の変化があったと回答した者の割合がほぼすべての設問で最も大きくなっている。特に、「死んでしまいたいと思うことがあった」の回答を見ると、16～29 歳と 30～39 歳の年代で、それぞれ 20%と年齢階級別では最も多い。

悩みや不安の相談先を見ると、「相談できる相手はいない」と回答した者は正規に比べて非正規が若干多く、年齢階級別に見ると、非正規の 40～49 歳、50～59 歳で他の年代と比べて割合が高くなっている。「相談する必要を感じない」と回答した者も一定数存在した。

今回の調査では、それぞれの分野での具体的な不安の内容を問う設問がないため、16～29 歳が「健康」や「老後・将来」について実際にどのような不安を感じているのかなど、具体的な不安について明らかにすることができていない。これは悩みや不安の相談先にも当てはまり、「相談できる相手がいらない」と回答した者は、なぜ相談できる相手がいらないのか、「相談する必要を感じない」と回答した者は、なぜ相談の必要を感じていないのか、その理由を明らかにすることができなかった。これらの点は、今後の課題として、これからの事業のなかで明らかにしていくことが求められる。

(4) 必要な支援のニーズと情報へのアクセス

仕事と生活の支援や制度についてみると、非正規雇用では認知度もニーズも高いことがわかる。特に、「給付金・支援金・休業手当などの金銭的な支援」が大きく、これは非正規シングル女性がコロナ禍で受けた仕事や生活への影響に由来すると考えられる。

しかし、支援・制度の利用状況を見ると、支援・制度を十分に使っていない様子がわかる。「知っていたが、利用しなかった」と回答した者に対し、利用しなかった理由を聞いた結果をみると、「自分が申請対象か分からない、または分からなかった」「利用方法がわからなかったり、手続きが複雑であきらめた」と回答した者が多い。仕事や生活の支援・制度のいずれも、非正規の5割近くは「自分が申請対象かどうか分からない、または分からなかった」と回答し、3割近くが「利用方法がわからなかったり、手続きが複雑であきらめた」と回答した。

支援・制度の存在を認識しており、それを利用する希望があるにもかかわらず、実際の制度の利用に至らないのは、制度の申請や利用に対し何かしらのハードルがあるようだ。これは、必要な支援や制度についての設問で、「支援機関や制度について情報提供」や「支援についての情報やアドバイスをもらえる場」の希望が高いことからもうかがえる。

情報収集手段については、「行政のサイト」や「行政のチラシ、パンフレット」を利用している者も一定数おり、困った時には行政にアクセスするなどの行動を起こしていることがわかる。情報のアクセス先について、年齢階級別に見ると、16～29歳はSNSが多く、60～69歳は家族や知人からの口コミが多いなど、年代によって異なることがわかる。

情報へアクセスしているにもかかわらず、実際の利用につながっていない背景には、支援を必要とする人にとって、提供されている情報が分かりづらいことや、申請する際の心理的なハードルがあるのかもしれない。実際に、「このような支援を申請・利用することに心理的な抵抗があった」と回答した者も一定数見られた。情報につながった人があきらめなくて済むような、わかりやすい情報提供の方法が求められる。

第3章 課題の解決に向けて一非正規シングル女性への支援を考える一

第1節 検討委員による提言

非正規シングル女性の実情から見える必要な支援

日本女子大学人間社会学部准教授 永井 暁子

(1) 女性の置かれている状況の多様性

おおよそ1955年～1975年にかけて成立した「戦後家族モデル」は、「結婚適齢期」に結婚し、子どもは2人、女性は主婦化・男性稼ぎ主モデルという明確化した性別役割分業を特徴としていた。しかし、その後、共働き世帯割合の上昇、平均初婚年齢ならびに生涯未婚率の上昇などにみてとれるように、女性が主婦になると前提する画一的な女性、家族を基盤とした社会はすでに終焉を迎えていた。

この調査で注目したシングルも内実は多様である。シングルの中には、未婚者、離別者、死別者もいるし、一人暮らしとは限らず親と同居していたり、子と同居している方もいる。なぜこのように広くシングルをとらえたかという、結婚前の女性、あるいは結婚せずに一人暮らしをしている女性という特定のライフステージを想定することが、現代社会においては有用であるとは思えないからである。加えて、女性が抱えているケアの状態も多様である。シングル女性といえども、抱えているケアは、子育て、介護、そのほかの家族の疾病・障がいにかかわるケア、自分自身のケアを必要とした状態、障がいや疾病とは単純にくくれない状態などである。それらは「ダブルケア」「遠距離介護」、様々なケアの方略を用いて対処したり、自分自身の健康は二の次にして家族への対応を優先することさえ珍しくない（相馬他2020）。

「標準的な家族」やそれに基づいたライフコースを想定した政策はしばしば、それとは異なる集団に対して不利益をもたらす。「社会政策が・・・(中略)・・・有益である、あるいは福祉指向であるという結論に必ずしも飛びつくべきではない。・・・ある集団にとって「welfare」であることが、他の集団にとって「illfare」かもしれない」のである（岩田2016）。

本調査で着目した非正規雇用については、原因としての非正規と結果としての非正規が交じり合っているのが現実であると考えべきである。これまで歩んできた人生の中で、様々な状況、たとえばヤングケアラーにならざるをえなかった、自身が何らかの疾病や障がいをかかえていた、日本の教育制度に合わせる事が困難だった、親、保護者から十分な支援を得られなかったために、非正規雇用となった可能性がある。そして非正規雇用であるがゆえに十分なセーフティネットに乗ることができずに苦しい現状に置かれているといった両面が考えられるのである。このような視点からデータを解釈し、支援策を検討していかなければならないだろう。

(2) アンケート調査結果から見た女性の現状

アンケート調査から3点のまとめがなされた。ここでは、この3点について、補足しながら検討していこう。

①非正規雇用女性への大きな影響

調査報告のまとめ1：コロナ禍でシングル女性は正規・非正規問わず、仕事・収入・家計・心身の健康など、さまざまな面で影響を受けている。しかし、正規と比べると非正規の方がより影響を受けている。

現在非正規の女性がより大きな影響を受けているのは、現時点で非正規であるということだけではない。たとえば、初職が正規であった者の現在正規についている割合は65.7%であるのに対し、初職が正規ではなかったものは現在正規である割合は16.2%にすぎない。初職で正規雇用につくことは、履歴書を飾るだけではなく、職場で教育コストをかけてもらいスキル、能力を高める機会を持っていたことになる。このような正規での就労経験はキャリアを構築していくことにつながるが、非正規で働くことはキャリアの構築にはつながりにくい。

また、現代の日本社会において、非正規は正規と比較すると、セーフティネットとしての雇用の保障、社会保険、公的・私的年金などが、実態としては十分に機能していないことが少なくない。社会におけるセーフティネットが不十分である際に、私たちは家族や親族からの援助にしばしば頼る。本調査において、父と同居している者のなかで非正規は、同居している父が正規の割合は32.5%だったが、正規では71.4%と非正規の倍以上であった。また、母と同居している者に関して、正規非正規ともに母が無職である割合は半分程度占めるという点では類似しているが、一方、非正規では同居している母が正規の割合は5.2%であったのに対し正規では25.0%だった。正規の方が非正規よりも、自分以外の家族にも正規の割合が高いことから、正規の者は自分自身に加えてセーフティネット上にいる家族が多い可能性を示唆し、経済的にも頼りがいがある家族に恵まれている可能性が高い。

②相談相手の不十分さ

調査報告のまとめ2：不安や悩みことがあるとき、女性が友人や家族に相談するのがメイン、行政や他の社会組織に支援を求める意欲があまり高くない。

女性は男性に比べて友人をはじめとしたサポートネットワークには恵まれていることが知られている（永井 2012）。サポートには情緒的サポート、手段的サポートがあり、前者は共感したり、慰めたり精神的なサポートをさし、後者は家事やケアの手伝いや具体的な解決方法の提案、経済的援助などがある。友人・知人には情緒的サポートを求める比率が

相対的に高く、道具的なサポートは家族や親族の方が友人に比べて高い。本調査でも友人・知人や家族・親戚が相談相手として多くを占め、専門的な機関にはなかなか結び付いていないことがわかる。それと同時に、本当に支援が必要である人たち、たとえば家計がかなり苦しい人たちは、相談相手がいないとする者の割合が他と比べて高い（図表 60）。家計に「ゆとりがある」では相談相手がいないのは 8.4%であるのに対し、「どちらかといえど苦しい」では 18.4%、「かなり苦しい」では 37.7%にのぼる。

家計がかなり苦しい状況に置かれている人々は、なぜ相談相手がいない人の割合が相対的に高いのか。私たちが常日頃頼りにしている友人・知人には情緒的サポートをもらってももらうため、深刻な悩みを話したくないのかもしれない。家族・親戚にはすでに援助してもらい、これ以上頼れないのかもしれないし、家族や親戚は選択できるネットワークではないため、これまでの人生の中でよい関係であったとは限らない。どのような状況にあっても相談できる窓口が行政にはあるにもかかわらず、そこには結びついていないのが現状である。

図表 60 家計の状態別相談相手の有無（複数回答）

	友人・知人	家族・親戚	民間の相談 機関	行政の相談 機関	ケアマネ ジャーなど	その他	相談相手 なし	必要がない	
ゆとりがある ¹⁾	154 58.6%	132 50.2%	9 3.4%	2 0.8%	6 2.3%	4 1.5%	22 8.4%	39 14.8%	263
どちらかとい えど苦しい	128 48.1%	129 48.5%	12 4.5%	2 0.8%	2 0.8%	5 1.9%	49 18.4%	33 12.4%	266
かなり苦しい	29 37.7%	26 33.8%	2 2.6%	2 2.6%	1 1.3%	2 2.6%	29 37.7%	7 9.1%	77
	311	287	23	6	9	11	100	79	606

1) 「かなりゆとりがある」と「ゆとりがある」の合計

③支援を求める難しさ

調査報告のまとめ3：女性たちはニーズがあるに関わらず、支援・制度の利用状況を見ると、支援・制度を十分に使っていない様子が分かる。支援・制度の存在を認識しており、それを利用する希望があるにもかかわらず、実際に制度を利用するには至らないハードルがあるようだ。

調査報告のまとめからもわかるように、支援・制度の認識は想定していたよりも全体的に高かった。一方、利用の状況といえど必ずしも高くなかった。家計の状況別にまとめた図表 61 から「かなり苦しい」に注目してみると、支援項目全般的に「知っているが利用しなかった」は「どちらかといえど苦しい」人たちと同様の割合でいることが多く、一方では「どちらかといえど苦しい」人たちよりも「知らなかったが利用したい」割合が高い。「かなり苦しい」者は、新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金について「知っているが利用しなかった」のは 23.4%、「どちらかといえど苦しい」者も 23.7%で

ある。「かなり苦しい」人たちは「必要がない」の回答の割合は他のグループに比べて圧倒的に低い。同支援金について、「かなり苦しい」人たちは16.9%に過ぎない。支援・制度について知らない人は、支援・制度を必要のない人とされてしまいがちである。行政においても知らないことによって潜在化している必要がある人を見つけ出すのは非常に難しい。「知っているが利用しなかった」「必要ない」と回答する人たちのなかにも、必要があるのではないかと思われる人、例えばこの表のように家計が「かなり苦しい」人々がいると思われる。

図表 61 家計の状況別新型コロナウイルス感染症に関わる生活支援

新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金						
	知っており 利用した	知っているが 利用しなかった	知らなかったが 利用したい	知らなかったが 利用したくない	必要ない	合計
ゆとりがある ¹⁾	1.1%	12.5%	6.5%	7.2%	72.6%	100.0%
どちらかといえば苦しい	0.0%	23.7%	19.2%	17.7%	39.5%	100.0%
かなり苦しい	0.0%	23.4%	37.7%	22.1%	16.9%	100.0%
生活困窮者自立支援制度						
ゆとりがある	0.8%	11.8%	5.3%	8.7%	73.4%	100.0%
どちらかといえば苦しい	0.8%	25.6%	17.3%	16.2%	40.2%	100.0%
かなり苦しい	0.0%	26.0%	33.8%	24.7%	15.6%	100.0%
生活保護						
ゆとりがある	1.1%	16.7%	3.8%	4.9%	73.4%	100.0%
どちらかといえば苦しい	2.3%	36.5%	8.6%	9.8%	42.9%	100.0%
かなり苦しい	5.2%	48.1%	7.8%	18.2%	20.8%	100.0%
住居確保給付金						
ゆとりがある	0.4%	9.5%	7.6%	6.5%	76.0%	100.0%
どちらかといえば苦しい	0.4%	17.7%	22.2%	16.2%	43.6%	100.0%
かなり苦しい	5.2%	20.8%	31.2%	22.1%	20.8%	100.0%
川崎市勤労者生活資金貸付制度						
ゆとりがある	0.4%	8.0%	9.5%	7.6%	74.5%	100.0%
どちらかといえば苦しい	0.4%	14.3%	16.5%	25.2%	43.6%	100.0%
かなり苦しい	0.0%	18.2%	35.1%	31.2%	15.6%	100.0%
川崎市居住支援制度（川崎市居住支援協議会）						
ゆとりがある	0.4%	7.6%	8.4%	8.4%	75.3%	100.0%
どちらかといえば苦しい	0.0%	14.3%	24.8%	18.4%	42.5%	100.0%
かなり苦しい	0.0%	16.9%	37.7%	29.9%	15.6%	100.0%
水道料金の支払いの猶予や減免						
ゆとりがある	0.4%	11.4%	10.6%	5.7%	71.9%	100.0%
どちらかといえば苦しい	0.0%	16.5%	25.9%	16.2%	41.4%	100.0%
かなり苦しい	1.3%	23.4%	37.7%	19.5%	18.2%	100.0%
国民年金保険料の免除・猶予						
ゆとりがある	4.6%	12.5%	7.6%	5.3%	70.0%	100.0%
どちらかといえば苦しい	7.5%	21.4%	17.3%	13.9%	39.8%	100.0%
かなり苦しい	13.0%	29.9%	22.1%	16.9%	18.2%	100.0%
フードバンク等食料の配布						
ゆとりがある	0.8%	9.5%	11.0%	7.2%	71.5%	100.0%
どちらかといえば苦しい	1.5%	17.3%	21.8%	13.9%	45.5%	100.0%
かなり苦しい	1.3%	13.0%	31.2%	27.3%	27.3%	100.0%
川崎市男女共同参画センターでの生理用品の配布						
ゆとりがある	0.4%	9.5%	12.2%	8.0%	70.0%	100.0%
どちらかといえば苦しい	0.0%	13.5%	22.9%	13.9%	49.6%	100.0%
かなり苦しい	1.3%	13.0%	27.3%	24.7%	33.8%	100.0%
低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金						
ゆとりがある	1.1%	7.6%	5.3%	6.8%	79.1%	100.0%
どちらかといえば苦しい	1.9%	10.2%	13.5%	12.4%	62.0%	100.0%
かなり苦しい	2.6%	10.4%	13.0%	16.9%	57.1%	100.0%
小学校休業等対応助成金・支援金						
ゆとりがある	0.4%	8.4%	6.1%	5.7%	79.5%	100.0%
どちらかといえば苦しい	0.0%	10.5%	12.8%	11.7%	65.0%	100.0%
かなり苦しい	1.3%	10.4%	14.3%	14.3%	59.7%	100.0%

1) 「かなりゆとりがある」と「ゆとりがある」の合計

(3) 求められる支援と課題

今回は家計の状況の変数を使った集計結果を補足として用いた。家計の状況というのは、主観的な調査項目で行政からすると把握しにくい項目でもある。この主観的に家計の状況を捉えた変数は何を指すのか不明確だとの指摘もあるが、これまで様々な調査において使用してきた経験からすると、主観的な健康度と同様に、他の変数との関連がよく見られるのも事実である。各世帯の経済の状況というのは、収入がいくらかが分かっても、その世帯にとって必要な支出がいくらかは個別性が高く、家計調査のようなデータとともに世帯員の健康状態などの情報が必要となる。簡便に生活状況をとらえるという意味で、主観的な家計状況を把握する調査項目がしばしば用いられるのである。前章までの調査集計とあわせて浮かび上がったいくつかの課題について検討していこう。

ケアへの影響の個別性

コロナの感染拡大以降最も大変だった時期として多くの者が選んだのは、7都道府県に緊急事態宣言が出た頃であった。この時期は、問題の在処、解決方法が見えない時期であった。経験のない被災状況であったと言ってもいい。このような時期は、収入の低下、ケアの負担増など、個別性の高さが際立っていた。

セーフティネットの再考

非正規女性は正規女性に比べて、雇用、収入が不安定であり、十分なセーフティネットにのっているとはいえない。非正規であることは実質的にも困難な状況を示す擬似変数の意味もあっただろう。最も利用されていた国民年金保険料の免除・猶予等は一時的に必要な支援であるが、将来の年金額は低下する等、将来に負を繰延しているに過ぎない。住民に対して直接支援する現場では、単純な基準にのみに頼れない難しさがあるが、抜け落ちる住民が少ないようにセーフティネットを張るための工夫があることが望ましい。「必要ない」とする人々の中の必要性をいかに拾うかが課題となる。

就労経験・キャリアの構築

初職が非正規の場合はその後のキャリア構築が難しい。女性職、とくにピンクカラージョブといわれる看護師・保育士・介護士・販売・秘書などについて、看護師などを抜かせば他の仕事に比べて非正規雇用の比率が高い。失業、転職に備えて、就労経験・キャリアの構築の必要性がある。非正規はスキルを高める機会が限られているため、国や教育機関と連携して個人のスキルを高め、それを実践していく場につなげていくことができないだろうか。苦しい状況から一時的な避難も必要であり、またその状況から脱するための支援につながることが重要である。

すでに川崎市では多様な支援が行われている。たとえばフードバンクなどは、岩田(2016)がいうところの「見知らぬ他人との連帯」による地域の個別支援へとつながっている。今後、いかに現状ではある支援の仕組みを人々につなげていくかが重要なポイントになるだろう。

参考文献

- 岩田正美, 2016, 『社会福祉のポトスー社会福祉の新たな解釈を求めてー』有斐閣.
- 落合恵美子, 2004, 『21 世紀家族へ (第 3 版)』有斐閣.
- 相馬直子・山下順子, 2020, 『ひとりでやらない 育児・介護のダブルケア』ポプラ社.
- 永井暁子, 2012, 「結婚歴による生活満足度の差異 (特集 現代社会における女性と家族への計量的アプローチ)」『社会学研究』(90), 39-53.

第2節 男女共同参画センターでの事業への展開について

本アンケート調査では、これまで明らかにされてこなかった川崎市の非正規雇用で働くシングルの女性たちがコロナ禍でどのような影響を受けたのか、具体的な仕事や生活等の変化を示すことができた点で一定の意義があると考ええる。ここからは、アンケート調査の結果から見えてきた川崎市の非正規シングル女性が受けたコロナ禍での影響をもとに、非正規シングル女性に対する支援の可能性について検討していきたい。

(1) 現金給付をはじめとする金銭的支援へのニーズ

第1章の背景で挙げたように、非正規シングル女性はコロナ禍の前から、不安定な状況に置かれていた。コロナ禍以前から存在する雇用の不安さは非正規シングル女性へ打撃をもたらすことになった。仕事への影響として、コロナ禍以前とコロナ禍で最も大変だった時期の比較において、収入の減少や勤務時間の減少、失業した女性が多く存在し、実際に収入や勤務時間に影響があったと回答した非正規の半数近くが、収入や勤務時間が半分以下になったと回答した。家計についても、非正規の半数以上が「苦しい」「やや苦しい」と回答しており、生活に困窮した様子がうかがえる。個人年収は100万円未満がもっとも多く全体の3割を占めている。実際に、必要な支援として「給付金・支援金・休業手当などの金銭的な支援」と回答した者が最も多く、まずは生活を維持するために、現金給付を含めた金銭的な支援が求められていることがわかる。非正規シングル女性たちは、まさに経済的に困難な状況におかれている。川崎市男女共同参画センターではこれまでも女性の就業支援として、女性限定で無料の「再就職・転職・就労継続のための個別キャリア相談」や地域の団体と協働したパソコン講座等さまざまな事業を実施してきた。これからもセンターでは女性の就業支援をソフト面からサポートしていきたい。本調査で見えてきた、現金給付をはじめとした金銭的な支援などハード面での支援については、今後の検討課題である。

(2) 分かりやすい情報提供の工夫と利用のサポート

調査結果からは、非正規シングルの女性たちは、行政等に対し支援を求める行動を取っていた様子がうかがえる。仕事や生活に関する支援・制度についての認知度は正規に比べて高く、各支援・制度についての一定のニーズも見える。このような状況にも関わらず、仕事や生活に関する支援・制度を利用した者の割合は多いとは言えない結果であった。この認知度・ニーズと実際に利用状況のギャップの背景に何があるのか考え、ギャップの解消を目指すことが取り組むべき1つの課題であると考ええる。

このギャップの原因として、支援・制度の分かりにくさや利用の心理的ハードルの存在が考えられる。支援・制度を知っていたにも関わらず利用しなかった理由として、「自分が対象かどうかわからなかった」が最も多く、次に「申請が複雑であきらめた」が挙げら

れている。「このような支援を申請・利用することに心理的な抵抗があった」も一定数見られる。さらに、非正規では、情報収集の手段として、行政のサイトにアクセスすることが多いことや、行政や支援団体等のチラシ・パンフレットを手にとっている者も一定数いることが分かった。情報にアクセスしていながらも利用につながらないのには、行政が提供している情報が分かりにくいものになっているのかもしれない。行政の提供する情報を分かりやすいものにすることや ICT を活用した届け方の工夫など、多くの人にとって分かりやすく使いやすい情報の提供が求められる。

同時に、利用や申請へのハードルを下げる方法として、同行支援の検討も必要である。同行支援とは、支援が必要な人が福祉や自立支援の窓口を訪れる際に、支援者が同行し、支援者を必要としている人に寄り添って利用のサポートをすることである。調査結果では、情報提供や支援・制度の利用や申請のためのアドバイスについてのニーズが高く、「自分が対象かわからない」「申請が複雑でわからない」と感じている非正規シングル女性にとっては、支援・制度に詳しい支援者が同行することで、疑問や不安が減少し、支援へつながる一歩になると考える。コロナ禍で非正規シングル女性は仕事や生活、心身に大きな影響を受けている。当面の支援の形として同行支援の可能性が考えられるだろう。

(3) サテライト型のスペースづくり

川崎市男女共同参画センターの認知度について、2018 年に、満 20 歳以上（2018 年 9 月 1 日時点）の市内在住者 3500 人（単純無作為抽出）を対象に実施した「かわさきの男女共同参画に関するアンケート調査」では、川崎市男女共同参画センターについて聞いたことがある者は女性回答者のおよそ 3 割、事業の内容まで知っているとは回答した者は 1 割に満たなかった。今回の調査でも、センターで実施していた生理用品の無料配布へのニーズが非正規・正規ともに高いことが分かったが、実際に生理用品の無料配布を利用したとは回答した者は少なく、認知度が残念ながら高いとは言えない結果であった。川崎市は 150 万人を超える人口にもかかわらず、男女共同参画センターは 1 館しかなく、人口 370 万人の横浜市が 3 館、110 万人の宮城県仙台市が 2 館設置していることを考えても、十分であるとはいえないだろう。

そこでセンターでできる課題解決のための手段として、来館型に限らない事業の方向性の検討が必要である。コロナ禍では、リアルで参加者を集めた事業の実施が難しい代わりに、オンラインを活用した遠隔での事業を実施してきた。コロナ禍への対応に留まらず、地理的な課題の解決のためにも、オンラインまたはオンライン併用の事業の実施は今後も継続していく必要があると考える。

また、もう 1 つの方向性として、センターから地域へ出ていく事業が考えられる。例えば、サテライトスペースのような形で、公共施設に限らず、非正規シングル女性がアクセスしやすい場所にサテライト型の居場所を用意することで、相談機関や支援・制度の情報を提供する新たな機会を創出できるのではないか。そのためには地域の団体・企業等とよ

り一層の連携が必要であると考え。地域に溶け込む形で居場所を提供することで、行政とつながる心理的なハードルを下げられるのではないだろうか。

地域との連携は、情報発信の課題の解決にもつながると考える。地域のチャネルを活用することで、センターがこれまでアプローチできていなかった層にもアプローチできるかもしれない。また、多様な行政機関のチャネルを活用し、例えば LINE やアプリなどを使用した全戸対象の情報発信など、行政の強みを生かした広報との連携が必要である。

最後に、コロナ禍での心身への影響についての取り組みの検討も必要である。アンケート調査では、仕事や健康、将来・老後などすべての項目で不安感が増加しており、「気分が落ち込んだ」「孤立感がつもの」「眠れなくなった」など心身に影響が表れている様子がわかる。特に、非正規では「死んでしまいたいと思うことがあった」と回答した人の割合が正規に比べて高く、気持ちの面で深刻な影響を受けていることがわかる。心身への影響を年齢階級別にみると、いずれの項目も 16～29 歳が最も高く 7 割近くあり、若年層への影響が特にみられる。この背景としては、あくまで仮説ではあるが、アンケート調査の結果を見る限り、収入の減少や失業等の仕事への影響、仕事への影響を受けた生活の困窮、人と会うことが難しくなり孤独や孤立感が高まったことが考えられるだろう。特に、若者のコロナ禍での孤立については、先行調査でも明らかになっている。日本赤十字社が行った『新型コロナ禍と若者の将来不安に関する調査（2021 年）』では、「2020 年 4 月の緊急事態宣言から 2021 年 9 月の宣言解除までの期間に起きた若者の心の変化」として、大学生の 35%が「孤独を感じ 1 人でいるのが不安」、大学生の 20%が「自分に価値を感じない、他者から必要とされない」と感じていると回答している。「生きていることに意味を感じない、死ぬことを考える」と回答した者も大学生で 11%おり、これはセンターでの今回の調査から見えてくる状況に近いものがある。しかし、今回のセンターの調査では、不安や孤立感の原因を問う設問を設定しておらず、実際に非正規シングル女性が抱えている不安や孤立感の原因を知ることはできなかった。今後の非正規シングル女性を対象とした事業のなかで、引き続き明らかにしていくことが求められる。

このように、アンケート調査の結果を踏まえて、川崎市男女共同参画センターでの事業の可能性を考察してきた。センターの強みは、地域に根差した公の施設として、市民にアクセスしやすい点にあるだろう。先述の「個別キャリア相談」だけでなく、女性のための電話総合相談「ハローウィメンズ 110 番」など、非正規シングル女性がつながる入り口となれる事業はこれまでも提供してきた。これからは、来館型に留まらない、地域に出向いていくサテライト型の居場所事業等によって、これまでセンターを利用していなかった層に対しての新たな入り口の可能性にできると考える。まずはセンターのさまざまな事業を入り口に、その後、支援を求める非正規シングル女性が必要な支援を提供できる行政や支援団体へつなげていくことがセンターに求められているのではないか。その際には同行支援のなかで課題整理に寄り添うことなども必要であろう。そこでは行政や地域の団体の協力を得て、取組を進めていくことも重要である。センターが行政や地域をつなげていく

パイプ役となり、川崎に暮らす非正規シングル女性が直面する困難の解決を図っていけるよう、役割を果たしていくことが求められている。

参考文献

- 江原由美子（2015）「見えにくい女性の貧困―非正規問題とジェンダー―」小杉礼子・宮本みち子編著『仮想化する女性たち 労働と家庭からの排除と貧困』勁草書房、第2章、pp.45-72
- 川崎市（2018）「川崎市の就業構造―平成29年就業構造基本調査結果―」
<https://www.city.kawasaki.jp/170/cmsfiles/contents/0000103/103582/2017shuugyoukouzu.pdf>（2022年3月23日アクセス）
- 川崎市（2021a）「令和2年国勢調査結果報告書（人口等基本集計結果）」
<https://www.city.kawasaki.jp/170/cmsfiles/contents/0000137/137722/jinnko1.pdf>（2022年3月21日アクセス）
- 川崎市（2021b）「令和2年国勢調査結果（確定値）概要」
<https://www.city.kawasaki.jp/170/page/0000135470.html>（2022年3月17日アクセス）
- 川崎市男女共同参画センター（2020）「データでみる かわさきの男女共同参画2020」
https://www.scrum21.or.jp/wp/wp-content/uploads/2020/04/databook2020_all.pdf（2022年3月21日アクセス）
- 厚生労働省（2021）「令和3年版厚生労働白書」
<https://www.mhlw.go.jp/content/000810636.pdf>（2022年3月12日アクセス）
- 総務省（2021）「労働力調査（詳細集計）2020年（令和2年）平均」
<https://www.stat.go.jp/data/roudou/rireki/nen/dt/pdf/2020.pdf>（2022年3月14日アクセス）
- 内閣府男女共同参画局（2021a）「令和3年度版男女共同参画白書」
https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r03/zentai/index.html（2022年3月12日アクセス）
- 内閣府男女共同参画局（2021b）「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会報告書～誰一人取り残さないポストコロナの社会へ～」
https://www.gender.go.jp/kaigi/kento/covid-19/siryo/pdf/post_honbun.pdf（2022年3月14日アクセス）
- 永瀬伸子（2018）「非正規雇用と正規雇用の格差―女性・若年の人的資本拡充のための施策について」（2017年労働政策研究会議報告 非正規社員の処遇をめぐる政策課題）--（パネルディスカッション）、日本労働研究雑誌、60（691）、pp.19-38
- 永瀬伸子（2021）「女性のライフコースの変化に合わせた社会保障と雇用慣行の変革」永瀬伸子・寺村絵里子編著『少子化と女性のライフコース』原書房、第1章、pp.189-211
- 西村幸満（2021）「単身女性の生活保障 - 家族と雇用に注目して」IPSS Working Paper Series (J)、(46)、pp.1-35
- 永濱利廣（2022）「コロナ禍における女性雇用の実態と課題 日本の労働市場を変える非接触化経済」独立行政法人国立女性教育会館編集『NWEC 実践研究 第12号』、第3章、

pp.49-63

日本赤十字社（2021）「新型コロナ禍と若者の将来不安に関する調査（2021年）」

宮本みち子（2015）「課題の設定－労働と家庭からの排除と貧困」小杉礼子・宮本みち子
編著『仮想化する女性たち 労働と家庭からの排除と貧困』勁草書房、序章、pp.1-20

参考資料：アンケート調査票

1. あなた自身のことについて伺います。

1. お住まいの区をお答えください。

川崎区／幸区／中原区／高津区／宮前区／多摩区／麻生区

2. あなたの年齢をお答えください。

歳

3. 現在の婚姻状況について、当てはまるものを1つお答えください。

結婚・事実婚をしたことがない／離別／死別／既婚

4. あなたの最終学歴をお答えください。

中学校卒業／高校卒業／高校中退／短大・高専卒業／短大・高専中退／大学卒業／

大学中退／大学院修了／大学院中退／その他（具体的に： ）／

在学中（具体的に： ）

5. 現在のお住まいについて伺います。あなたのお住まいにかかる費用について、当てはまるものを1つお答えください。※当てはまらない場合には、「その他」を選択し、具体的にご記入ください。

持ち家（自分が全額負担）／持ち家（自分が一部負担）／持ち家（家族が全額負担）／

賃貸住宅（自分が全額負担）／賃貸住宅（自分が一部負担）／賃貸住宅（家族が全額負担）

その他（具体的に ）

6. あなたが現在同居している方をすべてお答えください。（いくつでも）

ひとり暮らし／あなたの父／あなたの母／あなたの祖父／あなたの祖母／

あなたのきょうだい／あなたの子ども／あなたの子どもの配偶者／あなたの孫／

その他（親族）／その他（親族ではない）

7. 同居している父親の就労状態について、当てはまるものを1つお答えください。

就労している（正社員・正職員）／就労している（パート・アルバイト、契約・嘱託、

派遣社員、業務請負）／就労している（自営業・家族従業）／就労していない／その他

（具体的に ）

8. 同居している母親の就労状態について、当てはまるものを1つお答えください。

就労している（正社員・正職員）／就労している（パート・アルバイト、契約・嘱託、

派遣社員、業務請負）／就労している（自営業・家族従業）／就労していない／その他

（具体的に ）

9. 現在あなたが介護や看病をしている家族はいますか？当てはまるものをすべてお答えください。（それぞれいくつでも）

	同居	別居
特にいない		
あなたの父		
あなたの母		
あなたの祖父		
あなたの祖母		
あなたのきょうだい		
その他（親族）		
その他（親族ではない）		

10. お子さんについて伺います。 お子さんは何人いらっしゃいますか？

0人（子どもなし）／1人／2人／3人／4人／5人以上

11. お子さんについて伺います。あてはまるものを1つお答えください。

12. 同別居についてお答えください。（それぞれひとつずつ）

	同居	別居
1番上の子		
2番目の子		
3番目の子		
4番目の子		
5番目の子		

13. 子の年齢についてお答えください。(それぞれひとつずつ)

	3歳未満	3～6歳 (未就学)	小学生	中学生	高校生	18歳以上の学生 (高校生除く)	15歳～18歳で就学していない	19歳以上で就学していない
1番上の子								
2番目の子								
3番目の子								
4番目の子								
5番目の子								

14. 就労についてお答えください。(それぞれひとつずつ)

	就労している (正社員・正職員)	就労している (パート・アルバイト、 契約・嘱託、派遣社員、業務請負)	就労している (自営業・家族従業)	就労していない	その他
1番上の子					具体的に ()
2番目の子					具体的に ()
3番目の子					具体的に ()
4番目の子					具体的に ()
5番目の子					具体的に ()

15. 子どもの婚姻状況についてお答えください。（それぞれひとつずつ）

	結婚・事実婚をしている	離別	死別	結婚・事実婚をしていない
1 番上の子				
2 番目の子				
3 番目の子				
4 番目の子				
5 番目の子				

16. 新型コロナウイルス感染症拡大（2020 年 1 月）以降、あなたが最も大変だった時期はいつ頃ですか。

□□ 年 □□ 月頃

17. 新型コロナウイルス感染症拡大前（2019 年 12 月以前。以下、感染拡大前とする）と比べて、あなた自身の家事・育児・子育て・介護・看病にかかる時間にどのような変化がありましたか。当てはまるものをそれぞれお答えください。（それぞれひとつずつ）

	増えた	変わらない	減った
家事の時間			
育児・子育ての時間			
介護・看病の時間			

2. あなたのお仕事について伺います。

18. 学校を卒業（中退）した後の最初のお仕事について伺います。当てはまるものをすべてお答えください。現在就学中の方は、卒業・中退に限らず、初めて就いたお仕事についてお答えください。（いくつでも）

正社員・正職員／パート・アルバイト／契約・嘱託／派遣社員／業務請負／
自営業・家族従業／その他（具体的に ）

19. あなたの現在のお仕事について伺います。当てはまるものをすべてお答えください。
(いくつでも)

正社員・正職員／パート・アルバイト／契約・嘱託／派遣社員／業務請負／
自営業・家族従業／その他（具体的に ）

20. これまでの就業年数について伺います。仕事をしていない期間がある場合は、その期間を除いて、これまで仕事をしている年数はおよそ何年ですか？就業期間が1か月未満の場合は、1か月としてご記入ください。

年 ヶ月

21. そのうち非正規（パート・アルバイト、契約・嘱託、派遣社員、業務請負）で働いていたのは何年になりますか。就業期間が1か月未満の場合は、1か月としてご記入ください。

年 ヶ月

22. 現在のお仕事の業種について伺います。複数の仕事をかけもちしている場合は、当てはまるものをすべてお答えください。(いくつでも)

建設業／製造業／情報通信業／運輸業、郵便業／卸売業、小売業／金融業、保険業／
不動産業、物品賃貸業／学術研究、専門・技術サービス業／宿泊業、飲食サービス業
生活関連サービス業、娯楽業／教育、学習支援業／医療、福祉／
サービス業（他に分類されないもの）／その他（具体的に ）

23. 現在のお仕事の職種について伺います。複数の仕事をかけもちしている場合は、当てはまるものをすべてお答えください。(いくつでも)

事務職／営業職／専門・技術職／医療・福祉職／教育職／接客・販売／
現業（工場、清掃、軽作業等）／農・林・漁業に関わる職／その他（具体的に ）

24. 2020年のあなた自身の年収（税込み）について伺います。年金なども含めたすべての収入について、当てはまるものを1つお答えください。

100万円未満／100万円以上200万円未満／200万円以上300万円未満／
300万円以上400万円未満／400万円以上500万円未満／500万円以上600万円未満／
600万円以上700万円未満／700万円以上800万円未満／800万円以上／
収入はなかった

25. 2020年の世帯年収（税込み）について伺います。年金なども含めたすべての収入について、当てはまるものを1つお答えください。

100万円未満／100万円以上200万円未満／200万円以上300万円未満／
300万円以上400万円未満／400万円以上500万円未満／500万円以上600万円未満／
600万円以上700万円未満／700万円以上800万円未満／800万円以上／
収入はなかった

26. 感染拡大前（2019年12月以前）から現在までの間で、仕事の面でどのような影響がありましたか。当てはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）

就職した／転職した／失業した（会社側の原因により）／失業した（自己都合により）／
休業・休職した（会社側の原因により）／休業・休職した（自己都合により）／

収入が減った／収入が増えた／勤務時間（シフトや勤務日数）が減った／

勤務時間（シフトや勤務日数）が増えた／その他（具体的に ）／特に影響はなかった
（「収入が減った」と回答した場合）

27. 感染拡大前（2019年12月以前）と感染拡大後のあなたが最も大変だった時期を比べて、どの程度変化があったか、当てはまるものを1つお答えください。※当てはまらない場合には、「その他」を選択し、具体的にご記入ください。収入はどの程度減ったかをお選びください。

収入がなくなった／半分より少なくなった／半分になった／少し減った／

わずかに減った／その他（具体的に ）

（「勤務時間（シフトや勤務日数）が減った」と回答した場合）

28. 感染拡大前（2019年12月以前）と感染拡大後のあなたが最も大変だった時期を比べて、どの程度変化があったか、当てはまるものを1つお答えください。※当てはまらない場合には、「その他」を選択し、具体的にご記入ください。勤務時間はどの程度減ったかをお選びください。

勤務がなくなった／半分より少なくなった／半分になった／少し減った／

わずかに減った／その他（具体的に ）

29. コロナ禍で家計にどのような影響がありましたか？当てはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）

住宅費（家賃、住宅ローン）の支払いに困った／水道光熱費や通信費の支払いに困った
年金や健康保険料の支払いに困った／食費を切り詰めた／日用品費の支出を減らした
子どもの教育費の支出を減らした／医療費の支出を減らした／新たな支出が増えた／
特に影響はなかった／その他（具体的に ）

3. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による気持ちの変化について伺います。

30. 以下の項目について、感染拡大前（2019 年 12 月以前）と最も大変だった時期に感じていた不安感をそれぞれお答えください。（それぞれひとつずつ）

	2019 年 12 月以前					最も大変だった時期				
	不安はなかった	あまり不安はなかった	どちらとも言えない	やや不安	不安	不安はなかった	あまり不安はなかった	どちらとも言えない	やや不安	不安
仕事										
健康										
将来・老後										
家族の介護や育児										
家族・親族関係										
職場の人間関係										

31. コロナの拡大により生じた心身の変化について伺います。具体的にどのような変化がありましたか？当てはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）

眠れなくなった／気持ちが落ち込んだ／孤立感がつのった／

死んでしまいたいと思うことがあった／その他（具体的に ）／

特に変化はなかった

32. お宅の現在の家計の状態についてどのようにお考えですか。当てはまるものを 1 つお答えください。

かなりゆとりがある／どちらかといえばゆとりがある／どちらかといえば苦しい／

かなり苦しい

4. 新型コロナウイルス感染症に関する支援と情報へのアクセスについて伺います。

33. あなたは悩みや不安があるとき、誰に相談していますか？あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）

友人・知人／家族・親戚／民間の相談機関（医者、カウンセラー含む）／

行政の相談機関／子どもの学校の先生・カウンセラー、保育士、発達センタースタッフ

など、子育てにかかわる専門家／ケアマネージャーなど、介護にかかわる専門家／その

他（具体的に ）／相談できる相手はいない／相談する必要を感じない

34. 新型コロナウイルス感染症に関わる生活支援を提供する以下の支援や制度について伺います。支援や制度について、当てはまるものをそれぞれお答えください。（それぞれひとつずつ）

	知っており、利用した	知っているが、利用しなかった	知らなかったが、利用してみたい	知らなかったが、利用したくない	必要ない
新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金					
生活困窮者自立支援制度					
生活保護					
住居確保給付金					
川崎市勤労者生活資金貸付制度					
川崎市居住支援制度（川崎市居住支援協議会）					
水道料金の支払いの猶予や減免					
国民年金保険料の免除・猶予					
フードバンク等食料の配布					
川崎市男女共同参画センターでの生理用品の配布					
低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金					
小学校休業等対策助成金・支援金					

35. この他に利用した支援や制度があれば教えてください。

（ ）

36. 34 について、「知っているが、利用しなかった」と回答した方に伺います。利用に至らなかった理由は何ですか？理由に特に当てはまるものを最大3つまで選んでください。（3つまで）

自分が申請対象かどうか分からない、または、分からなかった／利用方法がわからなかったり、手続きが複雑であきらめた／準備・申請する時間なかった／支援を受けられるまでの期間が長く待てなかった・あきらめた／このような支援を申請・利用することに心理的な抵抗があった／支援内容がニーズに合っていなかった／必要がなかった／該当しなかった／その他（具体的に ）

37. 仕事に関わる支援を提供する以下の機関や制度について知っていますか？当てはまるものをそれぞれお答えください。（それぞれひとつずつ）

	知っており、利用した	知っているが、利用しなかった	知らなかったが、利用してみたい	知らなかったが、利用したくない	必要ない
休業手当					
新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金					
雇用調整助成金					
傷病手当金					
ハローワーク					
女性のための個別キャリア相談（川崎市男女共同参画センター）					
川崎市シルバー人材センター					
かわさき若者サポートステーション（コネクションズかわさき）					
キャリアサポートかわさき（川崎市就業支援室）					

38. この他に利用した支援や制度があれば教えてください。

（ ）

39. 37 の支援機関や制度について、「知っているが、利用しなかった」と回答した方に伺います。利用に至らなかった理由は何ですか？理由として特に当てはまるものを最大3つまでお答えください。(3つまで)

自分が申請対象かどうか分からない、または、分からなかった／利用方法がわからなかったり、手続きが複雑であきらめた／準備・申請する時間なかった／支援を受けられるまでの期間が長く待てなかった・あきらめた／このような支援を申請・利用することに心理的抵抗があった／支援内容がニーズに合っていなかった／必要がなかった／該当しなかった／その他(具体的に)

40. 以下の支援について、あなたが必要だと思うものはありますか？それぞれの支援についてお答えください。(それぞれひとつずつ)

		必要 ない	あ ま り 必 要 は な い	や や 必 要	必 要
1	給付金・支援金・休業手当などの金銭的な支援				
2	住まいや住居に関する支援				
3	家事の支援				
4	育児・子育ての支援				
5	介護・看護の支援				
6	支援機関や制度についての情報提供				
7	支援機関や制度の利用のための同行サポート				
8	就職・転職・キャリアアップのサポート				
9	正社員として就職するサポート				
10	資格取得や職業訓練の支援				
11	心身がリフレッシュできる場				
12	同じ立場や悩みを持った人たちとの交流の場				
13	SNS を活用した相談				
14	電話での相談				
15	対面での相談				
16	支援についての情報やアドバイスをもらえる機会				

41. この他に必要だと思う支援や参加してみたい場があれば具体的に教えてください。

()

42. 支援が必要だと感じる時、どこで情報を得たり、集めたりしていますか。当てはまるものすべてお答えください。(いくつでも)

行政や支援機関のサイトを見る／行政や支援機関のチラシやパンフレット／インターネットで情報を検索する／テレビやラジオ／新聞や書籍／SNS(Facebook、Twitter など)で情報を見る／家族や知人からの口コミ／相談先や支援機関からの案内・紹介／その他(具体的に)

川崎市におけるコロナ禍での非正規シングル女性に対する影響調査
アンケート調査報告書

【発行者】川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）

【発行年月】令和4（2022）年3月

【連絡先】〒213-0001 神奈川県川崎市高津区溝口2-20-1

TEL 044-813-0808 / FAX 044-813-0864

本調査は令和3年度地域女性活躍推進交付金による事業として実施しました。